

COVID-19 に関する 学校事務職員 緊急アンケート 調査結果

2020年8月

現代学校事務研究会
学校事務法令研究会
『学校事務』編集部

「COVID-19に関する学校事務職員 緊急アンケート調査結果」目次

「COVID-19に関する学校事務職員 緊急アンケート」の概要	3
「COVID-19に関する学校事務職員 緊急アンケート」調査結果	4
Q 1 現在、COVID-19 関連の対応・対策で困っていることがあれば教えてください。	4
Q 2 今後の検討課題となっていることがあれば教えてください。	16
Q 3 貴校独自に工夫していることがあれば教えてください。	25
Q 4 他校ではどのような対策を講じているのか、気になることがあったら教えてください。	34
Q 5 コロナ禍によって、あらためて気づかされたことはありますか？	38
Q 6 休校前・休校中・学校再開後等に、事務職員として「事務だより」などで、 児童・生徒、保護者、教員に向けて何か情報発信をしましたか？ それはどんな内容ですか？	47

「COVID-19に関する学校事務職員 緊急アンケート」の概要

1. 調査主体

現代学校事務研究会
学校事務法令研究会
『学校事務』編集部

2. 調査目的

①学校におけるCOVID-19対応について、学校事務職員の視点から現状および問題点等を探り、さらに、
②本アンケート調査結果を『学校事務』誌上で公表し、情報の共有化を図ることによって、学校現場におけるCOVID-19対応・対策の改善、スキルアップ、問題解決に資することを目的とする。

3. 調査方法

質問紙によるアンケート調査（すべて自由記述方式）

4. 調査実施時期

2020年6月24日～7月6日

5. 調査対象

全国の公立小中学校等の学校事務職員120名

6. 調査項目

- ①現在、COVID-19関連の対応・対策で困っていることがあれば教えてください。
- ②今後の検討課題となっていることがあれば教えてください。
- ③貴校独自に工夫していることがあれば教えてください。
- ④他校ではどのような対策を講じているのか、気になることがあったら教えてください。
- ⑤コロナ禍によって、あらためて気づかされたことはありますか？
- ⑥休校前・休校中・学校再開後等に、事務職員として「事務だより」などで、児童・生徒、保護者、教員に向けて何か情報発信をしましたか？ それはどんな内容ですか？

7. 回収結果

小学校	66
中学校	47
その他	7
合計	120

「COVID-19に関する学校事務職員 緊急アンケート」調査結果

Q1 現在、COVID-19関連の対応・対策で困っていることがあれば教えてください。（自由記述）

3密回避、ソーシャルディスタンス確保

- ・教室に40人入る状態はどうやっても距離を保ちえず、密を回避できないこと。（小＝小学校／以下同様）
 - ・1教室の児童数が40人に近い上、特別支援学級の子どものも加わるため、以前から机間指導をするのもやつの状態。密を避けるのが難しいため1人1枚のパーティションを探しているが、仕様と価格の面で納得できる商品がまだ見つからない。（小）
 - ・教室の3密（空き教室はあるが、教員がいない）回避が難しい。35人学級は机を離すことができない。（小）
 - ・人数の多いクラスは、給食時間は2クラスに分けて食べさせたいが、エアコンが学習室にないため困難。（小）
 - ・物理的（児童数・教室数・教員数・時間等）に密を避けるのは無理である現状。（小）
 - ・学校によっては、1教室の人数を少なくするために学級を分割したいが、空き教室がないためできないような話を聞く。また、学級を分割すると教員の数が足りないため、一人で2教室を見ているようである。（小）
 - ・ソーシャルディスタンスの確保（1,200人を超える大規模校のため、何をしても密の状況を回避できない。授業はもちろん、休み時間ですら全学年校庭に出られない状況で、身心ともに児童の健康管理が不安）。（小）
 - ・新JISの机は天板が大きいので、教室からはみ出してしまいうようである。旧JISの机でも教室の作りによっては、少人数であってもソーシャルディスタンスを保つことは難しい。（小）
 - ・学校は再開したものの、マスク着用と3密回避は学校現場ではかなり難しい。3密回避に至っては、児童生徒は群れたがるものであるし、授業中も狭い教室（職員室も）での主体的・対話的な学びについて、そのスタイルを再考せざるを得ない。（中＝中学校／以下同様）
- * * *
- ・手洗い時や検診の待機時にソーシャルディスタンスが確保できるスペースがなく、しっかりとした感染予防ができていないのではないかと不安である。（小）
 - ・音楽の合唱や英語のチャンツ、国語の音読、体育や運動会の練習、レクや話し合い活動などができずに、授業の進め方や学級作りが難しいようである。（小）
 - ・音楽の授業では、リコーダーなどの楽器演奏ができず、歌も歌えず、成績処理に苦慮している。（小）
 - ・学校の構造上、密になるケースがあり、対策にも限界がある。（その他）
 - ・全校の半分くらいの児童がスクールバス利用である。3密の回避ができない。（小）
- * * *
- ・ソーシャルディスタンスが取れない。職員室が一番密です。（小）
 - ・子どもたちが登校できない間、職員室内が密になったこと。いつもは人が少ない中で仕事をしているので、異なる環境へのストレスと、ここでクラスターが発生したら…という不安感が生じた。（小）
 - ・職員同士の感染防止対策は十分だろうか。職員室での職員の意識が低い。（小）
 - ・学童の対応もあったため勤務しなくてはいけない教員が多数いたが、新年度の学年担任・クラス替えの発表がまだだったので、学童対応の時間は対応する職員以外は教室移動や使用ができずに職員室が「密」だった（特に学童対应当番や学年・校務分掌の打ち合わせ、新年度準備・入学式準備で在宅勤務ができない日など）。（小）
 - ・研修会で、感染防止のためグループワークが行えず、講義形式の内容となっている。対話的で深い学びのためには、グループワークを行いたい…。生徒も同様、グループ学習が行えていない。（中）
 - ・来校者に対しては、窓口にビニールシートを貼ったり、ミーティングテーブルを玄関ホールに設置したりして、できるだけ事務室に入られないようにしているが、児童への対応が難しい。たとえば、内履ズックを忘れた児童に貸出用スリッパを準備しているが、児童の事務室への出入りやスリッパの消毒が結構な負担になっている。（小）
 - ・在宅勤務では処理できない業務が多く、通常勤務をしていたが、事務室はないので密を避けられたかは疑問。（小）
 - ・支援室会議が3密を避けるため席の距離を離したりするので、話し合いが不自由である。（小）
 - ・3密対策で愛校作業も要請人数が少なくなった。施設管理に不安がある。（小）
 - ・3密の規準があいまいで判断がむずかしい。（小）

分散授業による問題点

- ・分散授業のためほとんどの教室を使って授業を行うので、生徒の机、椅子、電子黒板が不足して授業をするのが大変だった。(中)
- ・分散授業のため(本来は2クラスだが、学年を3つに分けて授業を行う)、教員の授業時数が極端に増え、一日に6時間授業を行う教員が増えた。そのため連絡、相談がつきにくかった。(中)
- ・分散登校(学級を2グループに分ける)をしたため、全学級で2回ずつ同じ授業をすることになった。教科書を拡大コピーしたものなど、授業1回で消費するものが必然的に今までの2倍必要になった。いつまで続くかわからず、予算の見通しがたたなかった。電子黒板などがあれば、そういった心配はなかったかも。(小)
- ・密を避けるための分散教室を行っているが、空調設備がすべて整っておらず熱中症の心配がある。予算確保や業者の手配などすぐに対応ができない。(中)

換気の問題点

- ・換気のため窓を開けた状態でエアコンをつけているが、どこまで窓を開ければよいか判断できない。平常時は30cmほど2カ所、斜めになるように開けるとしていたが、今は複数箇所、半分ほど開けている。光熱水費は大丈夫なのか不安。(小)
- ・換気しつつエアコンをつけているため、最大で運転していることが多く、デマンドが鳴り出したら数カ所エアコンを止める必要があり困る。(小)
- ・換気のため窓を開けているが、虫が入ってくるし、風が強い日は砂埃がすごい。(小)
- ・換気のために窓を開けると害虫等が侵入し授業に支障がでる。全教室、体育館に網戸の設置はできるだろうか。(小)
- ・現在、エアコンをつけながら換気のため窓を開けているが、周辺を畑に囲まれているため害虫が室内に入り込む。梅雨の時期は特に土中の虫がはい出て教室に入るため衛生上問題がある。また、スズメやツバメが校舎内に入りこむことがある。秋になるとハチの活動が活発になるため心配である。(中)

熱中症対策

- ・マスクをすることによる熱中症対策。(中)
- ・夏場のマスク使用のためか、体調を崩す子どもがいる。例年以上に熱中症対策が難しい。(小)
- ・マスクの常時着用は熱中症の懸念が大きく、授業中も苦痛な様子がうかがえる。(中)
- ・夏期休業中に授業が行われるが、特別教室にエアコンがついていない。(小)
- ・密を避けるための分散教室を行っているが、空調設備がすべて整っておらず熱中症の心配がある。予算確保や業者の手配などすぐに対応ができない。同じく一部の特別教室にも空調設備のない部屋がある。(中)
- ・本年度はプールの授業がないため、7～9月にかけて炎天下での体育の授業をどうしたらいいのか困っている。(小)
- ・夏休み短縮により8月に給食提供がある。本校の給食調理室の熱中症対策等に対する物品が頼りない(保冷剤を入れるアイスベスト、冷感マスクなど)。根本的な解決に至らない。調理員の労働安全が十分に確保されているとは言い難い。(小)

コロナ対策用品の入手困難等

- ・保健衛生用品(アルコール等の消毒薬、ハンドソープ、噴霧器、マスク、使い捨て手袋、非接触型体温計等)が手に入らない。または非常に高価である。※同様の回答13件(小11・中2)
- ・感染予防を防ぐために必要な消耗品が品薄で調達が難しかった。調達できても、予算委員会の時点でコロナ対策を考えた予算を十分に確保できていないため、今後が心配である。(中)
- ・消毒をこまめにすればするほど、消毒液やペーパータオルの消費が増えるが在庫がない。注文してもなかなかこない。(その他)
- ・消毒液やマスクの在庫の確保ができるかどうか(現状では予備が確保できているが、業者へ問い合わせても予約さえ受け付けてもらえない場合もあると他校から聞いたため)。(小)
- ・児童数が多く、クラス数も多いため、消毒用アルコールや手指消毒液等の手配に苦慮している。(小)
- ・非接触型体温計を4月当初に複数本発注したが、3カ月経っても納品待ちの状態。(中)
- ・2月に注文した防護服がいまだに納品されない。(中)
- ・臨時休校が終わり、学校が再開となる際に、非接触型の体温計がなかなか手に入らず困った。登校前の検温は各家庭でしてくるが、放課後の部活動前の検温の際に学校に今ある普通の体温計を1回1回消毒しながらの検温となったので、かなりの時間・労力が必要となった。(中)
- ・消毒や安全対策に係る物品の購入・設置が各校に任されており、調達できずに困った。今後も物品が品薄になったときに調達できるか

が不安である。自治体で確保してもらえないものかと思った。(中)

- ・使い捨てマスクや消毒液等、少しずつ普及してきたものの、学校で継続して使用できる量の確保(購入)が難しいため、現物支給してもらえないか。(小)
- ・感染予防対策のためのマスク、スプレー容器、ビニールシート(発熱者待機場所用)等の購入が困難で、何回もホームセンターや100円均一ショップに通った。(小)
- ・給食の配膳を職員が行うことになっているため、大人用の使い捨て手袋・帽子を購入したいが、取り扱い中止が多く入手が難しい。手袋は何とか確保できた。(小)

* * *

- ・教室・校舎内の消毒作業について、使用すべき薬品(高価なアルコール性にすべきか、一定の条件で効果が認められたより安価な次亜塩素酸水で良いのか)や、使用頻度が明確でないため、消毒用品の選定に困っている。(小)
- ・消毒剤や感染予防機材のうち何が一番適しているのかわからない。本校は購入していなかったが、次亜塩素酸水のように適していないから使用しないようになどあとから連絡がくるが、何が学校現場で新型コロナ対策に適しているのか知りたい。(小)
- ・ウイルス対策として次亜塩素酸水を購入していたが、次亜塩素酸ナトリウムじゃないと意味がない、アルコールのほうが効果的である、スプレー噴射はよくないなど、情報がコロコロ変わり、結局何を買えば…? と困惑した。(中)
- ・消毒用の薬品等について、情報の伝え方が混乱の原因となっている。アルコールが入手できないため代替品を探したが、情報に踊らされた部分が大きかった。(小)
- ・物品購入を担当しているが、商品に係る知識を詳しく持っているわけではない。消毒関係の物品(アルコール等の消毒液や保管容器)の購入に苦労した。(小)
- ・新型コロナ対策用品の購入を管理職から依頼され購入したが、使用方法・保管方法等、職員から意見があり、その調整や準備が大変だった。(中)
- ・除菌用のアルコールジェルや非接触型温度計が品薄で手に入りにくい中、市費登録のない業者からの入手ルートが見つかったため、緊急事態ということで管理職に相談し現金で3本(各学年1本ずつ)購入したが、PTA役員から「正確な温度が測れない温度計は却下。脇下で測る体温計で測るべき。そもそも、自宅で測るように周知してあるのだから、学校に必要なものではない。」との回答で、予定していたPTA会計からの支出ができなかった。(中)

コロナ関連の経費が急増

- ・臨時休校中は配付物が増え、コピー用紙代が増加した。(小)
- ・生徒の宿題を印刷するためのコピー用紙と印刷機のインク、マスターを大量に消費した。(中)
- ・「健康チェックカード」の作成のため、厚手の画用紙の消費が激しい。(小)
- ・休校中の課題作成や配布のための、用紙や封筒の使用が予想外にあった。また、お便りを作成しても急な変更により差し替えが多く、かなりの紙が廃棄となった。(小)
- ・電子黒板と電気機器を接続するためのHDMIコードを何本も購入した。(中)
- ・教室を消毒するためのスプレー容器を10個以上購入した。(中)

校内消毒作業

- ・下校後に教職員で行っている校内除菌作業の負担感。※同様の回答2件(小2)
- ・教室内外の消毒、子どもたちの手指消毒の実施など、教員(担任)の負担が大きい。児童用トイレの掃除も職員が担当。(小)
- ・児童が行うトイレ掃除は、掃き掃除のみにするよう市教委から通知があり、職員で対応しなければならない。消毒作業もあるうえ、負担が増している。(小)
- ・ただでさえ忙しい教員の業務に毎日の消毒作業が上乗せされ、体調を崩す者が増えるのではないかと心配している。(小)
- ・職員が通常業務プラス放課後に消毒作業、清掃作業(子どもにトイレ掃除等をさせられないため)を行わないといけないうえ、時間的にも体力的にも、非常に厳しい。また、トイレなどは、便器の内側までやるのか等、どこまで清掃・消毒すればいいのか基準がわからないため、丁寧に行くと、また負担が大きくなってしまっている。(小)
- ・教職員ともに、普段の業務に加えて消毒作業も毎日行い、疲労困憊。学校現場に消毒作業用の人材を派遣してほしい。(小)
- ・学校再開後、教職員が消毒作業にあたっているが、どこまで消毒すればいいのか、終わりのない作業に疲弊している。トイレ掃除はPTAに依頼して少し手伝ってもらっている。(小)
- ・消毒・清掃等の方法や頻度は学校に任されているが、教職員の負担が大きすぎる学校がないか心配。(中)

- ・毎日の消毒作業が実質的に有効であるかどうか…。やり方が不備のためにクラスター発生とか言われると困る。(中)
- ・学校の除菌方法など詳しく指示が欲しい。内容をかみ砕いて職員へ説明し実際行うことの指示を出すのは難しかった。研修会がなく市内学校間の情報共有が難しい(養護教諭)。(中)
- ・水泳の授業の後、更衣室ロッカー・ビート板の消毒等に変な負担がかかる。(小)
- ・プール指導が実施されているが、ビート板、その他の物品等の消毒など教員の負担が大きい。密になる更衣室の状況や実施回数も従来より少なく、今年度実施すべきだったのか疑問。(小)
- ・消毒のために市教委から次亜塩素酸水が配給されたが、文科省から効果と取り扱いについて不安視され、対応に困った。結局、今後はアルコールを使用することとなった。(小)
- ・スポーツ団体等への学校施設の開放が始まった。名簿の提出・消毒などの準備ができた団体から使用を許可しているが、実際どこまで器具や施設の消毒など徹底できるのか。(小)

給食費等の問題

- ・給食費の返金等。(小)
- ・給食費算出が二転三転したこと。今後も情勢などに留意が必要。また、6月に入り、町として生産者支援を行ったことで給食費の減額という副産物につながったのは大変嬉しいが、7月分の集金システムを全校児童分手入力で直すことになった。(小)
- ・突然の休校等で給食費の返金処理が生じるなど、事務業務が増加している。(中)
- ・給食費の取り扱いが非常に複雑。学費未納の有無で集金額が変わるため、未納が多い学校は苦勞しているのではないかと。(小)
- ・3月の学校休業が突然決まったため、徴収済みの学校給食費の返金や、翌年度への繰越等の対応に迫られた。(中)
- ・給食開始予定が何回か変わったため、保護者からの集金金額をたびたび変更しなければならなかった。(小)
- ・3月と4、5月という年度末・年度始めでの休校だったため、給食費などの精算が大変だった。市教委からの指導で在校生分については繰り越し可となったが、卒業生については全員返金。長期間の休校を行うのであれば、急な対応ではなく事前に準備できる期間があると良いと思った。(中)
- ・学校徴収金について、口座振替ではなく現金で集金する家庭もあり、休校中の集金が難しかった。休校中は給食費については集金しなかったが、教材はすでに購入していたため集金をしないといけなかったため。(中)
- ・給食実施について話が二転三転したので、食材をキャンセルしたり、簡易給食用の容器を探したり、何度も献立を作りなおしたり、栄養士や調理員たちが翻弄された。今後も突然変更になるかもしれない、不安。(小)

修学旅行など学校行事の中止・延期・キャンセル

- ・修学旅行や林間学校の時期の延期をしたが、実施できるのか不安を感じている。修学旅行は、東京・千葉・神奈川へ出かけているが、旅行先を変更した学校があるようだ。林間学校はほとんどの活動を見直さなければならないため、実施自体に不安がある。実施できなかった際の手数料などの負担が心配である。(小)
- ・修学旅行の延期、内容再検討などで、企画料が複数回かかる模様(粘り強い交渉の結果、1回分で済むかも)。また、ようやく代案ができかけたが、第2波などで土壇場キャンセルになった場合のキャンセル料について。(中)
- ・万が一、修学旅行がキャンセルとなった場合のキャンセル料を市町村が負担してくれるか未定。実際にキャンセルが発生しないと交渉できないとのことだが、キャンセル時の対応について保護者に連絡しなければならないため困っている。(中)
- ・修学旅行やバス旅行で密を避けるため、バスの台数を増やす予定だが、保護者校納金の負担が年度当初予定より1人あたり1,000~2,000円ほど増額になる。学校保健特別対策事業費補助金では対応できないため、当初予定を変更する必要があり、保護者への金銭的負担が増え、予定額からの変更するため未納者も増える心配がある。(小)
- ・社会見学先が受け入れてくれない。(小)
- ・校外学習やゲストティーチャーの招待などの計画(いつ頃再開するべきか、全部中止にしたときの児童への影響等)。(小)
- ・学校行事が予定通り実施できるか、実施できても例年と同じではないと思うので、予算の見通しがたかない。(小)
- ・無観客で平日、小規模の運動会を行ったが、保護者から苦情があったり、当日もこっそり見に来る保護者が数名いた。(小)

就学援助等の各種補助金の申請

- ・就学援助や各種補助金・教科書等の業務について、事務処理期間は短くなったものの締め切りに変更がなく、職員の負担が増加した。(中)
- ・4月当初に就学援助の申請を集約する予定だったが、なかなか集まらず市教委に締め切りを延ばしてもらった。※同様の回答2件(小2)
- ・就学援助の申請書の回収について、周知する機会が少なく大変でした。(小)

- ・入学説明会等が開催できず、保護者に十分な説明ができないまま就学奨励費の書類提出をお願いすることになったため、書類の不備が多く、保護者にとっても事務にとっても負担になってしまった。（養護学校）
- ・3月の休業に伴う給食費の返金や4、5月分の休業による給食費の年間徴収額等、例年のない事務作業が増加した。就学援助費や就学奨励費とも絡み、個人個人への対応が必要となった。（小）
- ・3月からの休校に伴い、就学援助費の給食費の返納が発生したこと。年度末の時期に保護者からの返納分集金や保護者とのやりとり等、前例のない対応に事務処理も混乱した。（小）
- ・市教委にいくら要請しても、国から要請されている保護者あて「新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した世帯への就学援助のご案内」（再周知）等を出してくれない。（小）
- ・コロナ関係で失業したり、所得が減ったりしている保護者がいても、就学援助の認定はあくまでも昨年の所得で決まる。現状に対応できる制度にならないものか。（小）
- ・学校では、就学援助認定をコロナ減収も加えるべきと考えたところ、7月上旬に区教委より「新型コロナの事由で収入が減少した保護者へ」の通知で支給申請できることになった。就学援助申請は、昨年の認定者については教員と手分けして申請書が届いていない家庭について電話確認した。PTA会費の減免なども考慮すべきかも。（中）
- ・就学援助費に関しては4月に一旦家庭から提出があったが、コロナ禍による収入減が5月頃から出始めたのか、6月になって「今からでも間に合いますか…」という問合せが来るようになり、現在も受け付けている。給付金と連動しているのか地教委側から「この保護者に就学援助申請書を渡してください」という連絡も7月現在何件か受けている。7月に判定結果が出ないかもしれない。（小）
- ・学校給食費の支給などの就学援助に係る事務がかなり煩雑になっており、担当者との連携が欠かせない。（小中一貫）
- ・教員が在宅勤務のため、4月の提出物（就学援助費・徴収金のクラス名簿・予算委員会の資料等）が揃わなかった。（小）

職員の収入減・休業補償等

- ・教職員も交代で在宅勤務をすることになったが、同じ職場でありながら在宅勤務の扱いが教育職と行政職で異なり、事務が在宅勤務をする場合は年休扱いになるといわれた。（小）
- ・非常勤講師のスクールカウンセラーが4、5月は出勤できず、無収入になった。（小）
- ・児童への学習支援に関わる職員と給食調理員（いずれも町臨時的任用職員）に新たな業務を見つけることに苦慮した（そうしないと、欠勤＝収入減となるため）。（小）
- ・会計年度任用職員（非常勤）の休業補償について不明点が多く、年間の勤務体制について検討が難しかった（市教委の業務が多忙を極めていることは承知しているが、会計年度任用職員に関して4月、5月に勤務をしない日は休業補償の対象になるというアナウンスのみで、追加配当がくるのかどうか等、先の見込みが立つような情報が周知されなかった。その分、会計年度任用職員の先生方が独自に工夫をして、早めに帰ってその分を夏休みが短縮されるようであればそこに充てよう等と苦勞をして時間を確保することとなり、個人に対する負担が多くなってしまった。本来であれば、学校長と市教委側が考え、一個人の会計年度任用職員に負担をかけるべきでない場面で負担をかけてしまった）。（中）
- ・非常勤講師の勤務について。4月、5月は休校のため勤務がなくなった。「自主登校」の児童管理で勤務可能と言われたが、夏休みが短縮されて授業日になるだろうという噂もあり、そうすると年間で決まっている勤務時間が3月までもたないだろうということで、最低限の勤務にしてもらった。結局、6月下旬に県の予算がついたようで追加された。（小）
- ・休業期間が突然変更されることが何度もあり、非常勤講師の勤務計画をそのたびに変更する必要に迫られた。（中）
- ・新規採用教員の研修が6月までオンラインとなり、新採者が出張中のための後補充教員が出勤できず、無収入になった。その他の授業補充の非常勤講師も同様に出勤できなかった。（小）
- ・用務員等、市町村職員の勤務条件について、夏休みが短縮されたため勤務すべき日数が増えたが、年間の予算があるため、8月に勤務できない日がでてしまう。給食も実施されるが勤務できない。他の教職員に給食準備をしてもらうにしても、消毒等、感染予防対策に時間をかけているなか、準備をできるのか、用務員自身が気にしている。（中）

予算計画・執行上の問題

- ・感染症対策用品（保健衛生関係の消耗品、パーティション等）の購入により、予算が切迫している。※同様の回答9件（小5・中4）
- ・総じて予算措置に見通しが立たず、行事や作業も例年通りではないので、効率的な予算執行ができない。※同様の回答3件（小2・中1）
- ・学習用の野菜を植える時期までに再開しないのでは？など、学用品の購入計画が難しかった。（小）
- ・ほとんどの出張がなくなり、今後の見通しも立たないため、旅費予算の執行計画が立てられなかった。（小）
- ・各種大会が中止になったことで、派遣費の予算立てが難しかった。（中）
- ・学校予算の都合で、当初は感染防止対策に大きな費用をかけることができなかった。（中）

* * *

- ・交付金について市から何も通知がないので予算の見通しが見つからない。(小)
- ・必要な消耗品はあきらかに増えたのに、公費予算の追加配当が不明な事。(中)
- ・どんな対策をするにしても予算がないとできないことなので、まず国から市町に予算を配当してほしい。(中)
- ・どういう範囲まで消毒・除菌が必要なのかのライン引きが難しい。いまだにコロナ対策用の追加予算が付かない中、配当されている予算にも限りがある。(中)

* * *

- ・光熱費(エアコン代、電気代等)が心配。※同様の回答3件(小1・中2)
- ・消毒に有効とされるものが二転三転する。そのたびに購入しなおさなくてはならず、出費が多い。(養護学校)
- ・トイレ清掃用に、普段は購入していなかったモップを購入するなど、出費が増えた。(小)
- ・児童生徒の机に飛沫防止の亚克力板のような仕切りを設置するか(透明度によっては子どもの視力低下が心配であり、購入予算の確保と使い方についても懸念事項が多数ある)。(小)
- ・教職員のシールドなど(マスク以上の物品)は公費でまかなってもいいのか迷っている。(小)
- ・校内の感染予防対策として、フェイスシールド、非接触型体温計、亚克力板などさまざまな用品があるが、有事とはいえ、公費の支出の適正さも必要であるため、「どのような場面で、どう使っていくか」「代替品はないか」などを教員と考えながら購入をしている。(小)

* * *

- ・検診(特に歯科検診)用の使い捨て手袋、またその他コロナ対策用と思われる消耗品の支出が国からの補助金で対応して貰えるのか否かまだ不透明であり、配当予算の残高が心配。(小)
- ・学校保健特別対策事業費補助金の活用方法を検討する時間が短く、適切な購入ができるか不安。(小)
- ・市の補正予算により、学校に対して感染症対策費として、1校あたり200~300万円ほどの追加配分がある予定である。どのように効果的に執行するか、校内での連携をしっかりと行う必要がある。また、校長の契約専決権40万円を超える契約も起こりうるため、早い段階から市教委との調整も必要となってくる。(小中一貫)
- ・「学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業費補助金にかかる事業費」についての調査が6月末にあり、極めて短い期間で管理職等と話し合い、市教委へ回答を提出したが、市の補正予算議決等を経ないと予算がおりず、最短でも秋(そもそも全額認められるか未定)では熱中症対策に不安がある。さらに、消耗品費、備品費、手数料等といった費目(節)に縛られて節間流用ができないと聞いているが、柔軟な運用ができなければ厳しいのではと思った。他の自治体も同様だろうか。(中)
- ・校長からは、国からの補助金や修学旅行に対する援助などの情報を教えてほしいと言われたが、私たち事務職員でもわからず、収集できていない。(小)
- ・学校事務職員は、年度初めの多忙に加えて、市費職員のサービスの変更や県費負担教職員の休暇処理でさらに多忙な日々だった。7月に入ってから、「感染症対策・学習保障等支援費」の執行が追加の業務となった(「感染症対策・学習保障等支援費」(R2.6.29):国の第二次補正予算を受けて金沢市教育委員会が創設。学校長の裁量で執行。小中ともに児童数600人以上の学校に60万円、児童数600人未満の学校に30万円)。(小)

* * *

- ・校長会で市内の学校ではプール授業の一斉中止を決定したが、塩素剤を市教委でもう発注済みで取消不可能であった。(小)
- ・例年支出しているバス代等が浮いてしまい、予算を今後どのように振り分けていくのか企画するのが難しい。(その他)
- ・基本、本校の対応は消毒・手洗いであるが、本校は東京では大規模な中学校であるため、消毒液やハンドソープの大量購入ができず、見積もり合わせなどをせずに緊急購入にしている。(中)
- ・FAXで送られてくる売込みの品物には代引きが多く、公費で購入できない業者が多いが、管理職などに説明してもなかなか理解してもらえない。(中)
- ・コロナ対策で消耗品や備品の要望が多いが、もともとぎりがりで行っている予算から捻出してよいか判断に迷った。また、先生方からの「予算はありますか」「買えますか」という質問に対し、4、5月段階の予算はあるが、一年間の執行を考えたとき厳しい予算状況の中でどう答えばいいのかわからなかった。万一、年度末に予算がなくなり物品が購入できなくなるか不安で、コロナの影響で予算がないことを理解しながらも「なぜ予算がなく買えないのか」「どうにかならないか」と声が上がらないか心配。(小)
- ・コロナ対策用品の購入は、学校に令達されている予算内で対応しているが、コミュニティスクール委員から、コロナ対策用の予算の配当はないのかという指摘があった。(小)
- ・学校集金の未納が昨年度より多くなっている。早期回収できるかどうか不安。(中)

コロナ関連の文書処理業務が急増

- ・膨大な関係文書が市教委を通じて流されてくるが、内容を読み切れないでいる。(中)
- ・新型コロナウイルス関係の文書が多数届くため、文書受付量が増加した。(中)
- ・臨時休校中は、感染症に対応した文書が何度も出たため、文書内容を理解するだけでも、通常より業務内容が増えた。(小)
- ・新型コロナウイルス対応に関する文書の量が膨大で、処理が煩雑だった。(小)
- ・3月、4月は市教委から毎日のように電子文書の指示がきていたので、事務職員は在宅勤務ができなかった。(小)
- ・7月現在では落ち着いているが、4月の1カ月間は連日コロナ関係の文書が送付され、毎日のように対策会議、保護者への配布文書の作成、消毒作業、コロナ関連用具・消毒液等の購入と対応に追われ、通常業務は時間外や休日にならなければならなかった。(小)

市教委等の対応への不満・要望

- ・規制の連絡はあるのに、解除の連絡がこない。例：2週間の自宅待機。(小)
- ・国→県・市→学校への連絡が遅いため、結局は学校ごとの対応となってしまった。市教委からの統一的な指針が示されれば、計画的に学校運営を行うことが可能になると思う。(小)
- ・市教委が配布する物品や追加予算についての事前の通知が遅く、現物が届いた時点ですでに学校独自に購入してしまった等の場面が多い。※同様の回答2件(中2)
- ・6月1日(月)付で「学校再開に伴う感染症対策・学習保障に係る必要物品の調査」があり、6月5日(金)まで備品・消耗品予算を校内の要望を取りまとめて提出したが、すぐにでも必要なものばかりなのに、いつからその予算を執行していいのか、実際の配当はどのようになるのかわからず、必要物品が購入できずにいる。実際は待てずに購入してしまったものもあるが、業者に待ってもらっている。どうしても時は他の物品購入で調整する予定でいるが、予算の裏づけなく購入したことへの罪悪感がある。(小)

* * *

- ・消毒液等、衛生関係の消耗品は一部が市教委から配当されたがとても足りず、不足分は学校が直接購入するしかないのが実態だが、自治体ごとに物品会計規則等で定められた費目や購入区分が足枷となり、在庫がある業者から購入できないことがあった。全国的・全世界的な災禍のなか、現場視点を持って対応してくれる市教委の担当者が望まれる。もしくは学校のそうした実情をまとめて市教委と相談できる窓口があると良い(市教委・行政との風通しの良い関係)。近場のドラッグストアには在庫があるのに、公費で購入できる業者ではアルコールが品切れということがままある。商品の物流などの問題もあり、いろいろ難しいが、現在の状況はいわゆる災害状況下(からの復興状況)なので諸々柔軟な対応ができると良い。(中)
- ・市町村教育委員会から物品の配給があるが、学校では使いづらいものが届く。簡易調査でも良いので、学校現場の意見を聞いてほしい。(例)曇り防止機能のないフェイスシールドが届くなど。(中)
- ・消毒液やペーパータオル等が大量に必要なようになったが、予算が厳しくどこまで購入すればよいか判断が難しい。国の補正予算で市教委が勝手に購入するものを決めて学校に配布するかたちになり、本校では必要のないものが支給される。(小)
- ・国からおりてくるはずの予算を市教委が先に使ってしまった。市が一括で購入すると安くなるのはわかるが、これ以上、非接触体温計はいらない。ペーパータオルも使わない。これらの代わりにアルコールがもっとほしい。そういった要望の引き上げもないままに使われてしまっている。各学校で事情が違うということを理解していないことに憤りを感じる。というか、早く学校に予算を降ろしてほしい。今すぐでなければ意味がない。(中)

* * *

- ・市教委の指示が二転三転したり、結論がなかなか出てこなかったり、急展開な対応指示で現場に混乱が生じた。たとえば、休校のため給食提供が無いなか、市教委から学校再開でスムーズに給食が開始できるように通常どおり集金をし、年間予定回数に満たなかった分については年度内に調整をする旨の通知が届いた。後から集金方法は学校の実態に応じて行うよう指示があり、本校はさまざまな考えがあるなかで、管理職と相談の上、休校中ではあるが説明を添えて口座振替を例年どおり実行。結果的には、以下の利点を得ることができた。①集金通知とともに就学援助の呼びかけをし、新型コロナウイルスの影響により収入減が見込まれる家庭が申込をするきっかけを作ることができた。②保護者にメールやHPで知らせたことをきっかけに、学校HPに事務室ページを開設。③予定外の追加徴収をすることなく、予算に余裕を持って給食提供が可能となっている。(小)
- ・特に5月中旬～下旬にかけて、学校が行事や授業の方法を計画立てて行おうとしていたのに、教育委員会がトップダウンで、5月18日からの週は半日授業を3日行うとか、25、27、29日はフルタイムで授業するとか決定するので現場が混乱した。先の見通しも立てづらくなった。(中)
- ・Zoom等での行政研修が行われるが、接続テスト等を貴重な授業時間に教育センターが設定してくる。(小)

* * *

- ・さまざまな任用形態の職員が増えたり、変更があり、採用時の書類の提出が沢山ある中で、市教委の説明会が中止になり、わかりづらい面があった。(小)
- ・過剰な衛生管理。正しい情報がなにかがあやふやなまま、統一して行うよう指示がある、マスクや手洗いうがい、換気の他に、過剰なアルコール消毒のためのアルコールやビニール手袋等を要望してくる。(市内の小学校は児童全員分のフェイスガードを配布しました。あきらかに行きすぎだと感じています)(中)
- ・文科省の通知によるものだが、2カ月以上感染者の発生のない本県でも全校統一の対応が求められることへの不満。(小)
- ・現実的でない対応を求められる。例：マスクの手洗い。(小)
- ・地教委が新型コロナウイルス関連の対応に追われ、通常通りの業務に支障をきたした。(小)
- ・教委の方針に従って真面目に対応しているとヒトもカネもモノも足りない。事務職員の観点で書くなら、モノが手に入らず、多少高額なモノを購入することによりカネがかかる。国庫補助金が来たとしても、現状ですでに執行がされているため、後出し的な補助金が有効利用できない可能性があり、不安である。管理職の考え方ひとつで、「やりすぎ」に陥ることもじゅうぶん考えられ、カネがないなら保護者負担と安易になりそうなのが心配である(自分を守る=受益者負担が正当とされそう)。(中)
- ・休校に際し、職員より先に報道で保護者が知るという事態が多発した。保護者の学校不信につながるので極めて問題あり。また、市教委の決定を校長から保護者へ伝えた途端に、真逆の決定が報道されるという、市長部局、市教委の判断が迷走し保護者の不安感を駆り立てた。(小)

オンラインシステムの未整備等

- ・WEB会議システムを利用したりリモート授業や校内集会を行うにあたり、学校のネット通信容量が極端に少なく不安定であるため、途中で断絶する。対応できるネット環境を整える必要がある。(中)
- ・オンラインの設備が整っていないのでオンライン授業等が行えない。また、オンライン授業をするためにはガイドラインや計画書、報告書の作成が必要で、手間がかかる。(小)
- ・市教委からオンライン学習をするように市内全小中学校に連絡があったが、対応できる職員が少なく、負担が偏ってしまった。現在も「G Suite for Education」を全教職員、児童に導入するために保護者から承諾を取っているが、なかなか承諾してくれない保護者もあり、連絡を重ねるなど、業務負担が増えている。(小)
- ・オンライン授業を推進した。メディアでも多数取り上げられた。しかし、家庭によって端末やネット環境がさまざまであることが問題である。ただ、これはGIGAスクールを推進する上で重要な問題点が浮き彫りになった。GIGAスクールにて一人一台を掲げているが、クラウドを活用する際は、学校という施設の中だけでなく、各家庭や公共施設にも環境が整ってこそ、価値がより生まれることに繋がるはずである。今回のCOVID-19の対応で久喜市で「G Suite for Education」が導入されたが(全教職員と全児童生徒にアカウントが付与される)。(小)
- ・オンラインを活用するにあたり、研修等が必要になってくるが、カメラ付きのパソコンが揃っていないかたり、研修時間の確保がむずかしい。(小)
- ・オンライン学習について知識がある職員がいる学校とない学校の格差の問題。(小)
- ・オンライン学習を行う環境がある家庭とそうでない家庭での格差の問題。(小)
- ・研究活動(各教科、学校事務等)について集合しての会議が憚られ、オンライン会議は十分な環境が整っておらず(校内Wi-Fiが弱い、カメラ付きPCの台数が少ない、職員用と生徒用のネット回線が異なりオンライン会場の確保が難しい等)停滞がみられる。(中)
- ・年度当初のさまざまな会議が書面開催とされ、情報を伝達することに苦労した(Outlookを主として使用し、会議資料を配布しようとしたが各自自治体のメール機能がセキュリティ重視の側面が強く、データ量の制限、圧縮ファイルの送付等で問題が多々起きた。それに代替するフリーメールソフトやクラウドの使用もセキュリティの側面から使用できず、Zoomやスカイプも使用できない。私の勤める地域の公立小中学校は、世の中の情報環境とはかけ離れた状況であるように感じた)。(中)
- ・テレワークを行うための設備が不足していたことです。持ち帰りができない個人データや財務データを自宅で確認するべきがありませんでしたし、教員用PCにはマイクもカメラもないためテレビ会議のようなものに参加できなかったり、校内にWi-Fi環境もなかったため、そもそも通信が遅いといった脆弱さがありました。部活動関係の会や教科役員会などがテレビ会議で行われる際は、わざわざ自宅のWi-Fiを使ってもらい、在宅勤務の一環として行ってもらうなど、教員に負担をかけてしまいました。秋頃には、生徒へのタブレット配備を含めICT設備の整備が進むとのことですが、もう少し早く進めておくべきだったと感じています。(中)

在宅勤務の問題点

- ・在宅勤務を命じられたが、事務職員は市や県とつながっているパソコンを使用していたり、個人情報扱う業務が多いため、在宅でできることがあまりない(or 在宅勤務はしなかった or 通勤せざるをえない)。※同様の回答27件(小17・中10)

- ・在宅勤務を命じられたが在宅で業務できるICT環境が整っておらず、個人情報の紙媒体を自宅に持って帰ることができなかったので、在宅勤務できなかった。(小)
- ・パソコンやiPadを持っていないため、在宅勤務はなにをすれば?となりました。管理職からは、在宅しなさいと言われ(管理職の気持ちもわかります)、でも在宅すると直面している仕事は進まないため、結局1日しか在宅しませんでした。学校のパソコンにUSBを挿せないため教諭も困ったと思います。(中)
- ・在宅ではなく、職場内での場所を変更しての勤務を容認してほしい(通勤は自家用車使用の場合)。(中)
- ・学校事務職員が在宅勤務をする場合、安全なセキュリティのもと、自宅でも学校内LANへアクセスできるようなシステムがあれば良いと感じた。(中)
- ・4、5月に在宅勤務命令(自宅に出張扱い)が出たが在宅では仕事にならず、多忙時期のため、結局、平日遅くまでの勤務や土日に対応していた。(小)
- ・在宅勤務でできることが限られており、単純に出勤したときの業務量が増え、結局時間外勤務をした。(小)
- ・年度当初の繁忙期のなか、財務や徴収金関係事務、給与事務等のため、在宅勤務制度をほとんど活用することなく、特に4月は年休等も出張も一切ない異例の月となった。通勤はできる限り交通機関を利用しないよう努めた。事務職員には在宅勤務は馴染まないと考えるが、感染症予防の観点からはそれではいけないため全国の学校事務職員に葛藤があったのではと思う。(中)
- ・事務職員は在宅勤務はできない。学校に来れないなら、いっそ休暇をとったほうがよい。(中)
- ・事務職員も在宅勤務の対象となったが、個人情報を含む業務が多いため、年休を取らざるを得なかった職員がいた。(中)
- ・教職員も交代で在宅勤務をすることになったが、同じ職場でありながら在宅勤務の扱いが教育職と行政職で異なり、事務が在宅勤務をする場合は年休扱いになるといわれた。(小)
- ・オンラインによる事務処理が困難なことや情報の持ち出しの制約から、在宅勤務についてのとらえ方が事務職員間で幅があり、少ない事務職員が緊急事態宣言下でほぼ毎日出勤していた。(小)
- ・休校中は在宅勤務の取り扱いとなったが、学校ごとに対応がさまざまで、実施している学校、実施していない学校があったように感じている。実施している学校では一部の職員だけが在宅勤務をしていたり、子どもを預けることができないので一緒に出勤した職員もあつたりということもあつたようである。事務職員は在宅勤務の該当ではないとした学校もあつた。(小)
- ・在宅勤務をされた方に、どういったことに取り組まれたのか聞いてみたい。(中)
- ・在宅勤務で何をすればよかったのか、何をしたのかを調査することが必要である。(中)
- ・在宅勤務で行った業務の報告書を作成していない学校があるが、来年度の監査で報告書の提示を求められた場合、どのように対応するのか心配である。(中)
- ・文書処理等があり、事務職員はあまり支障はないと特に管理職から在宅勤務を命じられませんでした。私自身も在宅をしたいわけではなかったので、何も思いませんでした。(小)
- ・在宅勤務の拡大等によって服務事務が従来よりも煩雑になっている。(小)
- ・在宅勤務の制度も突然校長会で連絡が来て、職員会議で説明があつたものの、制度の詳細(対象取得日や取得できる人数、申請書や報告書の様式、提出物等)は文書で確認するか取得後にあらためて書類をそろえるといった形で混乱した。特に申請様式と報告様式は県立学校の様式がそのまま送付され、学校で作直さなくてはならなかった。(小)
- ・なぜかわからないが、管理職が在宅勤務の通知を職員に周知していない。(小)

共同実施関連の問題

- ・共同実施が縮小開催となり、繁忙期の業務を集中的に処理することができなかった。(中)
- ・共同実施で集まれず、皆で年間計画や目標の確認を行うことができなかった。(小)
- ・共同学校事務室で集まれず、業務が不安になった。(小)
- ・情報共有の場として有意義な共同実施が8月いっぱいまで中止。市内サーバでの情報共有はできたが、「話し合い」によるアイデアの共有ができなかった。(小)
- ・共同実施の会議をどこまで開いてよいのか、判断に迷う。(小)
- ・共同実施ではマスク装着、机を離す、窓を開ける、などの対策をしているが、これでいいのか不安。(小)
- ・グループ別共同実施協議会が通常どおり開催できず、違う形で行った。(小)
- ・共同実施内に新採事務職員を迎えたが、県教委主催の新採研が9月まで中止になり、その間の指導を共同実施内で対応することになった。今年の新採は県内で十数名配置されたが対応にバラつきがあるのではと感じる。(小)
- ・3月～5月の会議や研修会が中止・延期になるなか、予定通り事務センターにみんなを集めてよいものか悩んだ。結局、どうしても集

まらないといけない日のみ開催し、集まる回数を減らしたが、他の事務センターは予定通り行ったところもあったと後で聞いた。今後、第2波がきたときは他の事務センターの動きも参考にしながら決めたい。(中)

研修・会合等の延期・中止

- ・教育事務所主催の給与事務説明会が中止となったが、今年度は任用や共済事務に大きな変更があり戸惑いが大きかった。(中)
- ・コロナの影響で研修が減り、自分のスキルが伸ばせるか不安。(小)
- ・教育事務所管内の研修団体の活動計画・研修計画の立案が遅れたうえ、案の会員承認を受ける総会の予定が遅れるなど、研修団体の年間運営に支障が生じている。このことは管内各地区の研修にも影響を及ぼしているし、次年度の活動計画・研修計画にも当然影響が生じるものと見込まれる。(市支援センター)
- ・事務研究大会について、全国大会を含めて、延期や中止となっている。実践における研究の必要性や重要性を希薄とさせないためにも、新しい形での発信や次年度以降の大会の在り方を考える必要があると思います。(小)
- ・事務職員研修や共同学校事務室での集まりが制限され、研鑽や情報共有ができず、資質向上の場が少ないことが課題。(小中一貫)
- ・県外の大学教授等が講師の学校事務職員の金沢市の研修(6月・12月)が2講とも中止になった。オンラインやビデオの視聴等で開催してほしかった。開催時期が8月の他の一般教員向けの県外の大学教授等が講師の研修は予定通り開催。(小)
- ・校長会以外の会議が6月末まで実施されなかった。年度初めの会議が専門職(教頭、養護教諭、栄養教諭、事務職員それぞれの会議)ごとに開催できなかったため、一斉統一確認ができなかったため不安を感じた。保護者の学校を超えた横のつながりが広がっているのので、同じ市内で同歩調部分と学校独自部分を確認しておく必要があったように感じている。(小)
- ・対面の出張が難しい。県事務職員研究協議会の研究部では担当者ができないため、Zoomで行いました。(小)
- ・さまざまな会合(会議)で集うことができず、対応に苦慮した。(小)
- ・各種研修会が中止になり、実質何もできない状況である(資料を読んでレポートを書いても限界があると思う)。(中)
- ・新規採用者の研修が中止または延期となり、地域での交流の機会が少なくなった。(中)

保護者との連絡等の問題

- ・PTA総会が開催できず、活動計画や予算・決算の承認が得られない。※同様の回答2件(小2)
- ・PTA総会は資料配付で承認を得て無事終了。今後のPTA活動に関しては感染終息の状況に応じ進めていく予定。(中)
- ・PTA総会等、紙面決済のみの会議が多く、実際に細かい点について補足説明ができない。(小)
- ・PTA総会も保護者懇談会も開催できないため、書面やホームページ、緊急メール等を通して学校の方針を周知したり、お願い事をしている状態であるが、行き違いがないか常に不安がある。やはりオンサイドでの対話・説明が望ましいが、第2波、第3波を思うと、大人数が集まることには抵抗がある。(中)
- ・PTA総会が開催できず、今年度から導入した学校徴収金システムについての説明が紙面でしかできなかった。(中)
- ・PTA総会が開催できず、結果4月の学級PTAも開催されなかった。学級徴収金については担任が学級会長宅へ訪問し承認を受け執行している。(小)
- ・PTAの活動がほとんど中止となり、会費の使い道がない。返金すべきか?(小)
- ・PTA活動が縮小されている中で、保護者や地域の声を直接聞く機会が少なくなってきている。学校・家庭・地域が一体となった教育を目指していく中で、新たな形を模索する必要があると感じました。(小)

部活動の問題

- ・部活動に大きな制限がかかり、中体連の大会の多くが中止となった他、秋の大会については未定となっているものが多い。生徒派遣のためのバス配車や、補助金の交付申請も不透明であり手続きに困っている。(中)

子どもたちのメンタルケア

- ・授業や活動が制限されるなか、本来であれば楽しい給食も前向き無言であるので、さまざまな要因から児童のストレスも溜まっているように感じている。スクールカウンセラーの予算が減ってしまったので、今後が心配である。(小)
- ・子どものメンタルケア(過剰な手の消毒、他の子の机や椅子が触れない等)。(小)

その他

- ・小さいお子さんを持った職員が多いため、保育園/幼稚園が登園自粛で職員が手薄になってしまうこともあった。(中)

- ・小学生の子をもつ職員が毎朝お子さんを車で学校まで送っているのだが、コロナの影響で8時30分からしか学校に入れてもらえず、職員の出勤時刻に合わせて送ると約1時間お子さんを正門前で待機させなくてはならない状況であるため、勤務時間をズラしたいと相談があった。教職員企画課に問い合わせたが、それに対応した制度はなく、遅れて出勤するのであれば年次休暇しかないとのこと。年次休暇では限りがあるので、今後が心配である。(中)
- ・繁忙期加配の養護教諭の任期が、4月1日から6月30日までだったが、内科や眼科、耳鼻科等、身体測定以外の検診が先延ばしになり、大変な時期に加配職員がいない事態になった。(中)
- ・4月から就職が決まった職員の扶養親族が、自宅待機となり会社に出勤できなかつたため、保険証が会社から支給されず、職員も扶養の認定を取り消すのに時間がかかった。(中)
- ・新規採用・転任者に対する対面によるサポートができず、1校1人体制の弱点があらためて浮かび上がった。事務職員の集まりができないことについても同様である。(小)
- ・4、5月に事務長として室員との面談を予定していたが、延期せざるを得なかつた。(中)
- ・大学院修学派遣の職員がオンラインとなり、5月まで具体的指示がなかつたため、各自学校での対応がバラバラになってしまった。(小)
- ・授業補充の支援員等の業務がなくなり、学童支援などほかの職場への業務もしくは報告欠勤を余儀なくされた。(中)
- ・2020年4月に異動したこともあり、現任校の状況(保護者の状況・地域の状況等)がよくわからないまま7月を迎えている状態である。町内の事務職員も半分以上が異動し、教育委員会も教務担当以外は異動したため昨年度の状況がわかる者がほとんどおらず、COVID-19対策と並行して通常の業務もきちんと執行できているか不安である。(小)
- ・自分が入っていないが、児童の検温当番の日は出勤が7:30以前、児童下校は16:15のため超過勤務になる。本年4月に異動したため実態がわからず、保護者からの連絡に苦労している(担任へ保護者への依頼をするのにも苦労している)。(小)
- ・本年度はプール指導が中止になったが、施設を来年度まで放置しておいてよいものか不安。※同様の回答2件(小1・中1)
- ・プール指導を実施しているが、更衣室の確保に困った。体育館の倉庫等も利用している。通常なら「足拭きマット」を使用するが、感染予防のため使用していないため床が水浸しとなることがある(児童への指導のお願いをした)。夏休みの短縮、学校閉庁等で、10日ほどの稼業日となるため、校舎清掃等の日程調整に困る。(小)
- ・児童の中に頭ジラミが見つかり、全クラスで担任が確認することになったが、接触を伴うためどんな方法が最善なのか疑問である。(小)
- ・カリキュラムの再編成。(小)
- ・市内でも、学校により解釈の差異が出始めており、同じ行事への対応がバラバラになって来ている。(中)
- ・感染防止対策にかかる時間・人員の不足。(中)
- ・マスクのために表情が読みづらいのでコミュニケーションに支障をきたす(生徒とのコミュニケーション、職員とのコミュニケーション、事務センターでのコミュニケーション)。(中)
- ・聴覚障がいのある児童・生徒・職員とのコミュニケーションの手段。(支援室)
- ・児童数に対して手洗いの蛇口の数が圧倒的に足りない。(小)
- ・手洗い場に歯磨き用品置き場があり、歯磨き時に飛沫の心配がある。(小)
- ・新型コロナウイルスの色々な情報があり、どれを信じて2次感染対策をすればよいかわからない。(中)
- ・保健衛生関係予算の確保ができるかどうかかわからないなか、また、蛇口の数も増やせないなか、現状の施設やあまり増えない予算で持続可能な「学校での新しい生活様式」を構築していかなければならない。これからわかってくる部分も多いと思うが、対策していることが効果的なのかどうかエビデンスに基づいた情報が欲しい。(中)
- ・安全な給食の配膳方法など、配膳・下膳のプロセスまで、すべて学校で検討しなければならないが、本当にそれが感染予防として適切なのか不安。(小)
- ・多くの来客と接するため、もしも自分が感染してしまったときの感染経路の特定ができないのではないかと。(小)
- ・発熱で休んだ場合、コロナ感染拡大予防のための休みになるのか(児童は発熱で休んだ場合、欠席扱いにしない)。(小)
- ・昨年度の生活保護の振り込みが遅くなり、書類の回収が年度明けになってしまいました。(小)
- ・市町村により異なるが、臨時休校中に小学校では児童の受け入れを行って職員が指導していたが、中学校では受け入れを行っていなかったこともあり、校種によって負担が違ったように思う。児童の受け入れの際に、学校の消耗品(紙、折り紙、画用紙)を消費していたので、在宅の児童との不公平感や予算の確保が心配である。(小)
- ・休校、分散登校のとき、放課後児童クラブは15時からしか運営しなかつた。休校中も親の仕事等で家に児童だけでいられない場合は学校での受け入れを県から要請されていた。放課後児童クラブが始まる時間まで、「自主登校」として朝8時～15時まで教職員が児童の受け入れや管理をすることになった。どの児童が自主登校するのか、何時に保護者が迎えにくるのか、学校の職員を自主登校の管理に充てていたが、その当番表を作ったり、そのために膨大な時間を費やした。自主登校は、在宅勤務なのに子どもが家にいると集中でき

ないから(?) 学校に預けてくる家庭や、祖父母が送り迎えをしている家庭(祖父母が家で見れるのでは)などがあつたが、学校からは受け入れ拒否ができない状態であり、各家庭の良識にゆだねるしかなかった。(小)

- ・コロナ対策で通常業務より先生方も負担が増えているようだ。(小)
- ・夏季休業が短縮された影響で、教職員の休みをとることが困難になり、働き方改革の推進が頓挫している。(中)
- ・コロナの影響で急に辞めた職員がいた。その後も、学校は感染クラスターが起きやすいとの不安から決まりかけた方が「家族が心配で…やっぱりできません」と断ってきて、なかなか決まらない(まだ定数内での欠員もある状態で、配慮が必要な児童も多く、職員数が足りていないことは本当に大変です)。(小)
- ・市が収入減や失業者の緊急雇用を実施しており、本校にも3名配置された。職員室に座席スペースがなく、事務室に座席を設けた人もいた。市の会計年度任用職員として正式に雇用されているので、守秘義務があることも当然わかっているだろうが、児童の家庭状況の話や教員の扶養親族の話など、事務室で行っていた教員との情報交換がはばかれるようになった。また、校区内の方なのでなおさら気を遣う。(小)
- ・市教委・管理職の平常性バイアスについて：コロナ騒ぎの唯一の救いは、無駄に忙しい学校現場に強権的な休校要請が降ったことで、学校が本来やらなければいけないことと、やらなくても良いことを見分けるチャンスが与えられたことです。子どもへの対応業務はとにかくすべてにおいて手落ちがないようにと、何度も会議を重ねて立案実施していますが、それらがそもそも必ずしもやらなくて良い業務であつたということも多々あつたのではないかと。「要請」も、現場では強制的な業務停止「命令」となるわけで、業務見直しの絶好のチャンスだつたように思います。しかし、緊急事態宣言が解除され、学校は一举に平常モードに戻ろうとしています。当然、3カ月の遅れを取り戻そうと、1日の、1週間の授業時数は増やされ、そこへ部活動、修学旅行、2学期の体育祭、文化祭、その他諸々を上乗せするのですから、平常どころの話ではなくなっています。マスクをしながらどうやって体育祭の練習をせよというのでしょうか。どうやって合唱練習をするのでしょうか。生徒に、職員に、限界を超える負担を強いる学校経営に憤りを感じます。今回は緊急事態で異常事態なのだから、活動の成果もそれ相応に見積もらなければいけないはずなのに、「子どもたちのためだから」と本当にためになるのか検証もされていないモットーを振りかざすのはやめてほしい。例年通りの行事を経験しなければ子どもたちは不幸なのではないでしょうか。子どもにとって学校は長い人生の通過点でしかありません。その時その時の経験が一生の思い出になるのであり、「自分たちは修学旅行に行けなかった」も貴重な経験であつて不幸な経験と即断するようなものではないと思います。学校ということころはとにかく思考停止に陥って、とにかく例年通りの行事をこなすことに汲々としています。なんのためにやるのか、そして何より投入できる資源はどれだけか、効果をどう評価するのか等々、真の意味での学校「経営」を考えてほしいと思いました。子どもたち、そして職員のために、人的・時間的資源は無尽蔵という妄想はやめ、また学校は子どもたちの生活の一部でしかないのですから、退くところは手を引き、家族や地域に委ねていく姿勢に転換すべきです。地域連携が意味あるとすれば、そういう方向であるのではないかとと思います。(中)
- ・職員室近くの空き教室をパーティションなどで仕切って臨時保健室(コロナ感染症が疑われる児童を隔離する部屋)として使用しているが、保健室とも離れており職員が常時ついていることができない。一番近い職員室に事務職員のみのもこともあり、容体が急変した場合の対応をどのようにするのかとても心配。(小)
- ・行動面で心配な子がいるので、窓からの落下防止のため窓開放幅を制限するストッパーを付けたいが、ビスで止めると窓拭き業者の作業に影響が出る。ベランダがない防音校舎の窓用に、大人だけが開錠できるロック方法がないものか。(小)
- ・学童の施設長の「学童は家族」という考えのもと学童で過ごしているため、学校内での対応と学童での対応に差があり(マスクする・しない、距離をとる・とらない、同じものを共有する・しない等)、児童の指導に一貫性をもてなかつた。しかも、担任発表前で、異動してきた教諭が誰なのかも紹介前なので、学校内での学童対応は児童にも戸惑いがあつたようだ。(小)
- ・購入した物品で設置対策を行おうとするも、誰も動かず使用されていないことが多い。(中)
- ・トイレの改修工事が入り、水道が数カ所使えなくなってしまうため、6年生の教室を別棟に移動することになった。また臨時で水道を設けてもらったが、教室から遠い場所になってしまった。(小)
- ・校舎改築の工程会議が6月上旬までできず、学校からの意見や要望を言う公式の場がなかつた。(小)
- ・校庭の水道に石鹸をぶら下げているが、カラスにつつかれる。(小)
- ・職員の親睦会(飲み会)も自粛でやっていないが、歓迎会とかなくて、イマイチ職場の一体感(?)が不足気味。(中)
- ・業務中マスクを外していると、急な保護者の訪問等で慌てることある(マスクの有効性はどうか)。(中)
- ・県内感染者が極めて少なく、休校も短期間で済んだ。半面、危機感が薄く3密対策が徹底していないように映る。(小)
- ・現在、新規感染者がいない状況の中、どこまで感染対策を行うのか、過剰になりすぎている気がする。(中)

Q2 今後の検討課題となっていることがあれば教えてください。（自由記述）

3 密回避対策の検討

- ・3密対策をどうしていくのか。（中）
- ・大規模校のため、空き教室もなく、クラス40人は可能な範囲で距離をあけて机を配置するには限界あり。（小）
- ・40人学級の3密の回避策。授業によってはクラスを分けて対応しているが、授業数や教師の数、教室数など、限界がある。（中）
- ・生徒を分散して授業ができるようにしたいが、ICT機器（プロジェクター等）が不足していて難しい。またエアコンの設置も普通教室のみなので早急に特別教室（音楽室や美術室等）の設置を望んでいる。（中）
- ・教室のサイズが小さいので文科省のガイドラインをクリアできない。空き教室があるわけでもないのに、義務標準法の改正により、根本的な解決が必要。当座はプレハブ設置費等の交付金が必要。（小）
- ・分散登校にしないと教室の密は防げない。（小）
- ・教室での、ぞうきん・水筒・食事中のマスク等の置き場所をどうするか。一カ所に置くとまた密になる可能性があるため、各児童の机に掛けるなどするしかないのか。（小）
- ・「新しい生活様式」に沿って生活すると、窓を少し開けながらエアコン（クーラー、ヒーター）を使用するため、これまで大切に育んできた、省エネや道徳的意識を一旦白紙に近い状態にしないといけない。葛藤が…。 （小）

* * *

- ・休み時間中の子どもたちに、ソーシャルディスタンスを維持させることが難しい。（中）
- ・子どもたちがどうしても密になってしまう。（小）
- ・給食中はお喋りをせず食べる決まりにしているが、なんとかお喋りをしてもいい状態にできないか。（中）
- ・スクールバスでの密対応。冬場は窓を開けて走れない。（小）
- ・子どもたちへの手洗い、消毒の徹底をどうするか。密にならずに手を洗うには蛇口の数が足りない。消毒薬も足りない。子どもが自分のハンカチやマスクをポケットに突っ込んでもいいのか等々。（小）
- ・蛇口の数が少ないので、歯磨き指導を中止している。（小）
- ・感染防止のための環境整備（市教委が求める衛生管理が、施設設備などの側面で不可能である。ソーシャルディスタンスを保つためには分散登校が必要になるが、授業時数確保のためには全員を同時に通学させるしかない。追加予算について情報が下りてこないためパターションなどの購入を検討できず、窓を開けるという防御方法しかない。隔離のための部屋すらない）。（中）
- ・児童生徒の机に飛沫防止でアクリル板のような仕切りを設置するか否か（透明度によっては子どもの視力低下が心配であり、購入予算の確保と使い方についても懸念事項が多数ある）。（小）
- ・修学旅行、体育大会、文化発表会等の開催の有無や開催するためには、どのような対策が必要なのか。（中）
- ・文化祭や合唱コンクールなど室内の全校行事は密を避けながらどのように実行するか。（中）

* * *

- ・職員室の会議等における過密状態の解消。（小）
- ・職員室を分散させたときのプリンターの数の確保（ネットワーク構築も）。（中）

換気による問題

- ・教室等の換気の問題。 ※同様の回答2件（小2）
- ・エアコンと換気の兼ね合い（電気代の増加、開放しすぎるとエアコンが効かない等）。 ※同様の回答5件（小2・中3）
- ・梅雨時期や大雨時の換気。雨の降込みは防げるが音は防げない。（小）
- ・真夏に窓を開けて授業ができるか。（小）
- ・エアコンが整備されて初めての夏です。昨年度までの扇風機を使用していないので、逆に換気が心配。（小）
- ・教室では常時マスクを使用しているが、マスクをしていることで例年より体感温度が高く、エアコンをできるだけ活用する方針ではあるが、換気についてもアナウンスしていかないと、子どもたちはもちろん職員も忘れがちになる。（小）
- ・気温が上がり、エアコンを使用するようになったが、換気が必要なため窓を開けて運転している。職員に説明をしたが、窓を全開でエアコンを使用しているクラスがあり、エアコンの温度を低く設定しているため、電気代の高騰が心配。職員曰く、熱中症も心配だが、コロナ感染の心配が強いとのこと。（小）
- ・エアコンの使用と換気について理解がさまざま、学校によって光熱水費の差が激しくなるのではと考えられる。また、担任によりエ

エアコン1時間使用后・換気15分くらいの場合と、使用中窓を全開にして設定温度を低くしている場合があり、使用方法を伝達しても不安があるため徹底できないので、予算が心配である。(小)

- ・エアコン稼働について、1カ所以上開けた状態での稼働となっているが、節約も考えながら稼働しなくてはいけないと思うとどのように職員に話し伝えたらよいか悩む。(小)
- ・エアコン使用の際に換気も行っているが、デマンド値の上昇や電気使用量の増加が予想されるため、市町が補正等を行ってくれるかが不安。市町によっては、他の予算、たとえば消耗品費から光熱水費への流用を指示される可能性もある。(中)
- ・教室の換気を効率的に行えるようにサーキュレーターを準備したい。予算と教室の配線が間に合うか心配。(小)
- ・教室の換気で窓をあけているが、網戸がないので虫対策で置き型の殺虫剤を購入した。(小)
- ・冬の教室等の換気がどんなふうになるのか心配。(中)

コロナ対策用品の確保・情報収集

- ・保健衛生用品(アルコール等の消毒薬、ハンドソープ、手洗いせっけん、マスク、使い捨て手袋、消毒作業用のゴム手袋、非接触型体温計等)が手に入りにくい。※同様の回答6件(小3・中2・その他1)
- ・感染拡大傾向になるとすぐに品薄になるので、物品を確保できない。(小)
- ・今後に備えて、保健衛生用品をどの程度確保しておけばよいか。※同様の回答6件(小4・中2)
- ・予算が付いたとして今後購入予定の物品(非接触型の体温計等)が品薄で、医療機関は優先購入できるようだが、学校はそうではないので、購入できなかった場合の対策などどうすればよいか。(小)
- ・手指消毒のアルコールやマスクなど対策物資は学校予算からの学校契約による購入ではなく、市町村で一括購入してストックし、状況に応じて配布が望ましいのでは。(中)
- ・アルコール等は前回給食用アルコールをどこの学校でも注文し、注文の一時取りやめになった経緯もあるため、取りまとめて共同購入し、各学校へ配布といった対応をしてほしい。(小)
- ・次亜塩素酸水の取り扱いについて、国からしっかりしたアナウンスが出ていないこともあるが、教職員も知識が乏しいこともあり、活用が難しい。(小)
- ・コロナウイルス対策に有効な消耗品等の情報収集。(小)

教職員の負担増

- ・対物の消毒について。毎日のことで職員の負担になっているし、消毒はふき取っているが、物の傷みが心配。(小)
- ・消毒等による職員の負担増 → どの状態になったら軽減されるのか等の指針もない。(小)
- ・職員の負担増(生徒への朝の検温、清掃、特別日課…と教員の負担は増えるばかりで、行事の何をやるか等の検討が進まない。負担が増えるにつれ、すべての活動が「とりあえず形だけする」というものになってしまうように感じる)。(中)
- ・対物の消毒等の対応は、今年度だけでなく今後も継続されていく課題である。現在は職員も地域(保護者)も敏感になっているため現場が頑張ることで対応しきれているが、この対応ではいずれ限界(疲労度的にも予算的にも)が来る。地域ボランティアの活用や地域住民、PTAの協力を得るなど、教員は可能なかぎり消毒の実働部隊にならないようにする取り組みが必要。地域コーディネータとしての事務職員の働き方が期待できる場面かと思うので、任命権者にはそうした方向の研修や講演会等を開いてもらい、管理職の意識改革や事務職員の成長の一端としてほしい。予算も同様で、今年度にどれくらいの額が消毒関係に使われたのかを把握し、来年度以降、消毒関係の費目を新設したり必要な額を新たに予算計上する等を求めている。(中)
- ・どの程度までコロナ対策を行えばよいか。(中)
- ・次亜塩素酸ナトリウムでの消毒作業に手間と時間がかかる。(中)
- ・毎日の消毒&清掃作業を職員が30分くらいやっているが、学校再開の中で負担が大きい。業者等に入ってもらえないか。(小)
- ・消毒やトイレ掃除などの作業を、職員で行うのではなく、業者に委託できないか。(小)
- ・学校や保育園の休校により休みを取る職員がいる一方、逆にその穴埋めを強いられる職員もいて、不公平感が残った。(小)
- ・教員の加配(2mを確保するには1クラス15人になってしまう)。(小)
- ・ヒトが足りないならPTAや地域…というのも安易すぎると考える。スクールサポートスタッフを雇い、消毒作業にも従事させる…、これでもどうなのか悩ましい。(中)
- ・現在のALTが7月までの勤務で、新しいALTが来ることになっている。日本への入国が難しい場合は、配属がいつになるかわからない状況である。(小)

給食費・校納金等の問題

- ・校内で感染者が出て急ぎょ休校となった場合、給食を止めることは困難であり、余った食材の対応に困る。また、断続的に休校になり給食が提供できなくなると、給食費を返金するかが問題になる。届いてしまった食材分は徴収しなければ支払いができないが、保護者から見れば給食を提供されていないのに徴収することについて不満がでるのではないかと。(中)
- ・突発的に学校教育がストップした場合の校納金の取り扱いが検討課題だが、臨機応変に対応するしかないと思う。(小)
- ・校納金の執行について、今後の新型コロナウイルス感染状況により、執行不可の項目(修学旅行、テスト等)が生じてくる場合があるため、常に状況を把握し、適切な事務処理を行う必要がある。(小)

修学旅行等の再検討

- ・修学旅行について、保護者説明会が行われる予定だが、感染防止のための経費負担増の問題、感染リスクの問題、キャンセル料の問題があり、実施するためのハードルが高い。(中)
- ・今年度および次年度の修学旅行の開催時期・場所など。また、下見に関する予算措置について。(中)
- ・5月実施予定の修学旅行(広島方面)が11月に延期されたが、移動や宿泊等の衛生管理に問題はないか。(中)
- ・修学旅行が中止になった場合にキャンセル料を市のほうで負担してもらおうなどの対策を講じてほしい。(小)
- ・修学旅行等の宿泊行事が延期となったが、今後の感染状況によっては実施できるかが不透明である。計画変更による費用の増加、中止となった場合のキャンセル料など保護者の負担も懸念される。引率教員の旅費事務についても、実施時期が年度末に近づくほど、旅費の執行計画が立てづらい。(中)
- ・社会見学等で町バスを利用していたが、3密の関係で乗車定員が変わり大幅な見直しを迫られた。5年の社会見学や6年の修学旅行は実施の方向で動いているが、保護者負担額が例年並みに済むか見通しが立っていない。(小)
- ・集団宿泊や修学旅行先で本校の生徒が感染した場合、施設や宿泊先が休業を強いられることに対する賠償責任などはどうすればいいのか。修学旅行の保険にはその部分は含まれておらず、賠償するのは誰なのか。(中)

就学援助ほか貧困家庭への対応

- ・昨年度まで申請のなかった家庭から就学援助の申請あり。コロナの影響で他にもこのような家庭があるのではないかと。とてもデリケートな問題なので自己申告を待つほかないのだろうか。子どもの様子などから保護者の経済状況等をしっかりと把握し広報していく必要がある。※同様の回答4件(小4)
- ・就学援助金の支給が例年の7月から9月になったため、学期内に学校諸費を支払えない家庭が出てくるのではないかと。また、業者への教材費の支払いが滞る可能性もある。(小)
- ・家庭でも支出は増えていることから、未納家庭へのアプローチは慎重に行う必要がある。(小)
- ・保護者の収入減少による学校徴収金未納の増加(その家庭をいかに早く見つけるか、就学援助の申請を進めたい)。(小)
- ・保護者負担軽減と、市費(配当予算)や校内各種会計の減額(休校中は、さまざまな学校徴収金の会費集金を見合わせ、教材等も精選に精選を重ねてはいるが、自治体からの配当予算が減り、集金等の会費を以て運営している各種会計も総額が減額となっており、今後の指導に十分な対応ができるか)。(中)
- ・就学援助費が前年度の収入のみでの認定であるため、今年度に困窮している家庭には対応できない。(小)
- ・就学援助は例年、前年の所得で認定が行われるが、現在の収入が減少している家庭の認定をする方策を考えてほしい。(小)
- ・就学援助に関して、家庭状況の変化をきめ細かく見極め、必要な家庭に行き届くように、担任にもお願いをしておく。(中)
- ・就学援助事務について、担当者だけでなく事務職員も業務を把握し、協働していく必要がある。(小中一貫)
- ・この度の外出自粛により経済的に苦しい家庭が出てくるのでは、と町の広報誌に就学援助のお知らせが掲載された。集金状況等を見て、事務職員からの声掛けも必要である。(小)

コロナ関連予算の確保と予算執行の問題

- ・コロナ対策 関連の予算(アルコール等の消毒薬、マスク、使い捨て手袋、非接触型体温計等)の確保、追加予算の確保。※同様の回答14件(小11・中3)
- ・新型コロナウイルス対応のための保健衛生用品(消毒液、石鹸液、ペーパータオル等)を見積った結果、現状が続く場合、年間12万円程度の費用がかかることがわかった。特に今年度は有効で効率的な予算計画、執行が必要である。(小)
- ・今後、いざという時のためにアルコール消毒液、マスク等の確保が必要だが、学校予算での対応となるため今後の予算面での不安がある。(小)

- ・感染拡大防止のための物品を学校で購入する際は、「万一のために」と余分に購入する傾向がある。地教委のガイドラインでも学校で用意すべき基準を明確に定めてはいないこともあり、今後の負担が心配である。(小)
 - ・衛生用品購入や感染予防に関する支出の計画が立てにくい。(小)
 - ・消毒薬や掃除の際のゴム手袋、給食の際のおぼん拭き用のティッシュなど、衛生用品の消耗が激しいと感じている。学校予算やさまざまな資金援助を確認しながら予算執行をしていかなければならない。(中)
 - ・消毒薬、予備のマスクなど保健衛生関係予算の確保をどうするか。現在は中止になったさまざまな行事の消耗品費や、年度末に不足した場合、休校した際の光熱水費などの予算流用でなんとかありますが、大規模校は大変だと思います。(小)
 - ・消毒薬等コロナ関連の予算をどうするか、いまだ指示なしで学校まかせ。校内予算でコロナ対策費として30万円計上している。授業再開で教材教具の掲示関連消耗品が顕著に増えた(掲示板、ホワイトボード、マグネット、コーナーポスト)。(中)
 - ・消毒薬や液体せっけん等、保健衛生関係の確保で学校間格差が生じているようです。市で最低限の基準は示し、準備すべきと考えますが、政令市のような大きい市では、市教委での一括確保も難しいようです。(小)
 - ・休校期間が長かったため、電気料、水道料等の予算が大幅に余る状況である(当市では光熱水費も学校配当されている)。しかし、コロナ対策予算が措置される予定でプラスマイナスでみるとどうなるのかわからないし、第2波の懸念もあり、予算の見通しがつかない。余る電気代、水道代を有効に使い、この際、備品費や環境整備等に流用できないかと思っている。(小)
 - ・給食の時間にアルコールとティッシュを使っているが、アルコール5Lとティッシュ100箱が一週間でなくなった。お金がいくらあっても足りない。早く国からの予算を各学校におろしてほしい。(中)
 - ・アルコールとあわせて、ペーパータオルやトイレ用洗剤など今までよりも多い使用となっている。予算の確保が必要であるが、市町村により補正や流用の制度が違うため、不安がある。(小)
 - ・オゾン生成機能付き加湿器などを購入したいが高価なので、予算等をどのように確保していくか課題だと思います。(小)
 - ・消毒関係用品、コピー用紙、封筒代により、予算が切迫している。ただ、予算が配当されても品物が欠品している物品が多いので、予算配当ではなく、物品を配当してほしい。(小)
 - ・消毒液がかなり高値になっていて、購入時に不安になる。(その他)
- * * *
- ・休校中の自宅・保護者への連絡文書、課題作成のための紙代、インク代、マスター代、コピー代、プリンターのトナー代、電話代等がかさんでいる。予算の確保、追加予算の確保はできるのか。※同様の回答10件(小7・中2・その他1)
 - ・臨時休校が3月から始まったために、昨年度の予算では宿題等のマスター・インク・紙代等が収まり切れず、今年度の予算をすでに使用している状況だった。4月が臨時休校だったこともあり、前年度に対して大幅に支出が増えた上に配分予算が減らされたため、予算配分説明会の段階で「絶対足りません」と意見を言い、補正してもらおうようお願いした。一方で各行事(運動会・文化祭など)が中止・縮減された場合の予算は流用できないといわれ、有効活用のために流用ないしは補正できないかをお願いしている。(小)
- * * *
- ・第2次補正予算の学びの保障の1校あたり100万~300万円の支給について、外部から情報は入ってくるが、6月25日現在、市教委からは何の情報も無いので、通知がおりてきてから計画的な予算執行が行えるか不安です。(小)
 - ・学校への資金援助が言われているが、本当に資金援助があるのか、あるならば何円なのか早めに知りたいです(ニュースで発表されて以来、先生方から資金援助があることを前提とした要望が数多くあがり、回答に窮しています)。(小)
 - ・政府から各学校に100万円交付されるといった話が来ているが、明確にCOVID-19にかかるものでなければだめだと地教委から言われ、何回も要求書を出しなおしている。教室の換気対策として空気清浄機を要求したが駄目だったらしい。(小)
 - ・市教委から、保健関係の消耗品費として予算がおりてきた(150万円くらい)。しかし、どんなものを購入して良いのかなどの詳細な連絡はまだない。また、保健関係以外(たとえば清掃用具、コピー用紙、トナーなど)にはその予算は使えなさそうなので、有効に予算活用するためにこれから考える必要がある。(小)
 - ・新たに政府から学校への資金援助が決まった。何にいくら使うのか、学校事務職員の出番だと思うが、市区町村で整備や購入に対して対応の仕方が異なってくるのではないかと。学校の意見を取り入れた方策をお願いしたい。(小)
 - ・政府から学校への資金援助は自由に使わせていただきたい(コロナと関係ないものの購入など)。(小)
 - ・2次補正が決定してから計画書を出すまでが短すぎて、十分に検討ができなかった。(中)
 - ・学校保健特別対策事業費補助金の活用。(小)
 - ・配当予算の有効的な使用。(小)
 - ・追加予算のスムーズな執行(校内での調整、市教委との連携)。(小中一貫)
 - ・予算について教育委員会との連携をはかりたいが、今はまだうまくいっているとはいえない。(中)

- ・年度初めに立てた年間指導計画や教材購入計画に変更が生じた場合に集金計画をどうするのか。(小)
- ・今年度は、ほとんどPTAの活動が行えない。その活動についての予算をどうしたらいいのかをPTA役員の方と相談しながら行っている。ご理解を得ながら、今年度在籍の児童のために予算を執行していいかどうか。(小)
- ・学校再開等の支援の予算が、現場である学校にどの程度下りてくるのか不安。(小)
- ・今年度は蛍光管の製造中止に係る買い置きもしなければならず、コロナ対策とともに予算確保が心配。(小)
- ・このままでは感染症対策に校内予算を食われて、通常の教育に予算がまわらなくなる。(中)
- ・今後、コロナウイルス流行の第2波、第3波ときたときに何か備えておくことはあるのか。予算も不足にならないように計画的に支出を慎重にする必要がある。(小)
- ・今回の感染症対策にこれという対応がとれないので、あれもこれもと購入しなくてはならなくなる。(中)

オンライン環境の整備

- ・学校の情報機器の整備が追いついておらず、iPadやWi-Fiの設備もない中で新型コロナウイルスだったため、すでにiPadの配備が進んでいる熊本市とは教育に差があったように感じる。(中)
 - ・再休校となった場合への備え(オンライン学習の環境整備等)(小)
 - ・第2波に備え、ICT環境を早急に整える必要がある。また、今後終息したとしても、将来の新たな感染症に備えて、リモート授業や教職員の在宅勤務を年に数回実施するなど、慣れておく必要があるのではないかと。(中)
 - ・現在はリモートなどICT関係を活用した対策ができていない。学区の状況から、子どもにとってどの環境が適しているのか分析すべき(詳しくは調べていないので…)。(小)
 - ・今後全国的に感染症対策としてオンライン授業の検討やそれに伴うICTの導入があると予測されます。その対応のために事務職員または既存の情報担当教諭の仕事量が著しく増加する可能性がないでしょうか。また、情報(IT)関連の支援員は市町によってはない場合があるため、情報関連の専属職員を各学校1名ないし、地区に1名確保できないでしょうか。(小)
 - ・現状でリモート授業できる環境・設備が学校にない。他の市町においては、動画配信による授業を行ったところもあると聞いている。第2波が来た場合で休校となった場合、環境を原因として子どもの学力に差がでる。(中)
 - ・オンライン授業を実施するまでに至らなかったため、今後状況が悪化した場合に動作できるのか不安(職員研修、各家庭のPC保有状況・ネット環境等)。(小)
 - ・ICT機器(PC、タブレット端末等)がそろっていない、また職員も自分自身もそれらの知識が乏しいため、第2波がきてもオンライン授業を始めるようになったらと思うと不安。学校予算ではどうにもならない。(中)
 - ・再度、自粛要請が出て休校措置となった場合、オンラインでの授業実施も考えてはいるが、ICT環境が整っていない家庭をどうケアするか(タブレットは学校のものを貸し出しても、Wi-Fi環境の整備については、国・市町等、行政の支援がほしい)(中)
- * * *
- ・事務関係は持ち出せないものが多いうえに、メールで送ってはならない文書・資料も多い。また、町をまたいでのやりとりが多い(郡として事務連絡会等を開催している)ためネット整備方法が異なり、広い部屋に離れて座って会議をする方が早いし、楽という雰囲気がある。このため会議に関してはリモートやネット会議といった考え方は起きていない。(小)
 - ・職員のテレワークの環境整備(ソフト・ハード面)。(小)
 - ・最低限度のリモートワーク・リモート会議ができる環境を設定すること(同じ神奈川県域の市町村で違いがある。スカイプでリモート会議を行っている地域もあるとのこと。個人情報の管理についても地域共通での認識をし、必要な管理を行ってリモートワークに繋がるような形を考えられればこのような事態にも対応できる、と感じた)。(中)
 - ・校務用PCにはカメラや音声の機能がなく、ギガスクール構想には事務職員のPCは含まれていないようなので、事務職員が会議をするときの整備(周辺機器を繋げばよいのですが、本体に欲しいところです)(中)
 - ・学校現場(教員部分と市教委・県教委)のオンライン化、オンラインコミュニケーションの実現、活用が課題です。とにかく集まらなければ仕事にならない体制を変えなくては、職員会議も含め、業務連絡をオンライン化することで、どこにいても、いつでも意思疎通を取れるようにすると、教員の帰宅時間も確実に早められると思います。自分たち事務職員だけは、市教委が用意したネット環境をどんどん使って日常の業務連絡はオンライン化しました。勤務時間中はいつでも、画面を通して全体に連絡、全体に質問ができます。今回のことで事務研究会の総会はSkypeのミーティングで行いました。議事も迅速効率的に終わり、効果を実感しました。実際の出張会議とオンライン会議のいいところを合わせて活用していけたらと思います。その他、資料の共有も進められています。(中)
 - ・対面せずに研修や会議ができる環境の整備が必要。Zoom等のオンライン環境も整備等。(小中一貫)
 - ・県教委主催の新採研は、オンラインやリモートで実施してほしい。(小)

- ・今後の研修のあり方について、ウェブでの講習など、集まらなくても受講できるシステムの構築が必要ではないか。(中)
- ・Zoomを取り入れたリモート会議等の推進。そのための予算確保等が必要。(小)
- ・教職員自体のICTリテラシーを向上すること(あるいは拒絶反応の軽減)は、課題かと思います。ICTを嫌うことも価値観の一つなのでそれ自体も内包したような生態系であるべきかとは思いますが、子どもたちへICTを活かして社会を循環させることを教える大人として(あるいは子どもから逆に教えられることもあると思う)、我々自身が、ICTの活用(同時に、質の良いアナログの研究)に前向きになっていかないといけないと思う。(小)

* * *

- ・各家庭のWi-Fi環境調査をし、未整備の家庭への対応を教育委員会にお願いしている。(小)
- ・家庭のネット環境の差をいかにフォローするか。(小)
- ・課題を学校のHPに載せたいが、プリンターがない家庭もあるので難しい。(小)
- ・遠隔授業など、保護者のハードが整わないのに、その人たちを置き去りにして進められている。(その他)
- ・オンライン学習は、普通学校を対象にしたものであり、特別支援学校は“枠外”なんだと感じる。障害のある子どもたちの学びの保障をどう行えばよかったのか、今後同様のことが発生した時に困るのではないかと思う。(養護学校)

在宅勤務について

- ・学校事務職員が、在宅勤務をしやすくするハード(パソコン・ネット)とソフト(市教委の規則や学校長のシステム作り)の環境の整備。教員についても同じ。※同様の回答5件(小4・中1)
- ・事務職員の在宅勤務のあり方。※同様の回答4件(小3・中1)
- ・事務職員の在宅勤務の在り方。紙でなくデータでの諸手当帳簿等の管理など(個人情報の取り扱い)。(中)
- ・今後第2波、第3波が来たときに自分の仕事をどのようにやっていくのか、リモートワークになった場合の文書の受付、データの管理などどうするのか。(小)
- ・状況悪化により在宅勤務を強いられた場合のセキュリティポリシーの改定及びシステム環境の整備が必要。(小)
- ・事務職員が在宅勤務をするなら、教育委員会とつながっているサイボウズ等のインフラを整備する必要がある。(中)
- ・現状では、事務職員が在宅勤務を行うことは難しい or 無理。※同様の回答3件(小2・中1)
- ・事務職員の在宅勤務について、各地区・各校の事務職員によって異なり、都庁のように組織的な統一対応ができないこと。(小)

共同実施のあり方

- ・事務職員同士が対面せずに行える共同実施や研修会のあり方(メール、リモート、オンライン会議など)。※同様の回答5件(小1・中4)
- ・事務センターでの感染防止対策。人数が多いのでセンターが開催されると密にならざるをえないため対策が必要。(小)
- ・今年度4月1日から共同実施が開始されたが、コロナの影響で一度も集まることができず、運営ができない。リモート会議の要望をあげ、現在検討中である。これによって学校を空けずに共同実施を行うことができるか。(小)
- ・共同実施(川崎でいう「相互支援事業」)は、Zoomで行います。直接会って話せないのが少々不安はあります。ただ、これが新しい時代だと思っています。(中)

学校行事や働き方の見直し

- ・学校行事の再検討(行事の精選とそれに伴う予算の検討)。すべてコロナ前に戻さなくてもいいのではないか。これを機に真剣に働き方を見直してほしい。※同様の回答2件(小1・中1)
- ・行事の大幅な見直し。修学旅行や校外活動の是非、職場体験等も縮小するか…。※同様の回答3件(小2・中1)
- ・運動会や文化祭の在り方についてコロナ対策も考えつつ、生徒への教育効果も考えるのに頭を悩ませている。今後の行事の持ち方についてはこれから考えていかなければいけないのではないかと思う。(中)
- ・体育大会が5月から9月に変更され、熱中症対策だけでなく、競技内容やテント数等も検討しなければならない。(中)
- ・運動会は全校での開催は見送りにし、学年別にするか、低中高の2学年ずつにするか、6年生の活躍の場をどう設けるか。(小)

保護者との関係

- ・休校中、週に2回程度、保護者と課題や文書の受渡しを行ったり、保護者宛一斉メールで連絡をしていたが、修正や訂正が頻繁に発生したり、情報量が多すぎるなど、一部の保護者が混乱したり、書いてあることなのに電話で問い合わせきたりと、情報の共有が大変だった。(小)

- ・休校期間中の各家庭への電話連絡。電話機の台数は限られているので、学年ごとに時間を決めて行ったが、相手も仕事なので、なかなか時間通りにはいかなかった。(小)
- ・PTA奉仕活動の自粛(?)により、従来学校がしてこなかった環境整備(草刈り、エアコン掃除、他)を今後は誰がするのか、どの経費で実施するのか。(中)
- ・学校行事(体育祭、文化祭、参観日)への参加を制限することで、保護者の協力が得にくくなるのではないかと。(中)

熱中症対策とコロナ対策の両立

- ・熱中症対策とコロナ対策(マスク着用や換気)の両立について。※同様の回答2件(小1・中1)
- ・コロナ対策と並行して、夏期に実施される登下校や授業など学校生活での熱中症対策。(小)
- ・今年度、プールを使わないことと1学期が延長することが決定し、猛暑の中、体育の授業が行われることが予想され、熱中症対策のための環境整備。(小)
- ・エアコンのついていないランチルームや特別教室への対応をお願いしている。(小)
- ・熱中症予防対策。※同様の回答2件(小2)
- ・子どもたちの暑さ対策(マスク)と、職員の暑さ対策(マスクをはめたままの授業、体調不良)。(小)
- ・マスク着用はこれからの時期かなり暑いと思うし、熱中症のリスクも高くなる。暑さの感じ方や水分の取り方や量など、どれも個人差があると思うので、集団生活の中でどのような工夫をし、未然に防いでいくかが課題だと思う。(中)
- ・今後暑くなる中で、マスクやフェイスシールド(教員)をし続けるのが苦しい。(小)
- ・透明マスクを熱中症防止のためコロナ対策予算で購入し、職員・生徒へ購入し配付した。使用するタイミングや保管方法など検討中。(中)

夏季休業の短縮による問題

- ・夏季休業が短縮され、授業時間確保のため8月にも給食の実施が予定されているが、配膳室にはクーラーがなく、食中毒等衛生面での心配がある(市教委が冷風機購入のための予算を検討?)。(中)
- ・通常の夏季休業中に授業があるため、児童生徒・教職員の健康管理に不安がある。(中)
- ・夏休みの期間も課業日となり、熱中症の心配を感じる。教室はエアコンがあるが、体育の授業でグラウンドや体育館を使用する場合や登下校時の暑さ対策が急務となる。(中)
- ・休校に伴い夏季休業中が授業日になり、空調のない教室での授業での熱中症対策。(中)
- ・普通教室にはエアコンがあるが、特別教室には設置されていないため、夏の授業が不安(夏休みが短くなったため)。(中)
- ・夏休みが短くなり(8月1~16日)、土曜授業も増え、消毒作業など業務も増えており、児童や職員が体調をくずさないか心配。(小)
- ・通常の夏季休業中にも授業があるため、特別休暇(夏季)を取得しづらい。(中)
- ・夏休みが短くなり課業日が増えたことで、冷房をつける日数が増えるので電気代が心配である。(小)

学校の避難所としての役割の再検討

- ・避難所の役割を担う学校で、いかに密を避けた整備・準備ができるか。(小)
- ・複合災害への備えが必要。検温等で通常以上に人手が必要。また、3密を避けるため、体育館だけでなく校舎も開放する可能性もあるが、避難者が広範囲にわたることで、対応する人手が足りなくなる。また、避難が長期にわたると教育活動再開が遅れることも懸念される。(中)

学校で感染者が出た場合を想定した視点が必要

- ・今後大地震等の災害が起きた場合、避難所である学校の体制。3密を避けるための対策等を事前に職員で打ち合わせしておく必要がある。(中)
- ・感染者が出た場合の危機管理マニュアル作成。(小)
- ・感染拡大防止に全力をあげることも必要であるが、「ウィズコロナ」の視点も大事だと思う。県内の中学校で生徒が感染し、休業措置をとることになり、校舎の消毒作業が入った。このニュースを自宅で聞いた当該生徒の気持ちを考えると辛すぎる。このことは当該生徒以外でもいつ起こるかわからない不安である。学校の安全配慮義務への視点が課題に思える。(中)
- ・もし職員が感染した場合で、感染経路が不明な場合の公務災害の判断はどのようにすればよいのか。(中)
- ・校内で新型コロナウイルス感染者が出て学校が休校となった場合、時期によっては給与システムへの入力ができなくなる恐れがあるのではないかと。(中)

子どもたちのメンタルケア等

- ・児童生徒の体調把握だけでなく、家族の体調把握をどうしていくか。(小)
- ・子どもと保護者のメンタルケア(学校だけは厳しい)。(小)
- ・ガラス破損が異常に多発している。休校に伴う子どもの精神衛生上の影響との関連について調査する必要がある。(小)

その他

- ・保護者負担の軽減を継続的に進められるような体制づくり。子どもの居場所としての図書館の充実や、子どもが自己を表現・解放できる技能教科について備品の充実、また、子どもが教師に相談できる場所を複数個所確保する。(中)
- ・何もかも予算がない中で、アイデアと工夫によった対応をしなくてはならない。単独財源のとぼしい自治体は国の補助金を得られない。裕福な自治体とはそもそも異なった対策を練る必要がある。(小)
- ・柔軟な対応が求められるなか、初任者として対応できるかの不安。(小)
- ・授業日数等の調整。(小)
- ・市教委が休校等の緊急連絡について、学校と保護者が契約している「安心メール」を使うよう指示してきたが、市教委がこのシステムを連絡手段として前提にするのであれば、市が業者と契約すべきではないか。人のものに安易に乗っかるこの体質が、働き方改革が絵に描いた餅となる元凶ではないか。(小)
- ・コロナウイルス対策と子どもの教育活動のバランス(コロナ対策のため、本来やらなくてよいことをやらなくてはいけないことと、本来やるべきことをやらせることができないこと。たとえば、ゴミ捨て(感染物の疑いがあるもの、ティッシュやマスク等)や、掃除(トイレ等)等)。コロナウイルスの状況や社会的状況の変化を踏まえ、いつから、いつまで、これから先もずっと?どの程度等の取り組みの対応。(小)
- ・学校で感染を拡大させないためには水際対策が重要だと考えられるが、非接触型体温計は表面温度しか測定できないのであまり意味がないといわれ始めている。現在、深部体温が重要なことが判明してきたので、登校前の体温測定の徹底が必要である。しかし、どうしても生徒、そして教職員までも意識の低下が否めない。この意識の高揚をどうしていくかが課題である。(中)
- ・給食や授業でいくら呼びかけても児童生徒自身が考え行動しなければ全く意味がない。児童生徒に考えてもらうために、新しい学校様式を目に見えるハード面での工夫は何ができるだろうか。(小)
- ・児童会活動や縦割り活動などで、6年生のリーダーシップが育まれる最初の期間(昨年度3月〜)が奪われてしまっている。(小)
- ・同じ地域の学校間での共通ルールの設定(感染防止のための消毒等衛生面に関するルールからはじまり、授業時数や試験内容日程の設定など教育課程に関わるあり方まで、市内での学校判断の側面が大きすぎるように感じている。同じ地域であるにもかかわらず、隣の学校と日課表が違う、試験の仕方が違う、違いがあることに教育の平等が損なわれるのでは…とうっすら感じた。校長の権限があることを前提とし判断の元となる市内の共通ルールを持つという事もある意味大切なのでは、と感じた)。(中)
- ・市のほうから新型コロナ対策のための設備調査があり報告したが、何も実施される見込がない(連絡等も一切なし)。調査だけ行いう等の余計な仕事が増えたように思う。(中)
- ・会議は中止になっているが、各種調査類は例年どおり来ている。教育課程や教育活動がこの状態で監査対応等ができるのか心配である。(小)
- ・コロナ禍の影響で児童の転出入が少しずつ起き始めている。学級費の精算など担任と詰める必要がある。(小)
- ・県や市町村単位の大会等の実施予定が出ておらず、校内行事の実施時期を早めに決めておくことができません。(中)
- ・会議や研修のあり方、持ち方。教員は研修が保証されているが事務職員にはない。(小)
- ・(地区事務研)集まれる状況であれば研修会を開催したいが、そうでない状況になっても、研修会の中止や延期、規模の縮小などに柔軟に対応できる地区事務研の体制づくり。(中)
- ・事務職員間のコミュニケーションのあり方。(小)
- ・中止になった分の研修の内容をどうやって補うのか。自分で勉強あるのみですが…。(小)
- ・市や県の研修会、研究大会等の開催判断が難しい。(その他)
- ・今年度、地区の研究会が中止となったので、他市町の事務職員と対面で交流できないこと。(小)
- ・郡市単位の地区研究大会の開催が未定であり、研究発表に向けてのレポートや発表準備計画が立てられない。(中)
- ・研究団体における研究活動を集まることなくどう進めるか。Web会議システム等を活用したいが、市のサーバ容量の関係上利用することが難しい状況がある。(小)
- ・運動会における児童のマスク対応(管理、扱い、どこまでつけさせるのか)。(小)
- ・施設開放を現在休止しているが、いつから再開になるのか。再開した場合の消毒等の方法。(小)

- ・ P T A総会の開催について。 (小)
- ・ 休校中の運営委員会で、校長が「運営委員会にいる人は、学校が再開するイメージを持って、再開するために必要なこと、再開したときのプランを考えなければならない」と話していたことが記憶に残っている。運営メンバーとして、目の状況を確認するだけでなく、先を見通した対応・対策を考えることの大切さを知った。コロナ禍のみならず、今後の職務遂行上の課題としたい。 (中)
- ・ 在宅勤務や場所を分散しての会議、消毒作業等により、職員室から人がいなくなる場面が多くなった。そのような中、窓や扉、鍵が開いたままのことがあり、無用心さが感じられることがあった。 (中)
- ・ 地域とのふれあいを、新しい生活の中でどのようにして実施していくか。 (小)
- ・ 市の予算も厳しい状況となっており、いよいよ職員の給与減もあるだろう…。 (小)
- ・ ウイルスに対するアルコールの有効性が示されているが、アレルギーのある児童もいるため、手洗いの徹底のみでどこまで感染が予防できるのか心配。 (小)
- ・ 秋からトイレ改修工事が入る予定。全部仮設トイレになり使える水道も限られるので、手洗いやトイレの使い方を検討中。 (小)
- ・ 本校の地域は全くコロナ患者がいないので緩やかな対応だが、ほかの学校がどの程度対策をしているのか情報が欲しい。 (小)

Q3 貴校独自に工夫していることがあれば教えてください。（自由記述）

登校時の消毒・検温等

- ・児童玄関に「消毒液」「マスク」を常備。（小）
- ・児童が登校する際に、玄関口で一人ひとりに消毒液を手にかける。（小）
- ・毎朝、児童玄関前での手指消毒。（小）
- ・アルコール消毒液による手洗いは手荒れの恐れありということで、給食前という希望が学年主任から企画委員会で出たが、外部からの持ち込み遮断が第一と事務職員が反対し、登校時となった。（小）
- ・生徒の登校時、給食前等にマスク着用、アルコール消毒を養護教諭が放送で呼びかけ、生徒や職員への周知を行った。（中）
- ・生徒の登校時の指導の際に、併せて体調確認を取り入れた。家庭での体温測定ができていない生徒に対しては、非接触型体温計を手首付近に近づけて温度測定を行っている。（中）
- ・登校時、昇降口前で迅速に体温チェック表を確認できるように、ランドセルの横に検温票をぶらさげられるよう工夫をした（紛失の可能性もあるため、表は出席番号のみの記載としている）。（小）
- ・靴箱の近くに手指消毒液を置き、外から帰ってきたら消毒をするよう声掛けをしている。（小）
- ・生徒登校時、昇降口に入る前に健康観察を行っている。（中）
- ・学校再開からは、非接触型体温計での計測や次亜を含んだタオルでのふき取り。（中）
- ・体温チェックは、毎朝玄関で養護教諭が行っている。（小）
- ・登校時に玄関に職員（校長、教務主任、養護教諭、特別支援担任）が立ち、アルコール消毒を実施。学校再開後ひと月が経過したところで、高学年玄関は児童自身が消毒を行うこととし、低学年玄関のみ養護教諭が対応。（小）
- ・学校再開後2週間くらいは、職員が朝の登校指導と付き添って集団下校を行っていた。（小）
- ・登校した児童から校舎外（校門～下足箱の間）に並んで列を作り、健康観察カードのチェックを行っている。列は1メートルごとに白線を引き児童が密にならないようにしている。（小）
- ・市教委からの支給前に非接触型体温計を複数個準備し、登校前に検温を怠った生徒へ、玄関での検温を実施している。（中）
- ・朝の検温。忘れた生徒のため非接触型体温計を準備した。（中）
- ・体温検査の場所を設けて、体温を測ってこなかった児童がその場所に来やすいように（靴箱から）道順を示した。（小）
- ・担任に体温計、アルコール、モーリスを配布。登校後、教室で健康チェックカードを回収し、検温ができていない児童の検温をする。（小）
- ・健康観察カードにて体温チェックの記入（各自宅で）。（小）
- ・毎日の検温（健康カードへの記載）について、家庭で計り忘れた児童に対して、教室外（廊下）で担任が確認作業をしている。その際に「密」を避けるため、電子体温計（非接触型）を購入して活用している。（小）
- ・検温を忘れた生徒に対しては、非接触型体温計により朝学活前に副担任が必ず検温をする。（中）
- ・健康観察カードを作成し、教職員、生徒共に毎日朝晩の検温の記録をつけている。（中）
- ・児童、教職員が体調や毎日朝晩の体温を記入する「健康観察カード」を活用。（小）
- ・非接触型体温計を一台購入した。（小）
- ・職員室の出勤簿の横に、非接触型体温計を設置し、毎日検温してから出勤印を押印している（人もいる…）。（中）

給食時

- ・給食は密にならないように3部屋に分かれて食べている（通常2部屋）。（中）
- ・給食は間隔を空け、おしゃべりは一切なし。スペースに限りがあるため、学年によっては廊下で壁に向かって給食を食べている。（中）
- ・給食は個人の机で食べることとし、班の形に机を移動させないこととなった。（中）
- ・給食は簡便なワントレイにして、個包装のパン、ジャム、ゼリー、惣菜等をできるだけ活用する。（小）
- ・給食は品数を減らし、配膳時にはフェイスシールドとポリエチレン手袋を着用。食器を下げるときも手袋をする。（中）
- ・給食時の配膳はセルフ方式にし、給食室で児童が密にならないように、おぼん・食器・食缶をワゴンに乗せて、担任ほかで配送して回っている。（小）
- ・給食の配膳は、教員が行っている。（小）
- ・給食が再開した6月中はPTAが配膳に協力をしてくれた（低学年を中心に）。（小）
- ・給食時の配膳方法等の工夫（動線の指定・時間をずらすなど）。（中）

- ・給食前の机や配膳台の消毒に大量の雑巾を使用するが、毎日、洗濯機→乾燥機にかけて、清潔なものを使っている。(中)
- ・無言給食中に養護教諭による保健室放送(熱中症対策の基本や手洗いの重要性など)。他校では音楽を流したり、手話による簡単な会話を児童に教えたりするようだ。(小)
- ・歯磨きを一齐に行わない(交代制)。(小)
- ・これまで給食後の歯磨きは一齐に行っていたが、手洗い場が密になるので、食べ終わった者から順次行うように指導。(小)
- ・これまで職員室の席で給食を食べていたが、向き合って食事をしないよう現在は事務センターで食べている。(中)

パーティション、フェイスシールド等の活用

- ・市全体で個人用のパーティションが配布されたほか、英語や音楽などの授業用に簡易なフェイスシールドも配布された。(中)
- ・村より教室用として、個人ごとのデスクシールドが支給された。付け外しが簡便で軽く、使わないときは机の横に下げることができず。(中)
- ・児童の机に設置できる飛沫防止シートを購入予定。できれば取り外し可能で、移動教室の際に持ち運べるようにできないか検討している。(小)
- ・通級指導教室や日本語指導教室など口の形や発音等を学ぶことが多い教室には、技術職員の手作りアクリルボードを設置。(小)
- ・「ことば」のクラスは対面での指導になるため、早々に大きな透明パーティションを作成して設置。(小)
- ・特別教室の対面になる席にはパーティションを設置。(中)
- ・特別教室に用務員からパーティションを作成してもらった。(小)
- ・特別教室は対面のパーティションを設置しましたが、理科室は一人1台の実験等には不向きなため、液体の泡石鹸と机ごとにアルコール消毒綿と捨てるボックスを設置しました。(小)
- ・アクリルのパーティションは高いので、安価なPET製を購入して会議室などに置いている。(小)

* * *

- ・教卓に透明のパネルを設置した。(小)
- ・対話をする授業ができないため教員がマスクで1日中話す疲労感と最前列の生徒の不安感解消のため、教卓前に黒板の幅のシールドをお手製で設置しました。材料は、在宅勤務の中で市中のホームセンターを回り材料を確保しました。(小)
- ・フェイスシールド等を活用している。※同様の回答2件(小1・中1)
- ・担任はフェイスシールドをして授業を実施。表情などがみえて良いとの意見あり。今後は児童分の購入も考えている。(その他)
- ・顔の下半分を覆うタイプのフェイスシールドの購入。マスクだと口元が見えないため。あと、暑さ対策。(その他)
- ・全職員に「フェイスシールド」を配付。(小)
- ・教員のフェイスシールド、職員室では対面する机の間にフィルムを張っている。(小)
- ・職員は授業を行うときはフェイスシールドをなるべくつける。(中)
- ・フェイスシールドは、試しに使用した教員(支援学級)から一日中だと頭が痛くなるとの報告があったため、代わりにスライドバーファイル(透明PP)のスライドバーを外して代用させて授業で発表が行えるようにしました。(小)
- ・生徒用にフェイスシールドを購入した。(中)
- ・フェイスシールドを活用することで、リコーダーの授業が可能になった。(小)

* * *

- ・透明マスクを全職員・生徒へ配付した。(中)
- ・児童の口元が目視できることと、息苦しきの軽減のために、手話通訳の方が使用されている透明のマスクをPTAに購入してもらい。全児童に配布。(小)
- ・児童及び職員の透明マスクの利用。(小)
- ・英語の授業などは特にだが、他の教科においても教員の口元が見えた方が良いので、校内予算の中で口元が見えるマスクを購入し全教員に配付した。(中)
- ・職員に透明マスク配布(子どもたちへは未配布)。(小)
- ・マスクだと表情がわかりにくい。特に新1年生は不安に思うし、たとえば国語の授業で「あいうえお」の口の形を見せられない。英語の授業も同様。教員が授業中酸欠になり、廊下で深呼吸していたこともある。透明マスクは地元で手に入らなかったため、個人的に購入して分けた。今は教材業者でも取り扱っているので、授業用として公費で教員1人1枚分用意した。(小)

* * *

- ・職員室は飛沫防止のためビニールシートと園芸用の支柱でパーティションを設置した。(小)

- ・職員室で向かいあう席の間にパーティションを設置。ラッピング用の0.04ミリの透明シートを使用した。(小)
- ・職員室や事務室の机の両サイドと前面にパネルを設置し感染予防を行っている。(中)
- ・臨時休校中に、フェイスシールドや飛沫防止ガード、布マスク等を作成した。(小)
- ・職員室での来校者対応、生徒対応用にビニールで仕切りを作って対応している。(中)
- ・保護者や子どもとの面談用に、公費で透明板を購入してパーティションを手作りした。(小)
- ・図書室のカウンターや事務室の窓口に、ビニールでカーテンを作った。(小)
- ・自作で受付用シールドの試作品を作成し、必要性が高まった場合にいつでも量産(先生たちで手分けして作る)できるようにしてある(材料及び設計とかかる費用を明らかにした)。(小)
- ・受付のカウンターに、飛沫防止の透明なシートを設置。宅配便の荷物が受け取れるように、裾に紐をつけて、マグネットで、固定。必要な時に、シートを上げることができる。(中)

マスクの手作り

- ・マスク忘れの児童のため、休校中に職員で手作りマスクを作製した。(小)
- ・マスクの準備ができない生徒のために、養護教諭が在宅勤務の際にマスクの作成を行った。(中)
- ・生徒のマスク忘れに対応するため、キッチンペーパーとストッキングで手作りマスクを作成した。(中)
- ・学校を再開できない期間に、本校の調理師がマスクを全校児童、教職員分手作りしてくれた。(小)
- ・臨時休校中に、フェイスシールドや飛沫防止ガード、布マスク等を作成した。(小)
- ・臨時休業中にフェイスマスクを手作りし、各学級の感染防止セットに加えた。(小)

3密回避、ソーシャルディスタンスの確保

- ・傘さし登校を推奨。ほかにも、つばの広い帽子なども推奨。(小)
- ・登校時に3密を避けるため、スクールバスの増便をお願いし、いち早く対応いただいた。(小)
- ・スクールバスが導入されており、その乗車率は全体の8割を超えています。臨時休校期間中の登校日の頃から、窓を開ける・なるべく間隔を開けて座る・心配なときは保護者送迎を検討するなどの指導をしていましたし、教員が各バスに乗って指導を行っていました。学校再開後は各バスに乗車する最上級生の数名をバスリーダーとし、教員が行っていたような指導を生徒に行わせています。(中)
- ・以前は1カ所の校門で出入りをしていましたが、裏門を開け、分散登校を促している。(中)
- ・児童玄関を3カ所に分け、児童が集中しないようにした。玄関から教室、教室から体育館やランチルームの移動の動線を学年ごとに分けて、重ならないようにしている。(小)
- ・昇降口の時間差使用。授業間休みは、放送で呼びかけ、偶数クラス・奇数クラスで時間差をつけて外に出るよう指示をしている。下校時は、クラス内で3分割して時間差下校を実施している。(小)
- ・各学年、生徒玄関から教室までのルートを固定し(実は崩れ始めてはいますが…(^_^;))異学年が交わらないようにする。(中)
- ・大雨豪雨における児童引き渡し訓練を行った時、保護者へ各教室に迎えに来てもらうのではなく、ドライブスルー方式を採用した。児童玄関にて、職員が保護者の車に乗せて引き渡すようにしたことで、他の保護者と接することなく実施できたので感染予防にもつながったと思われる。(小)
- ・児童がグラウンドに出る場合、下足箱に集中しないようベランダのタイルに間隔を空けて下足を置く。そのために、学校職員が念入りにベランダを清掃し、校舎内に入る際に使用するマットも度々洗濯している。また、500人のズックが混乱しないよう、氏名入りの洗濯バサミで目印をつけている。(小)

* * *

- ・特殊な校舎の構造を活用し、教室周囲のエリアへ机を広げることにより、グループ活動においてもソーシャルディスタンスに努めている。(中)
- ・指導の際に、距離をとることができるように、電子黒板のマウスを無線に交換。(小)
- ・40人のクラスは、授業によっては人数を分け、少数で実施している。(中)
- ・少人数のクラスなのでソーシャルディスタンスを取りやすく、机の間隔を徹底した。(小)
- ・教室内や廊下にソーシャルディスタンスの提示。(小)
- ・荷物を取りに行くときの混雑を避けるため、教室に技術職員さん手作りの児童荷物用の棚を新たに作製した。(小)
- ・プール授業は以前は4クラス同時に行っていたが、現在は最大2クラスに限定。(小)
- ・音楽の授業を体育館で行う。(小)

・音楽の授業は生徒の間隔を広く保つため、音楽室ではなく多目的ホールで実施している。(中)

* * *

・全校集会等は体育館を窓・扉全開で行っている。体育館は休み時間の使用を禁止している。(小)

・昼休みに廊下が密になることから、体育館を歓談スペースとして開放した。(中)

・体育館で行っていた行事を可能なものは運動場で行い、3密を避けるよう努力している。(中)

・あえて児童集会をグラウンド(間隔をあけて整列)で実施。新しい学校様式を児童に体感させた。(小)

・全校集会や生徒会主催の集会などは、全クラスに配置されている電子黒板と校内放送を併用することで3密を避け、かつ有意義な会となった。(中)

・休校中は、登校日の分散登校、ホームページでの学年別動画配信。(中)

・全校朝会を、Zoomを使って実施。教室の児童の様子も見えて非常に良かった。※同様の回答2件(その他2)

・集会は校内放送で行う。※同様の回答3件(小1・中2)

* * *

・校内のいたるところにソーシャルディスタンスを保つため足形を貼っている(貼りっぱなしなので衛生面が心配)。(小)

・健康診断等で列を作る際は床に目印をし、ソーシャルディスタンスを保つようにした。※同様の回答2件(小1・中1)

・トイレ前に足跡マークを設置し、間隔をあけて並ぶようにした。トイレスリッパも間引いた。(小)

・ソーシャルディスタンスの距離を目で見てわかるような掲示を養護教諭が行っている。(小)

・ソーシャルディスタンスの啓発で、各所に小型の立て看板を設置して距離を取るよう促している。(中)

・図書室の座席を少なくし、密にならないよう工夫している。(小)

・図書館は利用学年を制限し、密集状態にならないようにした。(小)

・図書室の利用はなるべく授業時間にクラス単位で行うこととしている。(小)

・図書室の利用を停止。図書貸出ができないため、各教室に図書を並べ子どもたちが本に触れる機会を設けるため、予算を調整して移動式本棚(ブックトラック)を数台購入した。(小中一貫)

・部活前の運動部の着替えが密にならないよう、部活ごとに教室を割り当てたり、外にテントを張ったりして対応している。(中)

* * *

・欠席連絡は、今までの連絡帳を近所の児童に渡してもらう方法ではなく、メール連絡を推進中。(小)

・家庭訪問は中止、授業参観も今のところ行っていない。今後、状況を見て3密対策を考えた授業参観を行う予定。(小)

・休校期間中の課題やお知らせ配布は、学年ごとに来校日・時間(預かり時間終了後15:00~17:30)を設定し、担任が対応。家庭訪問は実施しなかった。学校によっては、家庭訪問を実施したり、校区巡りをしたりという話を聞いている。(小)

・授業参観を3日間に分散して行った。(小)

・今年度は土曜授業参観を行わず、平日に行う予定。(小)

・学校教育説明会は書面で行った。(小)

・運動会は中止。学芸会も中止し、授業参観日とした。(小)

・体育大会は午前中のみ開催予定。(中)

・無観客の運動会の映像を競技ごとに撮影した。事情があり複製等できないため、参観日に体育館各所にパソコンとプロジェクターを6台設置し、それぞれの競技ごとに繰り返し上映しておき、保護者が見られるようにした。町のケーブルテレビにも撮影を依頼し、編集したものを放映してもらった。(小)

* * *

・密を避けるため空き教室を第2職員室として使うことで、職員室機能を分散させた。(小)

・職員室でできるだけ「密」にならないようにフリーアドレスも活用している。(小)

・Zoomを使った職員会議。(中)

・職員会議を別室ではなく職員室で行っている。(小)

・職員会議を短時間で終えるよう協議・報告事項を精選し、必要に応じてグループウェアの回覧板機能等を活用。(小)

・授業時間確保のため朝にモジュールを取り入れた。そのため週に2回あった朝の職員集合をなくし、週に1回放課後に職員集合を行い、必要な事務連絡を行うようにした。(小)

・県事務職員研究協議会の研究部では対面の担当者会ができないため、Zoomで行いました(勤務時間に行うことが難しく、土曜に行いました。時間外になってしまいますが…)。(小)

換気等

- ・授業の終わりには授業者が必ず窓を開け、換気を行う。(中)
- ・教室をオープンにして、エアコンをかけ、全館冷房を行い、一部窓を開けて循環させている。(その他)
- ・各教室にクーラーが設置してあるので、窓を開けたまま冷房している。(小)
- ・雨でも窓を全開にし、換気する。(小)
- ・町教委が全教室に加湿器を整備している。また、教室の空気を循環させるためにサーキュレーターも整備予定。(中)

熱中症対策

- ・傘さし登校を推奨。ほかにも、つばの広い帽子なども推奨。(小)
- ・授業中にマスクを外して給水タイムを設けている。(小)
- ・割安なコード状のミストを設置した。(小)
- ・教室に壁付け扇風機を取り付けた(エアコンなし)。(小)
- ・エアコンをつけたまま窓を開けて換気するため、冷房効率が上がるよう扇風機を購入し、各教室に追加で設置。(中)
- ・新型コロナウイルス及び熱中症対策のために、各教室に温度・湿度計を設置し、危機管理体制(設備)を強化した。(小)

校内の消毒・掃除

- ・各教室にキッチンハイター、バケツ、ペーパータオル、使い捨てゴム手袋を配布し、放課後に教職員で消毒を行っている。(小)
- ・消毒し忘れないか確認するために消毒確認表を作った。(小)
- ・放課後、部活動中に副顧問で教室の消毒作業を実施し「消毒済み」の札を掛ける。部活動終了後、主顧問中心に、部活動で使用した場所を消毒するなど、分担して消毒の負担を分散した。また、職員室にホワイトボードと校舎配置図を準備し、消毒が完了した部屋にマグネットを置き、消毒済み箇所が一目でわかるようにした。(中)
- ・特別教室等の消毒に関しては、「使用しました」「使用していません」プレートを作成し、「使用しました」の場合は消毒終了後「使用していません」にプレート表示を替え、消毒漏れを防ぐ工夫をしている。(小)
- ・1週間効果がある消毒液を使用して教職員の負担軽減を行っている。(小)
- ・普段よりインフルエンザ対策で消毒薬の定期購入をしていたので、アルコール不足で困ることはなかった。共有パソコンや生徒用タブレットは、特に消毒に気がついた。(中)
- ・放課後の消毒(主に扉、蛇口等多数触れる場所)。(小)
- ・放課後、各教室の消毒作業(特によく触れるドアノブなど)。(小)
- ・児童下校後には養護教諭を中心にアルコール除菌を行っている。(小)
- ・養護教諭の提案・指導のもと、児童が下校した後に教室の消毒を実施している。(小)
- ・毎日、児童が帰った後に水道の蛇口、電灯のスイッチ、階段の手すり、トイレのレバーやドアノブ等を消毒。(小)
- ・1日に一回は手すりや扉の取手、窓のカギ部分等の消毒を行っています。(小)
- ・毎日生徒が自分の机・イスを消毒、理科室等の特別教室は教員が毎時間消毒、ドアノブ等は養護教諭と教頭が消毒。(中)
- ・生徒が帰った後、職員や地域の方の協力で一斉に机、お盆等を消毒している。(小)
- ・学校用務員によるドアや蛇口の消毒。(中)
- ・校舎内の消毒作業を、企画部(事務部)7人でローテーションを組んで実施している。(中)
- ・遊具の消毒。(小)
- ・部活動が開始され、用具用の消毒薬を各部に配りましたが、手洗いが簡単で一番効果的なので、外の手洗い場を増設し、液体せっけんを部活時間には置くようにしました。(小)
- ・児童用トイレへのアルコール自動噴霧器の設置。(小)
- ・トイレの水洗をレバーハンドルに交換した。(小)
- ・トイレ掃除を職員で輪番を組んで担当している。(小)
- ・トイレ掃除は児童が行っているが、使い捨ての手袋を使用している。(小)
- ・教室、トイレ掃除はクイックルワイパーを使う。(中)
- ・トイレの清掃用洗剤を変更した。(小)
- ・トイレを利用する際のスリッパ履き替えをやめた。(小)

- ・トイレにはスリッパを置き、上履きで入らない。(中)

* * *

- ・清掃時間に各教室ドアの手で触る部分の消毒を生徒が行っている。(その他)
- ・清掃の仕方、子どもによる拭き掃除ができず、掃除時間も10分に短縮になっているため、クイックルワイパー業務用を各クラスに配付し対応している(1本3,000円ちょっとするので小規模校の本校でも予算的に厳しかったです)。(小)
- ・児童にも「自分の身を守る感染予防の一環」としてウェットシートを教室に配置し、個人所有のフェイスシールド(町からの寄贈)を自分で拭き取るよう指導している。(小)
- ・掃除道具に番号を振り、使用する児童を決めた。(小)
- ・掃除の配置場所や方法を変更し、感染のリスクが少なくなるようにした。(中)
- ・児童による清掃は学校再開後2週間は中止し、職員が行った。児童の清掃活動再開後は、清掃場所を限定している。(小)

ごみの処理

- ・ごみを処理する際には、ポリエチレン手袋もしくは小型ポリ袋を手にはめて処理する(直接ごみ袋に触れない)。(中)
- ・ごみを各自家庭に持ち帰り、学校に捨てない。(中)

手洗いの励行等

- ・手洗いの推進。(小)
- ・手洗いを徹底するために手洗いタイムを設けた(休校解除後2週間の間のみ)。(中)
- ・子どもは一日に何度も手を洗うことになるので、小さなハンカチですぐに濡れてしまっ使い物にならない。そこで教室に移動式のラックを用意し、1台に5人分の洗濯ばさみを取り付け、タオル掛けとした。バーに名前が書いてあるので、担任は毎日持って帰るよう指導もできる。隣同士のタオルが触れ合わないよう間隔を取っている。(小)
- ・手洗い場の石鹸の増設。(その他)
- ・蛇口を手の平で触らなくてもいいように、レバーハンドルに交換。(小)

ペーパータオル、ペーパー雑巾の活用

- ・ペーパータオルの使用を増やした(予算が保つか課題)。(小)
- ・手洗い場などについて、昨年までは手拭き用のタオルを設置していたが、今年度はペーパータオルを設置している。(中)
- ・ハンカチ忘れの生徒のため、キッチンペーパーを用意。(中)
- ・ハンカチは、汗拭き用と手洗い用の2枚を児童に持たせるように家庭へお願いしている。(小)
- ・感染を100%完全に予防することはほぼ不可能であり、またそれらの対策を行う教職員の負担も同時に考えなければならない。そのため、なるべく効率のよい方法をとるように心掛けている。たとえば児童の清掃活動では、床の雑巾がけをやめて代わりにフローリングワイパーで掃除するように変更した(濡れシートを毎日使っていると予算が尽きるため週に2回)。(小)

予算の確保、衛生用品等の確保

- ・衛生用品の予算化。(中)
- ・コロナ関連の消耗品費が増えることが予測されるので、予算委員会で予備費を増やした。(小)
- ・コロナ対応に必要な施設、消耗品(透明マスク、消毒液、非接触体温計、手袋等だけでなく)、備品(カメラ、扇風機、ミストなど)等、教職員からの希望や意見を取り入れながら共同実施で検討し、教育委員会に要望し、実現していつている。(小)
- ・感染予防のための物品購入により、年度当初に分掌に配分した予算から大幅に執行内容に変更が生じたため、例年より前倒しで補正予算を提案し、より効果的に予算を執行できるよう調整している。(小中一貫)
- ・今後の予測が全くつかないため、通常よりも消耗品費を多く確保した(予備費として計上)。(小)
- ・予算の見通しが立たないので、予算委員会を2回実施することとした。前期終わり頃に実施予定。(小)
- ・予算委員会は集まらず、資料を配布し、「ご意見箱」に意見を投函してもらった形式とした。予算資料にじっくりと目を通すことができたようで、かえって好評だった。(養護学校)
- ・予算委員会では、教科を中心に本当に必要なものに限り請求してもらった。事前に教科主任・管理職・事務職員の三者で協議し、その物品がないと本当に授業ができないのか、代替物はないのか等を検証した。また、ある程度弾力を持たせて、年末前後に予算に余裕があるようなら、2回目・3回目の予算委員会を開く予定。行事委員会や給食委員会など例年ならあまり参加しない会議にも積極的に出

て、消毒関係や行事等の縮小による物品購入を伴う提案等に対し、予算面から意見を挟ませてもらった。(中)

* * *

- ・学年教材の予算の組み替えは必要になったが、とてもいい教材を見つけ素早く対応(発注・購入)ができたため、分散登校時に配付することができ、大量のプリント作成など職員の負担にならず、紙・インクの大量消費につながらずにすんだ。(小)
- ・業者から、アルコールジェルを大量購入することで格安になるという提案があり、隣校と折半して購入した。(中)
- ・2月下旬にアルコール消毒液、手洗泡石鹸を大量に確保した。非接触型体温計も発注したが既に品切れ。(小)
- ・昨年度までは「この時期はこのような消耗品が必要だろう」という予測が付き、購入計画が立てられたが、今年度は例年の経験が役に立たないので、担任と細かく情報交換を行って購入するようにした。(小)
- ・養護教諭とかなりの頻度で打ち合わせをしている。感染対策でお金のかかる話ばかりです。(中)
- ・感染拡大時の品薄や物流停滞を予想し、養護教諭と相談しながら早めに必要物品を揃えた(体温計、ハンドソープ、消毒液、エステル手袋、ビニール袋、課題配付用P P C用紙、保護者連絡用カラー用紙等)。(小)
- ・トイレ掃除用に使い捨ての手袋を購入した。(中)
- ・「新しい生活様式」の実践のみで、特別なことはしていない。ただ、第2波、第3波に備えて、ネットで液体せっけんやアルコールの販売状況を確認し、継続して購入・備蓄している。(中)
- ・品薄の液体石けんの代用品としてボディソープを購入。成分をみる限り、洗浄力もあるのではないかとという養護教諭談。(中)
- ・大規模校のため相当量の確保が必要である手指消毒用のアルコールと道具消毒用の次亜塩素酸や次亜塩素酸水。カミガード(界面活性剤)などを用途に応じて準備することで供給不足である薬剤を不足することなく準備することができています。(小)
- ・国からのコロナ対策用の予算は、予算計画まで1週間しかなかったが、運営委員会で部長に情報公開(職員全体には暮会で)し、コロナ対応のための予算計画をざっとあげてもらい、管理職と事務担当とで全体のバランスをみながら予算調整をした。このことから以下の成果が得られた。

①学校のために、国や市は考えて動いてくれているという教職員の理解(気持ちの向上)。

②部長を中心とした部会等で予算を考えることで、今後の見通し、現在の状況、問題点の見直し等を考える良い機会となった。

③②と同じく、予算の情報を集約することで、学校全体の困っている事、必要な事が集約(見える化)された。

④この機会により、学校の動きの見直しができた(実際に行動を変えることになった)。

⑤(これから)管理職のリーダーシップにより決まった予算の報告を以下の通り考えている。

コロナ予算により執行するもの/コロナ予算以外で執行するもの/この度見送られたもの

この報告により、学校の方向性により重点を置いてやるもの、継続的にやるもの、やらないと決めたものを理由とともに報告することで、今後の方向性、見通しを職員で共有する(通った、通らなかった、買ってもらった、買ってもらえなかった、を視点にされると、予算の在り方の意味がない。なぜ通ったのか、なぜ通らなかったのかを、現状をもとに「こうなっていきたい」行動目標があり、それに基づいた結果であり、その先の学校内での行動だということが論点だと理解してほしい)。

上記は、予算を見直すということの価値づけであり、全体がそのように意識してやっているということではない。少なくとも事務はそのような認識で計画し、事を運んだ。全体的に見て①～④について、事実そうであったと実感はある。これらは、事前に価値づけをもう少し全面にだしてやったらよかったが、あまりに時間がなさすぎて(1週間ない)、それをすると先生たちに負担感を強いることになることもあり、できるだけライトに行ったこともある。⑤はこれからである。しかし、⑤はとても大事なポイントであるため、予算担当者とともに実施していきたい。(小)

- ・市からコロナ関係の消耗品代をもらっている、消毒薬等を心置きなく買えたのは非常にありがたかった。(小)

- ・地域に消毒液を分けてくれる業者がおり、助かっている。(小)

ネット上のツールを活用

- ・Googleフォームを活用し、休業中から生徒の様子を把握したり、保護者の不安を寄せてもらい、再開までの準備を行った。(中)
- ・分散出勤の際に市内で導入されているteams(ネット上の掲示板)を職員で共有し、情報交換や伝達をスムーズに行うことができた。また、携帯電話からも見られるようにして共有を図った。(小)
- ・事務グループが率先してオンライン会議を行うことで手本を示し、校長会、教頭会、養護部会など設定を行った。(小)
- ・動画配信・オンライン教室を事務職員が主体的に企画運営した
- ・他校ではすでに使用しているところも多数あったが、メール配信システムを新しいものに変えた。コールセンターもあり、学校で登録でない方法(QRでの読み込み)なので、校内の仕事の負担軽減にもつながり、施設開放の団体も使用できることになったため、紙ベースではない配信についても保護者の理解が得られた。(小)

- ・メールのシステムを活用し連絡を行ったため、紙・インクの大量消費につながらずにすんだ。(小)

コロナ対策の普及啓発活動

- ・「みんなで安心してすごすために」というパワーポイントを作成し、分散登校時に全クラスで活用した。内容は「コロナウイルスってこんな病気だよ。お医者さんや看護師さん、スーパーの人、警察官、みんなチームでたたかっているよ。世界中でもみんなでたたかっているよ。わたしたちにできること（手洗い、うがい、マスク）をしっかりしようね。たたかっている人たちを応援する気持ちを持とうね。学校でも安心して過ごせるようにしようね」といったもの。(小)
- ・ソーシャルディスタンスを「優しい距離」（お互いを思いやる距離）と解釈し、校内にポスター掲示。(小)
- ・生徒が集まる場所にポスター等を貼り、3密の回避、ソーシャルディスタンス保持など注意を呼びかけた。(中)
- ・児童の意識調査の実施。3密が避けられているか、ハンカチを忘れずに持ってこられているか等。(小)
- ・手洗い・換気の徹底のため、放送で呼びかけを実施している（朝・授業間休みは、放送委員が放送。放送委員が原稿を考え、児童へ呼びかけている。）(小)

P T A ・保護者への対応

- ・P T A総会は書面決議を行った。※同様の回答9件（小5、中4）
- ・P T A総会はメールの投票で決議をした。(小)
- ・P T A総会は、生徒便で書類を配付して書面とメールで承認を行った。(その他)
- ・P T A、学校徴収金予算案等、紙面での承認を行いました。(小)
- ・各種総会（P T A、後援会、地区P T A）は書面決議を得るよう様式を作成した。会費の集金を現金で行っていたものもあったので口座振込に変更した。(小)
- ・保護者面談は、希望があれば Zoomで行えるよう準備中である。(小)
- ・入学式が延期となったため新1年生の家庭調査票は郵送で回収（電話による保護者との連絡手段を確保するため）。(中)
- ・保護者への連絡は学校再開のお知らせや日課を掲載した重要なお知らせが多かったが、「HPのどこを見たらよいかわからない」という問い合わせや「子どもに配布された手紙を紛失してしまった」等の連絡が寄せられた。そこで学校連絡メールでお知らせする際、メールにHP該当リンクを添付することにした。(中)
- ・学校行事の中止を受け、さまざまな会計の集金額を減額（または今年度のみ会費なし）した。(小)

共同実施

- ・共同実施は、市教委内の掲示板で随時情報交換している。臨時休業になった際も初めての事態で考えられることを載せ、経験の少ない事務職員の気づきを助けた。新年度は仕事情報のほか、感染対策や新採用者の頑張りも紹介している。(小)
- ・共同実施に関してはネット上に掲示板を作成し、協議することや経験の浅い事務職員には仕事上で困っていること等を随時書き込んでもらった。(小)
- ・共同実施では共有ファイルを作成し、可能な限り対面での指導を避けるように努めている。(中)
- ・共同実施については、町の学校間共有フォルダや1日2便の町内文書便を活用できるため、参集しなくてもある程度はやり取りができるようになっている。(小)
- ・共同実施（川崎でいう相互支援事業）は Zoomで行います。(中)
- ・共同実施は月2回行っている。密にならないように分散して座り、窓を開けて換気を行う。(中)
- ・共同実施では事務室での業務は行わず、会議室等の広い部屋で常に換気を行い密にならない状態で業務を行っている。(中)
- ・共同実施の一時休止。(中)
- ・グループ別共同実施協議会（中学校2校、小学校6校）は、中学校区ごとの校長会へ事務職員代表2名が出向いて協議する形に変えた。(小)
- ・休校中、事務センターに集まる回数を減らした。(中)
- ・共同実施で手に入らないで困っている消耗品の情報共有をした。(中)

就学援助の申請

- ・コロナ関係で、生活困窮世帯に就学援助申請が追加でできるよう教育委員会に要望し、認められた。(小)
- ・援助制度については、今回の感染症による収入減に対応する救済措置を行うと聞いている。(中)

その他

- ・ネット授業を開始した。(中)
- ・校内で行う初任者研修を動画を視聴する形にした。(養護学校)
- ・教材費の消耗品費が加配されたことを利用して、印刷可能な問題集を購入・印刷し、いつでも利用できるよう常備することになった。やさしい問題集なので、自主学習がうまくできない生徒の振り返り教材として、教室に行けない生徒が自分のペースで学べる教材として、休校になった時、個別に自分の弱点に取り組める教材として利用する等、さまざまな利用ができると想定している。オンライン学習に備える一方で、インターネットの環境が整っていなかったり、プリンターがなかったりという家庭にも心を配りたい。(中)
- ・生徒の精神面でのサポートを強化するため、しばらくの間スクールカウンセラーに週4日程勤務していただいた。(中)
- ・音楽の授業で、鍵盤ハーモニカの使用も制限され、歌唱も難しいため、楽器(カスタネット、タンバリン、すず、ウッドブロックなど)中心の授業を進めるため、学年ごとに購入した。(小)
- ・来客玄関スリッパを、手を使わないで履けるようにいくつか並べている。(小)
- ・アルコール消毒液ポンプスタンドについて、本校の用務員が足踏みスタンドを自作し、図書室、来校者用玄関等で活用している。製作費用はほぼ原材料費のみと格安である。今後は町内用務員会での製作を検討中であり、各学校へのアルコール消毒液足踏みスタンド設置に取り組む予定である。(小)
- ・体調不良児童が複数名出たときのため、衝立やソファを使って廊下の空きスペースに休憩所を設置した。(小)
- ・本年度、プール指導を行わないことが早々に決まったので、管理に手間のかからない薬剤ではおろりばなしにできるよう県と市、教育委員会との方針を決めていった。(小)
- ・毎年いわゆる夏休みに実施している備品照合を、今年は夏休みが短く、またその間に「山の日」や学校閉庁日もあるため2学期末まで期間を区切って実施することになった(勤務校では校舎の建て替えが迫っており、他校では中止したところもあるように耳にするが、その選択肢はとれなかった)。(中)
- ・全国の情報など、知り得た情報をいち早く教育委員会へも届けることを心がけることで、今後の具体的な対応策を検討する際、常に教育委員会から意見を求められるようになってきている。(小)
- ・あらためて学校教育目標の共有を図り、「子どもファースト」であることを職員全員で共有した。(授業実数のことだけに目がいくのではなく、子どもの体調や心情をよく見ていくことに繋がった)。(小)
- ・「未来の公教育研究委員会」という久喜市教育委員会の組織を今年度からスタートする。これは「G Suite for Education」を活かして、校務の仕組みの改善/新たな価値創出を目的とした組織となる(15名ほどのメンバーで、事務職員が半数、教務主任が半数、教頭が少々)。同時に「(久喜市版)未来の教室研究委員会」というものもスタートし、こちらは「G Suite for Education」を活かしたより直接的な教育について研究する組織。また、「(久喜市版)未来の教室研究委員会」でのいい実践を共有や循環させていくための仕組みのようなものも、「未来の公教育研究委員会」で作っていく。未来の教室より、未来の公教育のほうが、より広く校務の基盤の仕組みを担っているようなイメージ。(小)
- ・コロナの影響で使用予定がなくなった教材等の消耗品があるかもしれないので、購入手続き前に職員へもう一度確認をし、購入手続きを行っている。(中)
- ・必要なものを必要な量だけ買うように心がけている。(小)
- ・危機管理の意味を込めてマスクの備蓄をしていた。緊急事態宣言中マスクがない職員に使用してもらった。(小)
- ・飛沫飛散防止のため、歯磨きを中止している。(小)
- ・手洗い場の修繕(補修申請)を真っ先に依頼した。(小)
- ・職員、生徒はマスクを着用している。(中)
- ・班活動等ができなくなったため、実験用具等を買そろえた。(小)
- ・市教委の指導の下、手洗い、うがい、教室等の換気、給食の食事の仕方など細心の注意を払って学校生活を送らせている。(中)
- ・県内感染者が少ないため、行政にも危機感がない。プール授業も3密対策をとりつつ通常通り実施した。したがって、特に工夫を要することはなかった。(小)

Q4 他校ではどのような対策を講じているのか、気になることがあったら教えてください。（自由記述）

消毒や掃除

- ・消毒の方法について。どの種類の消毒液を使って、何で拭いているのか。（中）
- ・使用している消毒液の種類や使用方法を知りたい。（小）
- ・校内の消毒、どのような方法で、誰が、どこまで行っているのか。※同様の回答3件（小3）
- ・消毒作業は、生徒下校後に行う場合、中学校だとかなり遅い時間帯からの実施とならないか。（中）
- ・次亜塩素酸水の使用、保管方法はどのようにしているのか。（その他）
- ・消毒をどこまでやっているのか、範囲や頻度、誰がやるか（PTAの協力も含めて）、そもそも消毒に意味があるのか。しっかり手洗いをすればよいのではないか。（小）
- ・文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」によると、こまめな手洗いが推奨されている。本校はそれにならない、手指消毒液は設置していない。手指消毒液は依然として購入しにくい状況であるが、日常的に設置している学校がどのような目的でどこに設置しているか教えてほしい。（小）

* * *

- ・フェイスシールドの除菌は誰がいつ行っているのか。アルコールや次亜塩素酸ナトリウム溶液などの危険物を子どもに扱わせるのは難しいが、担任も教室等の消毒があるので厳しい。プラスチックは消毒により傷つき劣化もしそうだが…。（小）
- ・飛沫防止のパーティションやビニールカーテンを導入した場合は、消毒はどのように行っているか。（小）
- ・フェイスシールドやパーティションなど、さまざまな対策用品があるが、それらの用品の消毒やメンテナンスはどのようにしているのか。（小）
- ・給食時の工夫が気になります。次亜を含んだ台ふきを使用したり、今まで重ねていた牛乳パックは各自でゴミ袋に入れたりしていますが、それだけでは不安です。（中）
- ・アルコールアレルギーの児童への対応。（小）
- ・本市では教員が1日1回、机やドアノブ、掃除用具等の消毒を行っています。7月から全校にスクールサポートスタッフが配置になりトイレ掃除からは解放されましたが、どこまで消毒を行わなければならないかが正直わかりません。本校は、消毒薬（手指用と用具用）を全教室に設置し、消毒をお願いしています。（小）

* * *

- ・トイレ清掃のやり方。今は職員がトイレ清掃、消毒を行っているが、今後は児童が清掃することになるので、清掃用具の選定、その場合の予算をどうするか。（小）
- ・トイレ掃除で業者が入るようにしている自治体はあるか。（小）
- ・乾式トイレの利用時に、消毒マットなどを用意しているか。（小）
- ・子どもたちは簡単清掃を行っているので、職員が放課後、清掃、消毒を行っているが、時間も限られるなか、どこまで消毒をすればよいのか基準がわからない。例：消毒薬で拭いた後、水拭きするのか、便器の内側まで消毒するのか。（小）
- ・保護者や来客の際にどの程度手指の消毒等を徹底しているか。（養護学校）
- ・遊具の消毒のタイミング。（小）
- ・教室の机や椅子等を除菌するためのタオル等と、普段の掃除で使用する雑巾等の置き場所の区分け等で実践していることがあったら教えてほしい（雑巾掛けは結構高価で、約30クラスある本校では全教室に新たに設置する対応は厳しい。本校では統一的な対応が難しかったため、各学年・クラス対応をお願いしている。たとえば教室の後方にヒモを張って干したり、洗濯物干しを利用したり、雑巾掛けを上下に分けて使用したりしている）。（中）

3密対策、ソーシャルディスタンスの確保

- ・ソーシャルディスタンスをどのように確保しているか。※同様の回答4件（小2・中2）
- ・ソーシャルディスタンスの確保。40人クラスでの対応。（小）
- ・1クラス40人近い生徒がいる学校でソーシャルディスタンスをどのように確保しているか（トイレ、歯磨きなど）。（中）
- ・大規模校ではどのように対応しているのか（ソーシャルディスタンスの確保、消毒の範囲、教室での工夫など）。（小）
- ・全児童に常にソーシャルディスタンスを保つようさせるのは不可能だと思われるが、どのような対策を行っているか。（小）
- ・休み時間に子どもたちがくっついて遊ぶのは仕方ないのか。（小）
- ・ソーシャルディスタンスや基本的な授業の形など、市町村教委から具体的な形として指針などが出ているのか（国や県を踏襲するのか、

独自の形を出しているのか)。(小)

- ・密を避けるために行っていること(児童・生徒・教職員)。※同様の回答2件(小1・中1)
- ・ソーシャルディスタンスを行いながらの、主体的・対話的な学びの工夫。(中)
- ・授業での話し合いやペア学習はどうしているのか。(小)
- ・グループ学習を多くしたい教科があるが、グループ学習を取り入れている学校はどんな対策を取っているのか。(中)
- ・禁止している活動はあるか(合唱、マット運動、対面式音読等)。本校は児童会役員選挙立ち合い演説会は実施予定です。(小)
- ・運動会の種目(ソーシャルディスタンスを保つての競技はなかなか考えられない)。(中)
- ・体育館での対応。(その他)
- ・体育の時のマスク保管について(移動時はマスクをつけるが、体育しているときはどうしているか)。(小)
- ・35人学級の音楽の授業で歌を歌わせる場合どうするか。歌わせている学校の取り組み(環境、対策)を聞きたい。(小)
- ・児童の水筒・ぞうきん等をどこに保管しているか。食事時のマスクはどうしているか(一カ所に集めると密になる。現在は各自の机に掛けている)。(小)
- ・授業参観などで保護者が来校し、密になる行事等はどのような対策をしているのか。(小)
- ・臨時休校中の課題の配布方法について(また今後休校になった場合の課題配布方法について)。(小)
- ・欠席連絡等、アプリを活用している学校はあるでしょうか。わが子が通う保育園ではアプリで欠席連絡、園からは、お知らせ・献立・成長記録が発信されていてなかなか便利です。小・中学校で使用率の高いアプリがどれか、興味があります。(小)
- ・職員室のソーシャルディスタンス。(小)
- ・職員の数が多いこともあり、職員室、事務室は密ですが、他校はマスク以外に何か対策はしているか。(小)
- ・職員会議等、職員室に多くの職員が集まらざるを得ない場合、どのようにしているか(別室でリモート?)。(小)

フェイスシールド、パーティション等の活用

- ・教室で飛沫防止のパーティションを使用しているか。具体的にどのような仕様のものを使っているか。(小)
- ・フェイスシールドやパーティションなど使用しているのか。(中)
- ・フェイスシールドは使っているか? どのような場合に? 常時使用?(小)
- ・フェイスシールドを活用して便利な点、不便な点。(小)
- ・マウスシールドを使用している学校があれば、効果をお聞きたい。(小)
- ・3密を避けるため、対話的な授業ができない。フェイスシールドやパーティションを設置するなどの案が出たが、その都度消毒をする手間やコスト等を考え、結局、講義形式の授業となっている。何か良い対策はないか。(中)
- ・教室内での飛沫防止の措置を行っているか(生徒全員のマスクシールド、フェイスシールド等)。(中)
- ・外国語活動や通級指導(ことば)等、口の使い方の確認が必要な授業ではフェイスシールドやパーティションを使用しているが、飛沫は防げていないように感じる。どのような活動を行っているのか。(小)
- ・大阪市では児童生徒全員にフェイスシールドを配布したと聞いているが、マスクで十分、むしろフェイスシールドによる弊害があるとも耳にする。他にフェイスシールドを児童生徒に配布している自治体はあるのか。(中)
- ・教員の授業時の対応はどうしているか(フェイスシールド、マスクその他)。経費はどこまで公費で賄えるか。(中)
- ・教員がフェイスシールドをしたり、飛沫防止のパーティションを設けたり、給食を簡易にしたり、本校ではそこまで行っていないが、果たしてどこまでやる必要があるのか。(小)

換気

- ・教室のエアコン使用時の換気について、どのように行っているか。※同様の回答3件(中3)
- ・エアコンを使用しながら効率よく換気するためにどうしているか(窓をどのように開けているか、サーキュレーター等をどのように使っているか)。(中)
- ・全熱交換機がない場合のエアコン運転時の換気の方法。(小)
- ・これから暑くなる季節の換気はどのようにしていくのか。空調が入ったので利用しているが、同時に換気と熱中症対策と両方が必要で、どちらを優先させるか、手探りでやっている。(小)
- ・どの程度換気しているのか。エアコンをつけている場合は、常にどこかの窓を開け換気しているのか、それとも定期的に窓を開け換気する程度なのか。(中)
- ・今後の夏場や冬場の空調機使用について、同市町村内で共通の使用規定などを定めているところはあるのでしょうか。学校によっては窓を何カ所も開けた状態で使用していたり、気温が高くない日にも使用しているケースがあるようです。児童生徒の健康を守ることが最優先とはいえ、予算を有効活用できない状況に危機感を覚えます。(中)
- ・本校ではエアコンをつけながら、窓を全開にして扇風機を回している。これから蚊などの害虫に悩まされることになるが、他のところ

ではどのように対策をしているのか。(中)

- ・換気の仕方。一日に何度行っているか、常に行っているか等。(小)
- ・教室に換気扇、サーキュレーター、扇風機等が設置してあるか。(中)

コロナ関連消耗品・備品

- ・アルコール等の消毒薬やマスクは手に入っているのか。※同様の回答2件(小2)
- ・消毒等の購入量が増えるが、どのようにして予算確保しながらやりくりしているのか。(中)
- ・感染症対策関連用品を購入し、今年度予算内に収まる見通しは立っているか。また、予算のやりくりの対策があれば教えてほしい。(小)
- ・さまざまな対策への予算の活用例。(小)
- ・どんな物品を揃えているか(同じ市内学校でも揃えている物品が異なっていたため)。(中)
- ・対策用として具体的にどのような物品を購入しているか(1,000人超の大規模校で)。(小)
- ・非接触型体温計が確保できず、体温計測の負担が大きいがどうしているか。(小)
- ・フェイスシールドを導入した場合の負担はどこか。公費か私費か。また、個人管理か学校(担任)管理か。(小)
- ・感染防止のための安くて便利のいい品物があれば教えて欲しい。ウェットティッシュなど。(小)
- ・水道の蛇口をすべてレバーに変更した?(小)

子どもたちの体調管理

- ・毎日提出される「健康チェックカード」の活用方法含め、毎日の児童の体調確認の方法(毎日、全校児童分をチェックされているが、担当者からは負担が大きいとの声もあるため、効率的な方法があれば…)。(小)
- ・健康観察カードを忘れた子どもは、保健室隣の部屋で養護教諭が対応しているが、月曜日は多数の対応に追われている。サーモをどのタイミングで使用すればよいか(特別補助金で非接触型体温計を購入予定ですが、それでよいのか)。(小)
- ・子どもたちの登校時の発熱や体調の確認をどこでどのように行っているか。(小)
- ・非接触型体温計はどのように使用しているのか。各自家で体温を測るよう言われているが、それとは別に学校でも検温をしているのか。また、その時間の確保はどうなのか。(小)

オンライン授業等

- ・オンライン学習のありかたについて。(小)
- ・オンライン授業や動画配信などを行った学校はあるか(その場合家庭のインターネット環境はどのようなだったのか)。(小)
- ・オンライン学習に向けた教員のスキルや環境整備など、どのような対策や準備をしているか。(中)
- ・ネットを使用した授業などで、その準備や周辺機器の対応などで事務職員として関わった事例があったら教えてほしい(個人的に事務職員がネットワークに明るかったので手伝いました等の事例はあまり参考にならないかもしれませんが)。(中)
- ・HPやオンライン授業を活用する際の児童情報保護。(小)

学校行事等の縮小・中止・延期等

- ・学校行事の行い方で例年とは違う部分が多いと思うが、児童生徒が活動に満足できるような取り組み方法はあるか。(中)
- ・行事(運動会等)の開催時期、内容はどうするか。(小)
- ・文化祭や合唱コンクールなど室内の全校行事の際はどのような感染対策を行っているか。(中)
- ・近隣市町の修学旅行が市内統一で県内に決定されたが、生徒や保護者から反対はなかったのか。開催時期が重なることで県内の観光場所の予約が難しくならないか。他県で県内の修学旅行に制限している県や市町はあるか。(中)
- ・修学旅行の実施と方法。決定時期。キャンセル料や企画料金について。(中)
- ・修学旅行等でのコロナ対策はどんなことをしていますか。バスは密になるので、どういった工夫を考えているのか。(小)
- ・修学旅行のときの感染予防対策はどのようにしたか。フェイスシールドを準備したか。(中)
- ・校外学習における対策。(小)

保護者への連絡等

- ・支援の必要な家庭や外国籍の家庭へはどのように連絡していたか(市教委からの文書にルビや翻訳はあったか)。(小)
- ・保護者に対する教育課程や行事の延期や中止について、説明会や機会をどのように設けているのか。また理解をどのような形で求めているのか。(小)

- ・保護者への共有や取り組みがあれば知りたいです。(小)
- ・臨時休校中の保護者対応について。(小)
- ・児童生徒の家族の体調把握はどのようにしているのか。(小)
- ・保護者対応(心理面)。(小)

校内で感染者が出た場合の対応

- ・実際に児童・生徒に感染者が出た場合に向けた対策でどのような物品を準備しているのか。(中)
- ・コロナウイルスについて、児童または教職員が発症したときの具体的な対策(〇日の休校措置など)は出ているのか。また、市町村教委からの指示となるのか、学校(長)判断となるのか。(小)
- ・臨時保健室(コロナ感染症が疑われる児童を隔離する部屋:職員室近くの空き教室を使用)をパーティションなどで仕切って使用しているが、保健室とも離れており職員が常時ついていることができない。一番近い職員室に事務職員のみのもこともあり、容体が急変した場合などとても心配。また、お迎えにいらした保護者の方の気持ちも心配。(小)

その他

- ・誰でも風邪ぐらい引くと思いますが、咳が出て迷惑かけるのと欠席する生徒もいて、個別の学力保証が心配。自分も熱や咳が出るような体調不良に陥ったら何日も休まなければならないのかという不安もある。(中)
- ・コロナへの不安で、登校を拒否した家庭があったのかどうか気になる(その場合どのように対応したのか)。(小)
- ・他県・他国からの転入生が来た際、コロナによる差別を心配し、転出元を公表しないことがあった。実際にコロナが発生した場合は公表せざるを得ないと思うが、その際家庭や子どもが抱く不安や、いじめへの対応はどのようにしているのか。(中)
- ・子どもたちを窮屈に感じさせない工夫をしていたら教えてほしい。(中)
- ・事故欠の児童への対応。(小)
- ・聴覚障がいのある児童・生徒・職員とのコミュニケーションの手段。(支援室)
- ・刻々と変わっていくコロナによる社会状況やコロナへの取り組みについて、学校の行動を変える指標の基本は何か、その情報は職員間でどのように共有しているか、教育委員会から山ほど送られてくる情報や通知の共有、問題点はどのように拾い、共有し、行動に反映しているかを知りたい。また、そのことによって感じておられる課題意識も知りたいです(例:指標は文部科学省からの「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」等)。(小)
- ・各地区での対策の「全校統一対応」の程度(すべての学校で授業中フェイスシールドをしている、というようなこと)。(小)
- ・コロナ対策により学校運営が例年よりかなり変わってきていると思うが、学校の中で管理職や教職員とどのように関わり、教育活動と予算との連動をどのように行っているか。(小中一貫)
- ・厚生労働省からの事務連絡で、コロナ休校に伴う要保護児童生徒の給食費の減額は行う必要がないとあるが、この連絡に基づき生活保護費、就学援助費の減額措置を取っていない市町村がどのくらいあるのだろうか。(小)
- ・子どもたちはマスクを着けてはいるが、ゴムが伸び切っていたり、布が縮んで小さくなっていたり、息苦しくて顎にずらしていたりする姿をよく見かける。予防生活が長くなり気が緩んできたなか、どうやって意識づけしていったらよいか。(小)
- ・夏場のマスク利用。大人もクラクラしそうです。換気で空調もあまり効かないので、真夏が心配です。(中)
- ・授業者のマスクの負担。(その他)
- ・本市では各校に1つずつサーモグラフィが設置されることが早々に決まった。他の自治体で同様に導入されたところがあれば、運用の実態や効用、問題点等について伺いたい。(中)
- ・これまで職員室で給食を食べていた職員は、現在どのように食事をしているか。(中)
- ・コロナに関する特休などの取得状況が気になる。(中)
- ・マスクを忘れた児童生徒にはどうしているのか。(小)
- ・授業内容について。(小)
- ・分散登校では、校門で非接触型検温、手指のアルコール消毒をして教室へ。現在では、各教室の前にアルコール除菌剤。休憩中のソーシャルディスタンスは難しいと感じた。(中)
- ・使用していないプール施設の管理をどのようにしているか。(小)
- ・より多くの対策等の情報を知りたい。(中)
- ・養護教諭がラインで情報交換を行っているので、他校の状況はそれで教えてもらっています。(中)
- ・各校で対策を取っていると思うが、どこまで準備をすればよいか。(中)

Q5 コロナ禍によって、あらためて気づかされたことはありますか？（自由記述）

働き方の見直しができる

- ・働き方改革の観点で、短縮できる行事や減らすことができる活動がもっとあるとわかった。※同様の回答2件（中2）
- ・教育活動を選別すること（何を行い、何を行わないか判断すること）の大切さに気付かされた。（中）
- ・働き方改革をあらためて考えることになりました。行事の精選や授業の在り方などを考えることができた。しかし、学校職員の業務とは、ここまでの事態にならなければ、改善がされないのだと感じました。（小）
- ・“意識”を変えて、これまでよりさらに「働き方改革」に踏み出すきっかけになったかもしれない（在宅勤務、会議・研修会の中止、リモート会議などをやってみたことで、本当に必要なこと・時間をかけるべきことの精選などなど）。（中）
- ・教員は働き過ぎだと思う。臨時休校中、定時に帰宅できることで教職員の気持ちの余裕が出ていたように感じた。（小）
- ・学校勤務を始める前から教職員の仕事量などによる負担の大きさが社会的な問題とされているのは知っていたが、コロナ禍によりさらに負担の大きさをあらためて感じた。（小）
- ・休校期間は教職員が残業をあまりせず、帰ることができていた。普段の放課後の時間でしていた業務を本来授業している時間帯で行うことでやっとなまかなっていたため、普段の業務内容はとも負担がかかっているものだったと思った。（小）
- ・在宅勤務期間があったためか、例年に比べて職員の交通事故が少なかったと聞いている。自分も含めて、もっと余裕のある働き方をしなければならぬと感じた。（中）
- ・さまざまな行事が中止になり、部活動の実施が最低限となったことにより、教員の退勤時間が早くなりました。あらためて、働き方改革でいわれていることが証明されたようです。少しずつ日常生活を生徒が行うようになると前のように教員の忙しさが戻り、プラスしてコロナ対応でより大変さが増さないか心配です。（小）
- ・部活動がないほうが、先生たちは生き生きしている（ように見えました）。（中）
- ・臨時休業期間中から休業あけしばらくの間は部活動がなく、教員もこの期間に関してはイレギュラーながら年休などを取得したり在宅勤務をするなど、ゆったりとした時間を過ごした人が多い印象を受けた。総体や吹奏楽コンクールが中止になるなどした今回の新型コロナウイルス禍の期間では、働き方を考える機会になった教員がけっこういたのではと思う。今回のことが良い意味で転換点になれば。（中）
- ・休校や部活を行えない期間があり、日中や放課後に先生方が職員室にいる時間が増え、いつもよりたくさんの情報を共有することができた。空き時間の確保や業務量を減らすことで、校内にプラスになるアイデアが増えるような気がします。（中）
- ・教員が出勤しても授業がないため、この時期を校内の不要物の廃棄や、長期休業時に行っていた備品点検等の時間に充て時間を有効に使った。（中）
- ・3月になって休校に入ると教員は成績処理や要録作成が終わると一斉に新年度の準備に入った。しかし、事務職員は年度末事務の多忙期で、まだ新年度のことにまで手がまわらないし、異動関係事務でいっぱいだった時期に次々と新年度の要望や相談が来て例年どおりの段取りで仕事を進めることができなかった。そのせいで年度末事務が不完全のまま異動し、後任者に迷惑をかけてしまった。そもそも3月に余裕をもって新年度の準備にあたるということはいいことなのだと思う。エアコン配備が進んだ現状なので、学校管理規則を改正し、年度末休業を長く、夏季休業を短くすることを本気で考えてみてほしいと思う。（小）
- ・危機的状況はこれまでのあり方を見直す機会にもなる。（小）
- ・勤務時間が8:00～16:30になったが、30分早く帰れるだけでずいぶん気が楽であった。時差出勤は今後も行ってよいのではないかとと思う。（小）

会議・研修等を見直しができる

- ・教員、事務職員ともほとんどの研修や会議がなくなり、出張の旅費請求事務が大幅に軽減された。例年、毎週毎週、初任研の旅費計算書作成に追われていたが、それがなくなるとこんなに楽なのかと思った。なくてもよい研修や会議がいかに多いかということに気づかされ、毎年こうなら事務職員の学校経営参画やカリキュラムマネジメント参加やコミュニティスクール関連の仕事にも余裕で取り組めるのではないかと思った。（小）
- ・減らしてもいい会議や形態を変更して実施できる研修などがあるとわかった。仕事の効率化にもつながった。※同様の回答10件（小5・中5）
- ・集まらなくては進まないことと、集まらなくても回ることがわかったような気がする。（小）
- ・出張等が取りやめとなり、メールで事が済む場合もあることあらためて気づかされた。出張の精選にもつながると思うが、一方で出張が制限されすぎること、人と人のつながりが薄れることが危惧される。（中）

- ・研修会や連絡会で役をずっとしていることもあり、事前の準備や資料の作成に多くの時間を割いていたが、会議が軒並み中止となり、そういったことにかかる時間がなくなった。持ち帰り仕事は減った。(小)
- ・出張がなくなり、学校の用務に集中でき色々な試みを実施することができた。研究会等はインプットに大変効果的だがアウトプットする時間がなさすぎたと気づかされた。(小)
- ・各種団体の総会等が書面で執り行われ、かなりの出張や時間外勤務が削減された(P T Aや教育振興会の会合は、夜に開催されるため)。今後の運営の仕方を考え直すいい機会だと思った。(小)
- ・教職員の出張がないことで、学校運営や授業の在り方などの検討の時間がたくさんとれた。(小)
- ・会議や研修等が中止や縮小になり、あらためてその場所に行き、みんなで集まり、話し合うことの大切さを実感。(小)

* * *

- ・オンライン研修が増えたことで、これまで必要の無い旅費を支給していたのかも…と思いましたし、教員側の負担も減っているので、新型コロナが落ち着いた後も実施してほしいし、さらに増やしてほしいなと感じています。(中)
- ・校内の会議の回数を減らしたので不安はあったが、ホワイトボードや紙上提案、グループウェアの使用で対応できていると感じている。(小)
- ・Web会議システム等を活用すれば、これまで集まっていた会議等も十分に対応可能であることがわかった。(小)
- ・オンラインでも情報共有できることがわかった。(小)
- ・1カ所に集まらなくてもリモートでできる会議や研修があるのでは、と思った。※同様の回答2件(中2)
- ・実際に使用したことはないが、リモート会議などができると、集まらずに会議や研修が行えるのではないかと。研修会の在り方、共同学校事務室の在り方を変えられるかもしれない(離島を抱える沖縄では期待が大きい)。(中)

行事等の見直しができる

- ・学校行事に向けての取り組み内容のスリム化、重要度の再認識。(小)
- ・卒業式や入学式を通常時でも簡易にしても良いのではないかと。(小)
- ・卒業式や入学式を簡略化し、例年までの式典、行事などで省けるのではないかと。(小)
- ・卒業式、入学式は来賓なしで、式次第も省略等で行った。さまざまな意見があると思うが、今回にとどまらず、式典の内容、あり方は見直しても良いと感じた。子どもたちの集中力、来賓招待・接待準備等の手間を考えると、時短で簡略化した今回の式典は良かったと思う。慣習で続いている行事等も本当に必要なか見直す機会になると思った。(中)
- ・卒業式、入学式の時間短縮のためにさまざまな項目をカットしたが、挨拶は短く、合唱呼びかけも今後もう少し簡素にできるのではという意見があった。同様に運動会も昨年度よりも良くという意識が働くが、子どもを守るという意味では時間を意識したほうが良いと感じた。(小)
- ・卒業式・入学式など、規模を縮小して開催した。しかし、校舎内の多目的ホールで工夫して開催することで、だだっ広さやさみしさを感じさせずに開催することができた。行事は縮小開催であっても工夫次第でよりよいものにできるとわかった。(中)
- ・小中の入学式が同日の午前と午後となったため、生花を小学校より借りた(折半する予定だったが借用させていただいた)。行事の開催日を考慮することで、物品の共有、予算の節約ができるとわかった。授業はなかったものの、コロナ対策グッズの支出に加え、校内環境を整える時間が作れて、例年に比べ執行ペースが速かった(1学期末昨年比10~15%程度up見込)。また、教材についても、先の授業計画が見えない中ではあったが、比較的時間があつたためか、年間を見通して希望物品がまとまって上がってきたのが良かった。設計書で購入を進めることもでき、予算の計画的な執行につながると思う。(中)

在宅勤務

- ・リモートワークやリモート会議を行う環境設定をすれば、業務負担軽減につながり、事務職員が現在担っていない新しい業務を行う時間の確保につながると感じた。(中)
- ・学校事務職員の働き方について、さまざまな可能性があること。(小)
- ・事務職員の業務でもうまく仕分けをすれば、十分に在宅勤務も可能であることがわかった(本市の場合は、自宅でもある程度システムが利用可能であるなど制度面や環境面にも恵まれているため)。(小)
- ・4、5月に在宅勤務となり、「忙しいのに」と当初は思ったが、資料作成や計画立案など、在宅だと捗ることがあることに気づいた。忙しい時期だったからこそ、かえってよかったのかもしれない。(養護学校)
- ・在宅勤務では、今までやろうと思っていたが優先順位は低く後回しになっていた仕事を片付けることができ、そこから新たな発見等もあったのであってよかったと思った。(中)
- ・学校事務職員の職務は在宅勤務には適さないものがほとんどだ、ということへのあらためての気づき。対して、それでも今回のような

大規模な感染症蔓延が発生したとき、私たちはどうするべきなのか、また私たち学校事務職員の職務はこれからどうあるべきか等、あらためて考えさせられた。(中)

- ・教職員＝教育現場と市教委＝教育行政の連絡調整役である学校事務職員は、その職務内容のかかなりの部分で、自宅での勤務が困難な職種であることが明確になった。これは、インフラの整備状況にかかわらずいえることであるし、事務職員が複数名で職務分担をしている大分県の学校支援センターにおいても同様である。(市支援センター)
- ・学校にいてこそその学校事務職員である。急な保護者対応や学校再開に向けた教育環境整備など学校にいないで良い仕事はできないと痛感した。(小)
- ・年度末、年度初めの忙しい時期は、事務職員の在宅ワークは無理だ。(小)
- ・学校の業務が在宅勤務にはなり得ないこと。(中)
- ・自宅勤務をすることで、実際にはできることがあまりにも限られている。(小)
- ・事務職員の仕事は在宅勤務が難しいことがわかった。※同様の回答2件(小2)
- ・学校現場の業務の多くが個人情報を含んでおり、在宅勤務との相性が悪い。(中)
- ・在宅勤務できる環境が整っていない。(中)
- ・在宅勤務や年休を利用して、週3日程度の出勤であったが、仕事量に合っていてとても良かった(正直毎日することがなく困っているので)。(小)

共同実施

- ・コロナの影響でほとんど会議、研修が中止になっている状況でも、共同実施は毎週行っている。そんなにまでしてやらなければいけないものなのかと思う。グループ長と他の2名の印をもらわないと手当の認定ができないというやり方はそれでいいのか。はんこ決裁をやめて、電子決裁を進めることを考えるいい機会であると思う。セキュリティのきちんとしたメールやサーバの活用で集まらなくてもグループ長の決裁をもらえるよう考えなければいけない。(小)
- ・4月から5月にかけては、共同実施会議を開催しづらい状況であったため、市町の共有フォルダやメール等を利用して書類の相互チェックや各種連絡等を行った支援室が多かったと思います。このことにより、出張して集まらなくても共同実施に関する業務を適切に遂行でき、事務の効率化にも繋げることができると感じた方も多いのではないのでしょうか。地区事務研や佐事研についても同様に、集まらなくても効果的な研修・研究体制を整備できるのではないかと感じています。(中)

教員の負担軽減が必要

- ・文科省は、現場に判断を委ね過ぎだと思う。感染症対策も丸投げしていると思う。これは感染症対策だけではなく、常に感じてきたことだが、コロナ禍によりさらに顕著に感じた。現場の教員は、先行きの見えない不安と、感染症対策の職務の増加に疲労困憊だ。学校が再開し、学校ごとに対応が求められていて、教員への負担が大きい。(小)
- ・休校中は教職員みんな残業することがなかった。やはり超過勤務は心や体に悪影響ということをもっと体験した。(中)
- ・休校中は勤務時間で退勤できていたが、児童が登校すると退勤時間は勤務時間終了2～3時間後となっているので、授業準備や保護者への対応、消毒作業に時間がとられている。消毒作業だけでも外注できたり、授業のサポートをするスタッフがいたりすることが必要と感じている。(小)
- ・休校になったことにより、普段の先生たちが激務であることをあらためて感じた。学校再開してからの消毒等の業務増もあり、働き方改革が急務である。(小)
- ・休校中は時間にゆとりがあり、学校は本当にブラックな職場だと思った。先生達働き過ぎです。(中)
- ・コロナ以前の教員の勤務があまりに殺人的だった、ということが浮き彫りになった(休校中はほとんどの教員が18時過ぎには帰宅できていた)。学校が再開し、働き方としては、コロナ以前より忙しくなっていると見て取れる。災害下のため仕方ない部分もあるが、今だけの限定的状況ではないため、継続的・持続的に行っていくためにはどうすればいいのかを学校全体で考えていく必要がある。また、時間短縮のために、モノを使用することでそれが叶うならば、事務職員としては全体の予算を遣り繰りしてそうした便利道具を使えるようにするのが良いと思う(たとえば大きな学校であれば、紙折機や丁合機があると全校配付の用紙作成の際の時間短縮になるし、プリンター、コピー機、電動裁断機、電動ホチキス、電動パンチ、ラミネータなどは複数あると必要となときに一斉に使用でき、最終的に時間短縮に繋がる)。(中)

学校の意義や重要性を再認識

- ・学校が、学習(読み書きそろばんから科学・芸術・体育まで多岐)のみならず、給食や部活動、学校行事等、子どもたちの社会生活・日常生活の場であることはもちろんのこと、子どもたちが安心して学校に通えることで、保護者が安心して働くことができ、社会が円

滑に機能することを再認識した。(中)

- ・学校職員としてだけでなく、一保護者として感じたことは、学校の大切さや授業(勉強)の重要性、子どもにとって人々との関わりは人間形成に必要であると感じました。また、学校の先生方が日々多くの子どもたちを育て、成長させてくれていることに対して、あらためて敬意と感謝を感じました。(小)
- ・休校中は保護者が子どもに勉強を教えることがあるが、子どもがなかなか理解しなかったり、集中力を保たせるのが難しいなど、教えることの素人(親)として「教える」ことの専門性を実感した。また、理科の実験や教材教具を使用した授業により子どもの興味関心を持たせることができる。あらためて学校で学ぶことの意義や教育環境を整備することの重要性を再認識した。(中)
- ・「学校」の存在の大きさ(生活規律、食事、精神安定等も含め)…生徒たちにとっても、保護者にとっても、もちろん、教職員にとっても…。※同様の回答2件(中2)
- ・児童の居場所としての「学校」の存在の大きさにあらためて気づかされた。(小)
- ・子どもの体力向上に学校は大きな影響を持っていることがあらためてわかった。(小)
- ・子どもの運動能力が落ちたようだ。(小)
- ・3カ月も自宅にいると体力が低下し、骨折が増えるという実態から、成長期の3カ月の行動自粛の影響の大きさをつくづく感じた。(中)
- ・現代における学校の重要性(?)。(小)
- ・子どもが登校できない状況が、通常どおり勤務する保護者の仕事に大きな影響を与えていること。(中)
- ・社会において、学校がもつ影響力の大きさを認識した。(小)
- ・社会全体で考える学校の果たす役割の大きさ。(小)
- ・わが子が自宅待機になる中で、学校生活がいかに必要かを感じた。とともに、安心して通わせられる学校であってほしいと感じたのも事実であるので、自身も教職員の一人として保護者が子どもたちを安心して通わせられる学校づくりを常に心がけていきたいと思った。(小中一貫)
- ・自宅待機になり、わが子と家で過ごすなかで、保護者が学校に何を求めているかがわかった。(小)
- ・共働き、核家族化により昼に子どもの面倒を見る場がないことの大変さ。(小)
- ・市内のどこの学校でも休校明けに当校しほりや不登校傾向が増加しているとのこと。学習の場というだけではなく、子供たちに規則正しい生活を送らせるためにも学校はやはり大切なのだと思った。(小)

家庭学習について

- ・学校でしかできない(経験できない)ものとオンライン上でも可能なことが、より見えてきた気がする(不登校でもオンライン授業には参加した児童がいる等、必ずしも従来の形がすべてではなく、新しい形式の学校の可能性を感じた)。(小)
- ・対面にこだわらないオンライン授業の便利さと、今までの授業スタイルの組み合わせによる相乗効果。(小)
- ・県は、Zoom等によるオンライン授業を授業数にカウントするべきだと感じた。(中)
- ・休校中は宿題のプリントを多く出した。あれだけたくさん出し、一応やってきているのに(やってない子もいるが)、学校が再開すると字が書けなくなっている児童がたくさんいたと低学年の先生が嘆いていた。漢字が書けない子が続出。そして、家庭の教育力の差が歴然とし、上位層と下位層の広がりが大きくなったようだ。「親が子どもに勉強を教えられるか」が如実にあらわれている。(小)
- ・学校が休校になり、ゲームをする時間が増え、視力が低下した子どもがたくさんいた。体重が増えた子どももいた。(中)
- ・それぞれの家庭の学習環境の把握ができていなかったこと。(小)
- ・一人親や共働きの家庭が多いため、時間が合わず双方向のオンライン学習に対応できないという家庭が多くあった(これは子ども用の端末がないなど、環境面とも深く関係している)。また、臨時休業中は保護者に宿題を見る負担が多くかかり、家庭によって宿題の出来に差が出ていた。(小)
- ・就学を保障するというニュアンスの違い。一方的な課題の猛攻に家庭は対応しきれない。学校で実施予定だった単元を家庭でそのまま実施することは困難極まりないと感じた。指導者がいてこそその単元もある。就学を保障する……、学校には「何かをやらせておかねばならないという責任」が第一に表れてくるんだと感じた。家庭との連携を強く推してきたが、共働きやひとり親などに対して必ずしも配慮しているとはいえない状態に疑問が残った(課題は土日にするという不明な状態であった)。(中)
- ・子を持つ母の立場と学校職員の立場のそれぞれの思いがあることを再認識。たとえば、休校中ほとんどの学校が家庭で行う課題を出したと思う。学校としては少しでも指導内容が定着するようにとか教科書の内容を進めるためとか家庭学習の充実等の意図があると思うが、家庭の立場で考えると家庭で多くの課題をさせるのもなかなかスムーズにいかないことがあり、かといってほっておけない。課題をするだけでその単元は終わってしまうのかという不安…とそれぞれの相まみえない思いがある。そこをどう解消するか。(小)
- ・子どもは家庭だけでは健やかな成長は難しい、学校、地域、行政が一緒になって育てていかなければならないと強く感じた出来事があ

った。(小)

- ・休校中の本校の対応と自分の子どもの学校や他市との対応の違い、あるいは事務室で行われている担任の健康観察の電話を聞いていて、親がどこまで子ども勉強を見れるか、家庭の教育力により教育格差が生じることを実感した。子どもの学びの保障についてあらためて考えさせられた。(小)
- ・学校が当たり前開校できることの意義を保護者にもわかっていただき、学校任せにせず、しっかり睡眠をとらせ、しっかり栄養を取らせ、宿題もやっているかを確認して、学校に送り出してほしい。(中)
- ・休校中、昼夜逆転している生徒や課題がはかどらない生徒もいる様子が見られた。一方で、昨年度まで長欠だった生徒が休校を利用して定期的に登校してきていたり、オンラインでの学習を進めているなど、頑張りがみえることもあった。学習の仕方やペースには、それぞれにあったやり方があることがわかった。また、1年生は特に、休校や分散登校等で一斉に顔をあわせる機会も乏しく、人間関係がやや心配に思った。2、3年生は、電話で昨年学年クラス、担任を言ってしまうなど、進級したことの実感がわいていない生徒も見られた。切り替えるタイミングが無かったため致し方ないと思った。学校生活は、儀式的行事もあるが、それらが子どもたちの意識の切り替えに寄与している部分はあると感じた。(中)
- ・学びの保障と命の保障のバランスの難しさ。(中)
- ・分散登校の時、不登校生が学校に来ることが多い。一斉登校が始まったら不登校に戻る。不登校生は学校がイヤなのではなくて、40人学級にしんどさを感じているのでは？(多くの学校で同様の状況があり、同様のことを感じているとの情報有)。(支援室)

家庭との連絡について

- ・情報が行き届かない可能性を感じた。手紙を配付するにも数週間に一度、Webサイトを更新しても確実に見るとは限らない、一斉メール送信も受信者がいるなど、情報発信や共有に課題を感じた。併せて、分散登校などで子どもが多いとパターンも多くなり親は混乱する。共働きで、小学校3年生がひとりで午後からちゃんと登校できるのか…など不安なことも多い。(中)
- ・休校中は学校の情報を得ようと、職員や保護者がHP、メール配信などをきちんと見ているようだった。今後はプリントの配付だけでなくメール配信を基本とすべきかも。(中)
- ・教員が各家庭に週1回の電話連絡をしていたがつながらず、担任や学年職員退勤後に折り返しがかかってくることもあった。教職員は定時退勤を目指す方が多く、休校を通して勤務時間を意識する習慣ができたと思う。しかし、各家庭からは時間外に連絡がくることもあった。これは、これまで部活動終了後(=時間外)に家庭連絡を行っていたことにも要因があると感じた。日中、電話が鳴っても出ない子どももいるのかもしれないと思った(安全上の理由か?)。また、父母の携帯にかけられる場合でも仕事のためつながらずらい家庭も数件あったように見えた。虐待や家庭環境の変化等の早期発見のために、電話で子どもの声を聞く、生活の様子を聞くということも大切ではあるが、電話以外の方法もあると良いと思った(オンライン学習のコメント機能の活用など)。子どもたちにとっては、電話で、家の人がいる場所では、伝えることもあった。(中)
- ・生徒や保護者からの問い合わせでは、課題やオンライン学習について(アクセスできない、PWを忘れたなど)が多かった。バージョンアップによるリンク先の変更や学校PWについては事務室から伝えられたが、個人PWはわからないため、学年職員につないでいた。(中)

少人数学級のよさを実感

- ・分散登校により20人授業を行ったが、これくらいの人数が子どもにも教員にもいちばんいいと実感した先生が多かった。(小)
- ・分散登校時のクラス半分程度の授業は、多くの教員がこれくらいだと目が行き届いてすごくいい!と言っていました。少人数もこれくらいで実施してほしい。(中)
- ・やはり授業を行うにあたり、1クラス25人程度が最もやりやすいし、ソーシャルディスタンスも確保できると思った。クラスの人数の見直しをしてほしいとあらためて感じた。(小)
- ・分散登校によって、少人数指導の良さを実感。(小)
- ・1クラスの人数がやはり多過ぎる。(小)
- ・9月入学の議論よりも30人学級の早期実現が議論されるべきであった。コロナ禍の中では1クラス20名が適正である。(小)
- ・少人数で授業を行っていたほうが一人一人の児童の様子が細かくわかり、児童支援COと担任と保護者のコミュニケーションも円滑に進んだ。(小)

ICT環境等の未整備

- ・オンライン授業が騒がれていたが、ネット環境やICT関係の整備が整っていないことがわかった。無線(Wi-Fi)がつかない教室があったりして不便を感じている。(中)

- ・ICT機器（タブレットやネット環境等）の整備が学校関係は遅れていると感じた。（その他）
- ・オンライン学習できる環境がどれほど整っていないか。（小）
- ・GIGAスクール構想の現実化が加速した。（小）
- ・ネットワーク、端末等の必要性。（小）
- ・教諭のICT技術向上のための研修がどうしても必要。（小）
- ・ネット配信の難しさ。（中）
- ・現在の学校はテレワークの環境ではない。またオンライン授業をする設備がなかった。（小）
- ・学校でも電子黒板などの導入が進み、ICT利活用が進んでいると思っていたが、企業のテレワーク対応状況をニュースでみるとまだ遅れていると感じた。（中）
- ・市のセキュリティポリシー等によりオンライン授業をそう簡単にはできないこと。（小）
- ・私立の小中学校は、4月から全員オンライン授業を受けていると聞いた。公立の小中学校は、休校の間は「プリント等の配布」「登校児童は預かるのみ」。休校に向けての間は「分散登校」。このようなところに教育格差が生まれるのかと感じた。（小）
- ・公立と私立、あるいは都市部と周辺部の学校・家庭のICT環境の格差。その格差による「学習の機会均等」の危うさ。（中）
- ・個人用のタブレットの配布が望ましい。（中）
- ・家庭のネット環境の整備、タブレット型パソコンの整備を行う必要があることを感じた。（中）
- ・保護者はICT環境の整備に興味関心が高まっており、学校からのお知らせもメール配信を望む声が出てきている。（小）
- ・学校から各家庭に電話をかける際に回線や台数が全然足りないため、電話の順番待ち状態になっていることが多く、通信環境のさらなる整備が必要だと思った。（小）
- ・ICTを利活用する話題が出た際に、教員間での情報教育への関心・理解に差を感じた。（中）
- ・職員室以外では事務作業ができない（校内に無線LANがない、デスクトップパソコンのため持ち運び困難）。（中）

3密回避、ソーシャルディスタンス確保の難しさ

- ・子どもは「密」が大好きで、距離感を考えながら過ごすのが難しい。（小）
- ・3密を避けながらのコミュニケーションの難しさ。（小）
- ・30人以上ではそもそも教室が狭すぎる。（小）
- ・学校は3密になりやすい環境である。（中）
- ・校内の動線が狭いので、必ず密が発生している。（小）
- ・「新しい生活様式」を学校で実践することの難しさを痛感。特に給食の時間は、食べる際の机の配置から、給食室へ給食を取りに行ったり食器を戻す際の3密対策（時間差で行かせる、教員が階段で足止めするなど）、配膳方法への配慮（配膳係のみ食器に触れるなど）、食前の手洗いや食後の歯磨き指導も時間差で…など、実施にあたってのハードルが高く、教職員への負担が大きい。（中）
- ・教室が狭いので間隔を取り難い。机の規格も大きくなっているので余裕がない。（小）

地域との関係について

- ・地域の方々がアルコールスプレー、アルコールジェル、マスク、ウエス、非接触型体温計の寄付をしてくださった（中学校1校・中学校区の小学校3校の計4校に）。また、地域の子ども食堂が肉まんやお弁当の無料配布を行ってくださった。地域のつながり、人のつながりを感じた。（小）
- ・地域の方たちにたくさんの支援をいただいていたこと（校内パトロールなどで日常的に地域の方が校内にいらしたのですが今はそれもなく、職員だけでは手薄）。（小）
- ・地域住民からの問い合わせでは、子どもがマンションの共有スペース等で集まり騒いでいて迷惑なので注意しに来てくださいという電話が多かった。教員が見回りにも行っていたが、電話は絶えなかった。苦情の電話をいただいたときに、謝罪のほかどうしたらよいのか…とも思った。（中）

給食のありがたさ

- ・給食のありがたさをあらためて感じた。（小）
- ・給食のありがたさ。生徒、職員、保護者、みんな助かっていたことに気づいたはず。開始後、無言で食べなければならないのは、見ていて苦しいが。（中）
- ・給食のありがたさ。一時期、温食を準備できず、「牛乳・パン・豆腐ハンバーグ」のみ等の残念な献立が続いた。（中）

その他

- ・東日本大震災の時のように、「何が大切か」をあらためて考える機会となっている。事務職員同士、地区の事務研や共同実施で会える回数は減ったが、メールや電話で助け合う回数は増えている。校内でも、行事等さまざまなことが変更になったことで、教員と予算の使い方や、保護者負担の軽減について話す機会が増えている。「話す機会が増えて合意を形成しながら進めていきやすいこと」「前年踏襲ができないことで、見直しのチャンスが生まれること」を生かしながら仕事を進めていきたい。(中)
- ・色々なことの「例年どおり」が通用しなくなり、臨機応変に対応しなければいけなかったため、職員同士が話し合う機会が多く、学校として団結が深まった部分もあったように思う。(中)
- ・学校職員の団結力というか、協力しようとしてくれる姿勢が、あらためて嬉しかった。(小)
- ・サポートスタッフ(校務支援員等)のコーディネートの重要性(コロナ禍によりサポートスタッフの任用期間延長や増員がなされているが、学校の職員がきちんとコーディネートできないと教育活動に反映できない)。(支援室)
- ・感染症予防対策が学校任せである部分が多いなか、物品の購入情報などを事務職員会内で共有し、工夫しながら準備をしてきた。事務職員の情報収集力に気づかされるとともに、横のつながりの大切さを感じた。(小)
- ・感染症予防対策が全て学校ごとの対策となるため、予算等を通じて事務職員として学校運営に携わる場面が多い。学校現場に事務職員が配置されているからこそ、さまざまな提案や迅速な対応が可能であると思う。(小)
- ・夏季休業期間の短縮による夏休みの課題再検討や校外学習・修学旅行、行事等の再検討においては、これまで以上に事務職員の意見が求められている(預り金の執行計画・集金額の変更に伴い保護者への説明が必要となることや、キャンセル料等の扱いをどうすれば良いかの判断材料が必要となるため)。(支援室)
- ・事務職員同士の情報交換や地教委の説明会等がまったく行えていない状態で、今後の財務等に力量の差が生じていく。また、アフターコロナは要・不要の選別の時代に入ると言われている。今回の事例で事務職員が対策や学校でどれほど力を発揮したかで、事務職員会・共同実施・事務職員の職など選別されていく時代に入っていくと思うようになった。(中)
- ・学校で緊急時にすぐに執行できる予算がないと不便であると思いました。議会や補正予算を通さずに執行できる緊急時予算(緊急時なので使われず繰り越してできる予算)等の確保ができればと思いました。(小)
- ・せっかく校長以下全職員が知恵を絞ってカリキュラムマネジメントを実践し時数確保を行ったが、結局夏休みを短縮することになり、その努力は水泡と帰した。市教委の意思決定不明瞭さから、教員の行政に対する強い不信感が残った。(小)
- ・学校は県教委・市教委の指針を基に動くことが求められると感じた。毎日、県の感染者数や検査数を確認して登校の有無を判断するという保護者もあり、かなり意識が高いがゆえに、それを学校へ求められることも予想される。事態が緊迫した時の学校の対応は常にコンプライアンスが求められると考え、自分自身の常識的な考えや思い込みで行動しないよう心掛けた。(小)
- ・職員会議等で経験や年齢に関係なくもっと自由な発言があるといいと思った。いつもは前年踏襲やベテランが発言して決まることが多い。そういった習慣が今回のような状態では全く役に立たなかった。若手は完全に受け身になっている。児童生徒に身につかせようとしている主体性は自分たちにはないようだ。(小)
- ・管理職との普段の信頼関係づくりができていなかった。仕事に関係することなのに校長会などでの決定事項を教えてくれないことが多い。他校同業から先に情報が入る。(小)
- ・事務職員から提案できることは積極的に提案していくことが大切。(小)
- ・災害発生時において、世間の公務員に対する評価は厳しくなる。自粛解除後であっても懇親会などの開催はよく検討しなければならない。(中)
- ・コロナ倒産・コロナ失業のニュースを見るたびに、公務員は恵まれていると感じる。(中)
- ・会議や飲み会がなくなったため対人ストレスがなくなり、睡眠障害が軽減した。(小)
- ・学校にコロナ対応の問い合わせがほとんどなかった。のちにPTAが壁となっていたことがわかった。学校とPTAの連携が取れていると情報がスムーズに保護者にいきわたる。(小)
- ・道徳や人権教育の重要性(コロナウイルス感染症に関する不当な差別・偏見について)。(支援室)
- ・長く臨時休校だったせいもあり、生活習慣が戻っていない子が思っていたよりも多い。(小)
- ・特に長期休業開けで、子どもたちの中にはなかなかリズムをつかめず学校に登校できていない子もいる⇒心のケア。(小)
- ・休校中、支援が必要だと感じる児童が見守り(学校預かり)に来ている。(小)
- ・手洗い、うがいの大切さ。(小)
- ・消毒の限界。(中)
- ・日常の大切さをあらためて感じました。(小)

- ・日頃の健康管理。(小)
- ・家族の感染防止、自分自身の体調管理が、職務を行う上で大切だという事にあらためて気づいた。(中)
- ・ウイルス対策を入念に行うことで、今までいかに危ない環境であったか気づかされた。(小)
- ・みんなで手洗いや消毒を行うことで、コロナ以外の伝染病も減っているように思う。(小)
- ・新しい生活様式や衛生に対する意識改革。(小)
- ・休校中の環境整備や毎日の消毒作業により、学校内が整理整頓され、清潔な状態になった。(小)
- ・日常の清掃と清潔を保つこと。(小)
- ・先生方が学校の環境整備に目を向けるいい機会となり、職員作業で資料室等の片づけや生徒用機の天板張替えを行うことができた(職員作業は、少人数で参加時間も人によって異なる)。(中)
- ・感染予防の物品が手に入りやすくなったとき、そうなる前にある程度の準備しておくべきだと思った。情報収集と先の状況を予測し早めに見通しを立てて行動することが大事であると感じた。(中)
- ・日頃から想像力を働かせ、備えをしておくことの大切さ(物品)。(小)
- ・なるべく在庫を持たないよという意見もあるが、在庫は危機管理であると思った。コロナ禍で色々な物流の混乱がある中、そう感じた。(小)
- ・歓迎会や懇親会などがなくなり、職員室と事務室のコミュニケーションが例年のように取れなかったのが、新しく転任してきた先生との接点が少なく、扶養関係の手続きが遅れたことがあった(本人の申請がなく、あとで気づいた)。今回、聞きやすい、話しやすい、相談しやすい、意見を言いがやすい等々、の関係はとても大切だと感じた。あらためて、一人ひとり的確なアドバイスができるように、研鑽を積まなくてはいけないと思った。(小)
- ・休校中閑散としていた学校が、生徒たちが戻ってきて活気づいた。やはり主役は生徒たちであることを再確認させられた。間接的ではあるかもしれないが、生徒たちの力になるような仕事をしなくてはいけないと感じた。(中)
- ・生徒に会うことにより、職員も元気をもらっていたことを実感。気持ちの張りが違った。(中)
- ・児童が学校にいないときの教員と事務職員の温度差…。在宅勤務を「休み」と言う、在宅勤務なのに連絡がとれない、など。服務規律に疎い？(小)
- ・今年は職員の歓迎会や行事の打ち上げ等もなく、中には悩みがあっても打ち明ける場もない人があるかもしれない。(小)
- ・職場の歓迎会等の懇親の会が開けず、あらためて組織の基盤である人間関係づくりの必要性を感じている。(中)
- ・人とのコミュニケーションの大切さ。(小)
- ・リモートではなく、実際に会ってコミュニケーションをとることの大切さ。(小)
- ・教職員とこれからの授業で使用する教材の検討や感染予防について話をしているが、普段のコミュニケーションがいかに大事か再認識した。(小)
- ・事務職員が顔をあわすことができなくなり孤独を感じた。(小)
- ・ICT教育について行けない場合の教員のしんどさ。(支援室)
- ・学校HPの充実。(支援室)
- ・本当に生徒の体のことを考えて対策を考えているのか、世間に対してのパフォーマンスに過ぎないかわからない取り組みがある(たとえば、部活動自粛期間の自主練習は許す、とか) 昼休みのぐちゃぐちゃに揉まれるバスケットは許可するとか…。本当に、感染を避けるなら、してはいけないことのように思うが、イマイチ意識が甘い。(中)
- ・級外職員との給食時に、マスクを外している間は会話をしないようにしているが、食事の際に会話がいないというのは、とても寂しいものだと感じた。(小)
- ・大勢の児童が同じ方向を向いて、静かに給食を食べているランチルームは異様な感じを受けている。あらためてランチルームは何のためにあるのかと思った。(小)
- ・コロナ対応の運営委員会が適宜行われた。時間配分や子どもの動線など、普段子どもと接してきた先生方だからこそ気がつくことがたくさんあり、すごいと思った。4月当初は会議と締め切りに追われ大変だったが、運営委員会を通して学校としての考えやさまざまなプランに触れることができたのは良かった。物品購入の情報を得る機会にもなった。(中)
- ・行事(入学式・卒業式)や分散登校、学校再開など、初めてのことで大変だったが、教職員の力で乗り切ることができています。もちろん失敗などもありますが、対策を講じて上手にやっています。あらためて教職員の力ってすごいなあと思いました。(小)
- ・密にならないようにと考えたときに、教室の広さが、他校と比べて狭いように感じた。(小)
- ・長期休校となったため、年計を見直すこととなり、要所を押さえた効率的な授業を展開しようと先生方が指導方法の工夫を今まで以上にしている様子が見受けられる。(小)

- ・休校中、あまりにも学力ばかり気にしている先生たちに驚いた。休校中にしかできない、ソーシャルスキルの課題を出せばいいのに不思議に感じた。(小)
- ・勤務形態の違う職員の雇用確保をどうするか。県費負担か市費負担かによっても違ったので。(小)
- ・緊急事態宣言下において、教員や他の職員達は在宅勤務となったが、事務職員(と管理職)は日々変化する市教委の指示に対応するため毎日出勤せざるを得なかった。(小)
- ・学びと教へのニューノーマルとは何か。(中)
- ・学びの可能性としての、オンサイドとオンラインの融合。(中)
- ・Society5.0の時代が到来するといわれている現代でさえ、疫病対応には妖怪や神頼みとなること。(中)
- ・自粛警察など、暴力的な正義感の怖さ。(中)
- ・ネットの発信力と影響力、デマ拡散の恐怖。(中)
- ・中国製製品の氾濫といかに中国製品に依存していたか。(中)
- ・引きこもりがちな児童生徒の忍耐力のすごさ。(中)
- ・学校、保護者、地域とそれぞれの立場の人間が、子どもの教育を真剣に考えたのではないのではないか。(小)
- ・今回のコロナ禍におけるさまざまな課題解決は、ほぼ教育で乗り切れるのではないかということです(いや乗り切るべき)。感染対策に物品は必要であるが、物には限りがある。手洗いにしても、ゴミを扱うにしても、環境整備にしても、アルコールやせっけん、ビニール手袋等の物品がそろっているに越したことはない。先生の徹底した管理もあることに越したことはない。が、これらのもの、ことは、一人ひとりが現状を認識し、自分のために、人のためにどのような行動が望ましいかを考えた行動、そして、かかわる人々、教職員、児童、保護者、地域が状況を共有し理解することができれば、必要度は下がってくる。あるいは必要なくなってくる(ほかの代案も出てくる可能性が高くなる)。最近の社会の現象として、安全確保や不安解消は物を買う、行動を増やす、ルールを増やす等の「盛り」で対応する傾向がみられるが、逆にシンプルに考え、一人ひとりが目的を理解し、行動することによって、その「盛り」をなくす。そしてそのことは、社会的なさまざまな忙しさを減らすことにつながり、資源、お金(国債等)、労力等の節減につながり、社会のリスク軽減になる。もの等に頼らないということは、持続可能性が高まる。そうすると、災害等の非常事態においても(今もそうであるが)、リスクは下がる。これらのことから、今必要なは物ではなく、「教育」である。今の現場の視点、行動が、子どもたちの今後の指針となり、今後の社会に影響してくると考えると、やはり社会と教育はつながっており、教育は社会を変える力があると実感する。コロナ対策は「今」だけの取り組みではなく、子どもたちがそれを良くも悪くも吸収し、その「今」の取り組みが、今子供、将来大人という人を通して、未来を創ると考えると学校現場のコロナ対応は、非常に重要である。今回のコロナを通して、教育の在り方、重要性をあらためて考えた。(小)

Q6 休校前・休校中・学校再開後に、事務職員として「事務だより」などで、児童・生徒、保護者、教員に向けて何か情報発信をしましたか？ それはどんな内容ですか？（自由記述）

就学援助制度の案内等

- ・就学援助の案内を、カラー用紙に印刷して全保護者に配布した。（小）
- ・就学援助のお知らせ（8カ国語に対応）を発信。（小）
- ・保護者に向けて、就学援助制度についてあらためて周知を行った（年度途中など随時の申請が可能であること、お困りのことがあれば、ぜひ相談して欲しいということなど）。（小）
- ・学校再開後（5月後半）に、就学援助のお知らせを再度行った。（中）
- ・学校再開後、前年度の就学援助認定者で、今年度否認定になっていた家庭の保護者に対し、再申請を勧める連絡をした（コロナ禍の特例で、6月末までに申請し認定されれば4月にさかのぼって認定できるようになったため）。就学援助の認定・否認定にかかわらず、HP等を利用して全家庭に広く再周知のお知らせをすればよかったと思っている。就学援助について一般的なことはHPに掲載しているが、コロナにより収入減の家庭もあったはずなので、この機会に再周知をすべきであった。（中）
- ・就学援助申請や副教材の販売についてなど、庶務的なことで保護者から質問があった際の回答先の一本化や簡単なQ&Aメモの作成と配布を行った。（中）
- ・教員に対して、失業者や収入減など、家庭状況に変化がある家庭について情報を共有したいことや、就学援助の申請について柔軟に対応する旨、国から通知が来ていることなど。（中）
- ・コロナによって金銭的に苦しくなった家庭に対する就学援助（コロナ援助）等の提示。（小）
- ・休校中、共同実施組織で組織内学校のWebサイトを通じて「家庭向け事務室だより」を発行（就学援助制度について）。（中）
- ・「給食費・諸会費集金のお知らせ」に、就学援助制度を紹介する一文を入れた。（中）
- ・就学援助と徴収金に絡んだお手紙。（小）
- ・給食費集金と就学援助について、メールと学校HPを通じて情報発信。（小）
- ・例年7月に出している保護者向けおたよりを4月に発行（就学援助について）。（中）
- ・保護者にメールで就学援助申請の督促をした。（中）
- ・就学援助の申請について（申請期間の延長について）。（小）
- ・就学援助の申請期限間近に再度学校メールで発信してもらった。（小）
- ・近々、「家庭向け事務室だより」を発行する（例年の内容に加えてコロナ対応就学援助制度を詳しく）。（中）
- ・まだ出せていませんが、夏休み前には就学援助制度のことなどを載せた家庭向け事務室だよりの発行を考えています。（小）

集金のお知らせ等

- ・給食費や教材費等の集金について、保護者へ通知文を発送した。（小）
- ・給食費徴収の変更について2回案内した（4月末・6月中旬）。（小）
- ・ホームページや一斉メールで学校徴収金についてお知らせをした。市からの補助等があることもあわせて掲載。（中）
- ・副教材費の予算書と集金のお知らせをWebにも掲載。（中）
- ・諸会費の引落金額および時期の変更（8月も給食があるため）を発信。（小）
- ・学校徴収金の徴収と返金について、原則は年度末の返金とするが、保護者の要望に応じ柔軟な対応を行うことを周知。（小）
- ・3月の休校に伴い突然給食が実施されなくなったが、休校が判断された時点で給食費は徴収済み。在校生には返金せずそのまま預かって給食を再開した時の費用に充てる旨を各家庭に周知した（卒業する3年生には現金で返金）。（中）
- ・PTA総会が開催できないため、今年度の校納金の徴収計画や徴収日時についての資料を保護者に配付。あわせて教員向けにも校納金の取り扱いや未納時の対応についての資料を配付し、説明。本村では児童生徒の今年1年間の給食費を全額補助していただけることとなり、たいへん有り難かったのですが、それに伴う徴収計画の見直しを短期間で行わなければならず、少し大変でした。（中）
- ・小学校の給食費集金に関するお知らせ（休業期間中の給食費の扱い）が委員会作成の事例は保護者の理解が得にくいいため、学校で作成。（支援室）

新型コロナ情報を発信

- ・新型コロナ情報を随時提供した。（小）
- ・コロナ関連の情報は日々更新されていたので、教職員がそれぞれ別個に情報発信をするのではなく、情報を教頭に一元化して学校とし

て発信した。紙文書や電子等で届くそれらの整理・保管・担当者区分け等を事務職員が行った。(中)

- ・教員から、感染症対策や指導に必要と思われるものを出してもらった。(小)
- ・「厚労省Webページより 0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方」の掲示。(小)

Webアンケートの実施

- ・休校中、保護者へのアンケート(生徒の生活の様子、保護者の思い)を採るに当たり、Googleフォームでの実施を提案した。(中)
- ・休校中、校内(一部教員)でコロナ禍における学校の在り方と可能性を討論したあと、SWS P (Shimin Wakuwaku Start Project)の立ち上げを提起。休校中の保護者へのアンケートの実施提案や、Zoomの体験会実施、分散登校時の生徒の様子の共有、休業中の課題へ対する返信の工夫など、各学年へ呼びかけた。(中)
- ・学校再開後、各家庭のICT環境などの調査について、Googleフォームアンケートの活用を提案。作成・集計も担った。(中)
- ・PTA役員会でWebアンケートを紹介した。(小)

教職員に向けて

- ・休校中、教職員に対して、コロナに伴う勤務・在宅勤務についてまとめた事務だよりを発行した。(中)
- ・「新型コロナウイルスに関するサービスFAQ」として、新型コロナウイルス関連の職免・休暇や在宅勤務中の取り扱いをケースごとにまとめたもの。(養護学校)
- ・在宅勤務について(申請手順や注意事項について)。(小)
- ・職員向けに、在宅勤務や時差通勤等の入力方法を発信。(小)
- ・特休の申請方法等C4t h(校務支援システム)で回覧をするなどして発信した。(中)
- ・子育て世帯に対する給付金の案内(職員向け)。(小)
- ・教員向けに、他校の対策事例や学校再開後の教育についてネットや書物からの情報を事務だよりに掲載。(小)
- ・職員に対しては連絡会や職員会議等で、校内の消毒方法や手順の説明や、マスクやフェイスシールド着用時の注意喚起(熱中症や外傷について)。換気のやり方、エアコンはどンドン使用するように(光熱費は気にしないように)伝えた。(小)
- ・職員向けに「就学援助の申請事由にコロナによる家計急変が追加されたこと」「職員や家族に発熱等の症状が出た時の特別休暇」などのお知らせをした。(小)
- ・打合せがなく、異動してすぐにコミュニケーションを取る場や周知方法がなかったので、事務だよりを4回発行した。通常時のお知らせ内容に加え、臨時休校関連については教職員向けに、①休校前に在宅勤務の際の申請方法、②休校中に就学援助費の臨時休校中の対応と学校名入り封筒の在庫や使用方法について周知した。(小)
- ・在宅ワークでは、あまり事務処理ができなかったため、事務便りを作成した。作る事務職員も読む教員も普段時間に追われているので作ってみた。コミュニケーションツールとなった。(中)
- ・教員向けに、おたよりを発行(いつもやっていますが)。コロナについてコラムを書きました。(中)
- ・教員に対して、国の補正予算の内容、市教委から配給される衛生用物品について。特に管理職や養護教諭には常に必要な情報をお伝えしている。(中)
- ・コロナ対策のための消耗品の購入相談。(小)
- ・コロナ対策だからと、水も電気も使い放題になってしまうように、節約や効果的な換気の仕方についての事務だよりを2号出した。(中)
- ・教員に対して、夏季休業が短くなるため、光熱水費が例年より高くなる恐れがある。ただし、熱中症の危険もあるため必要なところは使用してもらい、消し忘れ等の無駄をなくす使い方について周知した。(中)
- ・校外学習等が延期され、コロナ対応をして実施できるように対応策を考えて情報提供しています。「GoToキャンペーン」を教員は知りませんので、これを利用することで、保護者の負担を増やすことなく、「移動の密を避ける(バスの増便)」ことを提案しています。中学校は旅行業者に手配を依頼しますので、この手続きはお願いできますが、小学校は直接バス会社と契約しているケースが多いため、区内の小学校への周知を考えなければならないと思っています。(小)
- ・「G Suite for Education」導入前から、教職員(老若男女)の間に入り、Googleサービスを活用して、教職員同士の情報連携や情報発信の支援をした(その支援自体もビデオ会議を活用)。なお、当校の学習補充サイト(本校ホームページからリンクあり)の各学年のページは、各担任の先生が自分で作っている。(小)
- ・事務だよりでは、教員向けに毎月の職員会議で情報発信をしています。生徒がいなくなるときの備品チェックをしてもらったので、備品に関することや公費と私費の違いなどを掲載しました。(中)
- ・教員・生徒に対し、アルコールで手指を消毒する際、床に垂らすと床のワックスと反応して白濁状態になってしまうこと、消毒液をつ

けすぎたり歩きながら摺り込むと床に落ちるため、適切なアルコールの使い方を昼の校内放送で呼びかけた。(中)

- ・「感染症対策・学習保障等支援費」(国の第二次補正予算を受けて金沢市教育委員会が創設。学校長の裁量で執行。小中ともに児童数600人以上の学校に60万円、児童数600人未満の学校に30万円)の消耗品・備品購入費の購入希望について。(小)
- ・「事務たより」の形式ではないが、職員全員や該当者に情報や提出物のお知らせを出した。(小)
- ・物品購入の流れや備品購入の情報、印刷機などの取り扱いのお願いや、各提出書類など。(小)
- ・教員に学校予算要望書の提出依頼をした。(中)

保護者に向けて

- ・毎年、年度始めの「PTAだより」は教職員の顔写真(コメント付)が載ります。今回は次のようなコメントを添えました。「今年度は例年と異なる集金計画を考えました。今後もフレキシブルな対応を心がけ、予算面から支援していきます。」と。字数が制限されているので、思ったことの何分の一しか出せませんでしたが、いつもと異なる状況であっても事務職員として対応していきたいという気持ちを少しは出せたかな…。(小)
- ・ホームページに、保護者向けの各種お知らせや学習課題、学校でのコロナ対策等の情報を掲載した。(小)
- ・学校だよりは生徒が登校した6月にやっと配布。新しく赴任した先生方の写真や入学式のこと、学校長の言葉を掲載。(中)
- ・保護者宛のオンライン教室の案内を作成した。(小)
- ・保護者向け事務だよりは、そろそろ作成予定。(小)

子どもたちに向けて

- ・手洗いの際に、石鹸で洗う時間が長くなった分、「石鹸で洗う間は、水を止めよう」「石鹸で洗った後は、蛇口も石鹸で洗っちゃおう」というような掲示を各手洗い所に、20秒間に流れる水の量を示すなどして節水の協力をうながす。(小)
- ・児童向けには、新1年生の学校探検で事務室見学ができず、教員が動画を作成したので、それに合わせてホームページでも事務室紹介を載せた。(小)

その他

- ・「事務センターだより」で、事務センターでリモート(Zoom)での研修を行ったこと、Zoomに興味ある方は事務職員にお尋ねください、といったこと。(中)
- ・6月1日(月)付で「学校再開に伴う感染症対策・学習保障に係る必要物品の調査(コロナ関係の予算措置に対する調査)」があり、6月5日(金)までに備品・消耗品の予算を校内での要望を取りまとめて提出したが、その際に「学校再開に伴う感染症対策・学習保障に係る必要物品の調査【至急】」というものを職員向けに出しました。共同実施の学区内等でも活用していただきました。購入物品が決まったらまたお知らせする予定。(小)
- ・共同実施事務便りを出した(コロナ関連で必要消耗備品の紹介アンケート、Zoomの紹介、免許更新の延長など)。(小)
- ・共同実施だよりは発行しましたが、今年度の取り組み予定や事務連絡程度で、コロナウイルス対応については特に触れていません。(小)
- ・コロナ禍でコミュニティスクールが本格実施となったため、コミュニティスクール委員会での議論(コロナ対応や今年度の行事について)をコミュニティスクールだよりとしてまとめ、配布した。(小)
- ・地域学校協働本部の活動再開の見通しが立たないなか、どのような形で活動をつなげられるか、ボランティアと一緒に検討している。(小)
- ・重要な内容は用紙の色をかえて目立たせた。(小)
- ・今後発信していく必要を感じています。新たな生活様式ではありませんが、情報発信の重要性をあらためて感じました。(小)
- ・学校運営協議会のメンバーに、4～5月が休校になって学校予算がどれくらい変わったか簡単に紙面で説明した。(小)
- ・情報は日々報道や通知で流れていたため、教員も保護者も消化しきれなかったのではないかと。(小)